

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第14集

埼玉県ふじみ野市

# 市内遺跡群 13

TSURUGAOKASOTO SITE

鶴ヶ岡外遺跡第6地点

HAKE SITE

ハケ遺跡第7地点

NAGAMIYA SITE

長宮遺跡第44地点

2015年3月

ふじみ野市教育委員会





## はじめに

ふじみ野市は、平成 17 年 10 月の合併により誕生した新しいまちです。

新たな歴史を歩みはじめたふじみ野市には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2 万数千年前の旧石器時代から現代までの永い歴史をみることができます。それぞれに特色のある地域の歴史も、一つの大きな流れとして捉えると、改めて各地域の繋がりや関係の深さを感じます。

ふじみ野市は、都心から 30km 圏内という立地条件にあるため、昭和 30 年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きな変化をしてきました。そして今、市内の開発件数の増加とともに、埋蔵文化財への影響も確実に増えつつあります。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。発掘調査の成果は、近年の開発ラッシュに伴う店舗や宅地造成、住宅建設によるものが主体です。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でもふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

本報告書は、国・県からの補助金を受けて実施した試掘調査をもとに、民間の開発事業者からの委託を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した記録書です。将来にわたってこれらの資料を、地域の文化・歴史を学ぶ糧として広く皆様方に活用していただければ幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担と、ご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁・埼玉県教育委員会生涯学習文化財課・市関係各課・調査関係者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼と感謝を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会  
教育長 朝倉 孝

## 例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の、発掘調査3件の報告書である。
2. 本発掘調査に先立ち行った2013(平成25)年度の試掘調査については、総経費12,045,366円に対し国庫補助金(6,000,000円)と県費(2,000,000円)の補助金の交付を受け、2013(平成25)年4月4日から2014(平成26)年3月31日まで実施したものの一部である。民間開発を原因として行った3ヶ所の本調査は、開発原因者から委託を受け、ふじみ野市教育委員会が主体となって行った。開発原因者・委託者は次のとおりで、各発掘調査及び整理事業、報告書刊行に伴う費用は各開発原因者の委託費により行った。






遺跡名・地点名	委託者	協定期間
鶴ヶ岡外遺跡第6地点	医療法人財団 明理会イムスケアふじみの	平成25年11月1日～平成27年3月31日
ハケ遺跡第7地点	代表 村田和子 他	平成25年8月20日～平成27年3月31日
長宮遺跡第44地点	星野 裕	平成25年6月24日～平成27年3月31日

### 3. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	調査担当者	鍋島直久 (2013.4.1～2015.3.31)
担当課	生涯学習課上福岡歴史民俗資料館	庶務担当者	岡 健二 (2013.4.1～2015.3.31)
	文化財保護係		柳澤健司 (2013.4.1～2015.3.31)
教育長	朝倉 孝 (2013.4.1～2015.3.31)	発掘調査員補	越村 篤 (2013.4.1～2015.3.31)
主幹	坪田幹男 (2013.4.1～2015.3.31)	臨時的任用職員	高橋京子 (2013.4.1～2015.3.31)
	文化財保護係長 高崎直成(2013.4.1～2015.3.31)		
	文化財保護係調査担当者 高崎直成 (2013.4.1～2015.3.31)		

4. 本書作成にあたっての作業分担は事実報告及び遺構の執筆を鍋島、縄文土器と古代の遺物の執筆を笹森健一(ふじみ野市文化財保護審議会委員)、中近世の遺物は越村が執筆を担当した。報告書作成全般にわたり、高崎、越村の協力を得た。遺物接合・復元:中田藤子 石器実測:大久保明子 土器実測:石垣ゆき子、大久保明子、鈴木千恵子、松平静 遺構・遺物トレス:小林登喜江 図版作成:青山奈保美、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、鈴木千恵子 遺構写真:鍋島直久、越村篤 遺物写真:大久保明子 放射性炭素年代測定、炭化材の樹種同定、馬の骨の同定に関しては(株)パレオ・ラボに委託した。旧石器時代の石器については、加藤秀之氏(富士見市教育委員会)に御教示を賜りました。記して感謝申し上げます。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。(敬称略) 天ヶ嶋岳、上田寛、越前谷理、大久保淳、大柴英雄、岡田賢治、加藤秀之、神木繁嘉、久津間文隆、國見徹、隈本健介、駒井潔、酒井智晴、笹森健一、佐藤啓子、佐藤良博、塩野敏和、鈴木清、高木文夫、田中信、丹治剛、角田史雄、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓容、堀善之、松尾鉄城、水村孝行、柳井章宏、和田晋治 埼玉県教育委員会市町村支援部生涯学習文化財課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館
6. 発掘調査ならびに整理事業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。  
 〈発掘調査参加者〉(敬称略)明石千とせ、新井和枝、飯塚恵津子、飯塚泰子、壹岐久子、井上晴江、井上麻美子、岩城英子、白井孝、岡良子、荻原雅夫、加藤敦子、鎌田翔、黒岩祐二、川中ひろみ、小池恵美子、坂本民子、佐竹里佳、重田恵子、杉本佳久、鈴木勝弘、関田成美、高貝しづ子、當山りえ、中川圭子、野岡由紀子、野上吉樹、橋本明美、比嘉洋子、平田小百合、深谷美奈子、福田美枝子、松本アキヨ、黛佳代子、望月正一、山内康代、山口隼樹、矢作梓、米田昇三、若林紀美代  
 〈整理事業参加者〉(敬称略)青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、鎌田翔、小林登喜江、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、松平静

## 凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
  - (1)縮尺は原則として  
 遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30  
 土器実測図 1:4 土器拓影図 1:4 石器実測図 1:4、2:3 銭 1:1
  - (2)遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。
  - (3)遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。  
 攪乱  地山(ローム)  焼土  粘土  煤・炭化物範囲   
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○
  - (4)土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
  - (5)土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。
3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会に保管してある。

埼玉県ふじみ野市  
市内遺跡群 13 目次

はじめに .....	i
例 言 .....	ii
凡 例 .....	ii
目 次 .....	iii
挿図目次 .....	iv
表 目 次 .....	iv
写真図版目次 .....	iv
第 1 章 ふじみ野市の遺跡 .....	1
I ふじみ野市の立地と環境 .....	1
II 市内の遺跡 .....	2
第 2 章 鶴ヶ岡外遺跡第 6 地点の本調査 .....	5
I 遺跡の立地と環境 .....	5
II 本調査に至る経過と調査の概要 .....	5
III 遺構と遺物 .....	5
第 3 章 ハケ遺跡第 7 地点の本調査 .....	11
I 遺跡の立地と環境 .....	11
II 本調査に至る経過と調査の概要 .....	11
III 遺構と遺物 .....	13
第 4 章 長宮遺跡第 44 地点の本調査 .....	38
I 遺跡の立地と環境 .....	38
II 本調査に至る経過と調査の概要 .....	38
III 遺構と遺物 .....	42
附編 自然科学分析 .....	59
放射性炭素年代測定 .....	59
鶴ヶ岡外遺跡第 6 地点出土炭化材の樹種同定 .....	61
ハケ遺跡第 7 地点井戸 1 出土のウマ .....	63
まとめ .....	66
写真図版 .....	67
抄録 .....	86

## 挿 図 目 次

第1図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	1	第23図	ハケ遺跡第7地点 J31号住居跡出土遺物②・J32号住居跡出土遺物(1/4・2/3)	32
第2図	ふじみ野市遺跡分布図(1/30,000)	3	第24図	ハケ遺跡第7地点 J33号住居跡出土遺物①(1/4)	33
第3図	鶴ヶ岡外遺跡の地形と調査区(1/10,000)	6	第25図	ハケ遺跡第7地点 J33号住居跡出土遺物②(1/4・2/3)	34
第4図	鶴ヶ岡外遺跡第6地点遺構配置図(1/500)、土層(1/60)	7	第26図	ハケ遺跡第7地点 H14～16号住居跡出土遺物(1/4・2/3)	35
第5図	鶴ヶ岡外遺跡第6地点炉穴・土坑(1/60)、集石土坑(1/30)	8	第27図	ハケ遺跡第7地点集石土坑・土坑・遺構外出土遺物(1/4・2/3・1/1)	36
第6図	鶴ヶ岡外遺跡第6地点木炭窯・遺物出土状況(1/80)	9	第28図	長宮遺跡の地形と調査区(1/4,000)	38
第7図	鶴ヶ岡外遺跡第6地点出土遺物(1/4・2/3)	10	第29図	長宮遺跡遺構分布図(1/2,000)	41
第8図	ハケ遺跡の地形と調査区(1/4,000)	11	第30図	長宮遺跡第44地点遺構配置図(1/400)	42
第9図	ハケ遺跡遺構分布図(1/2,000)	14	第31図	長宮遺跡第44地点 J16号住居跡(1/60)	44
第10図	ハケ遺跡第7地点遺構配置図(1/300)	14	第32図	長宮遺跡第44地点 J16号住居跡土層(1/60)、炉(1/30)	45
第11図	ハケ遺跡第7地点 J31号住居跡(1/60)	15	第33図	長宮遺跡第44地点 J16号住居跡遺物出土状況(1/60)	46
第12図	ハケ遺跡第7地点 J31号住居跡遺物出土状況(1/60)、炉(1/30)	16	第34図	長宮遺跡第44地点炉穴1～6(1/30)	48
第13図	ハケ遺跡第7地点 J32号住居跡(1/60)、炉(1/30)	18	第35図	長宮遺跡第44地点落とし穴・土坑1～13・18・19(1/60)	49
第14図	ハケ遺跡第7地点 J33号住居跡(1/60)	20	第36図	長宮遺跡第44地点井戸1～5(1/60)	50
第15図	ハケ遺跡第7地点 J33号住居跡遺物出土状況(1/60)、炉・集石土坑(1/30)	21	第37図	長宮遺跡第44地点ピット2～5・溝1～3(1/60)	51
第16図	ハケ遺跡第7地点 H14号住居跡・掘方(1/60)、竈(1/30)	23	第38図	長宮遺跡第44地点溝2・5～9(1/60)	52
第17図	ハケ遺跡第7地点 H15号住居跡(1/60)、竈(1/30)	24	第39図	長宮遺跡第44地点 J16号住居跡出土遺物①(1/4)	55
第18図	ハケ遺跡第7地点 H16号住居跡(1/60)、竈(1/30)	25	第40図	長宮遺跡第44地点 J16号住居跡出土遺物②(1/4)	56
第19図	ハケ遺跡第7地点 H17号住居跡(1/60)、出土遺物(1/4)	26	第41図	長宮遺跡第44地点 J16号住居跡③・炉穴・井戸出土遺物(1/4・2/3・1/6)	57
第20図	ハケ遺跡第7地点集石土坑2(1/30)、土坑・井戸(1/60)	28	第42図	長宮遺跡第44地点井戸・土坑・溝・遺構外出土遺物(1/4・2/3・1/1)	58
第21図	ハケ遺跡第7地点溝(1/120)、遺構外遺物出土状況(1/30)	29			
第22図	ハケ遺跡第7地点 J31号住居跡出土遺物①(1/4)	31			

## 表 目 次

第1表	ふじみ野市遺跡一覧表	2	第12表	ハケ遺跡第7地点溝一覧表	22
第2表	鶴ヶ岡外遺跡調査一覧表	5	第13表	ハケ遺跡第7地点出土遺物観察表	26
第3表	鶴ヶ岡外遺跡第6地点炉穴一覧表	6	第14表	長宮遺跡調査一覧表	39
第4表	鶴ヶ岡外遺跡第6地点集石土坑・出土礫観察表	7	第15表	長宮遺跡縄文時代住居跡一覧表	40
第5表	鶴ヶ岡外遺跡第6地点出土遺物観察表	10	第16表	長宮遺跡古代住居跡一覧表	40
第6表	ハケ遺跡調査一覧表	12	第17表	長宮遺跡第44地点 J16号住居跡内土坑・ピット一覧表	43
第7表	ハケ遺跡縄文時代住居跡一覧表	12	第18表	長宮遺跡第44地点 J16号住居跡出土礫観察表	46
第8表	ハケ遺跡古代住居跡一覧表	13	第19表	長宮遺跡第44地点炉穴一覧表	46
第9表	ハケ遺跡第7地点 J31～33号住居跡ピット一覧表	19	第20表	長宮遺跡第44地点遺構一覧表	47
第10表	ハケ遺跡第7地点集石土坑・出土礫観察表	19	第21表	長宮遺跡第44地点溝一覧表	47
第11表	ハケ遺跡第7地点土坑一覧表	22	第22表	長宮遺跡第44地点出土遺物観察表	47

## 写真図版目次

写真図版1	鶴ヶ岡外遺跡第6地点(1)	67	写真図版11	ハケ遺跡第7地点(8)	77
写真図版2	鶴ヶ岡外遺跡第6地点(2)	68	写真図版12	長宮遺跡第44地点(1)	78
写真図版3	鶴ヶ岡外遺跡第6地点(3)	69	写真図版13	長宮遺跡第44地点(2)	79
写真図版4	ハケ遺跡第7地点(1)	70	写真図版14	長宮遺跡第44地点(3)	80
写真図版5	ハケ遺跡第7地点(2)	71	写真図版15	長宮遺跡第44地点(4)	81
写真図版6	ハケ遺跡第7地点(3)	72	写真図版16	長宮遺跡第44地点(5)	82
写真図版7	ハケ遺跡第7地点(4)	73	写真図版17	長宮遺跡第44地点(6)	83
写真図版8	ハケ遺跡第7地点(5)	74	写真図版18	長宮遺跡第44地点(7)	84
写真図版9	ハケ遺跡第7地点(6)	75	写真図版19	長宮遺跡第44地点(8)	85
写真図版10	ハケ遺跡第7地点(7)	76			



## 第1章 ふじみ野市の遺跡

### I ふじみ野市の立地と環境

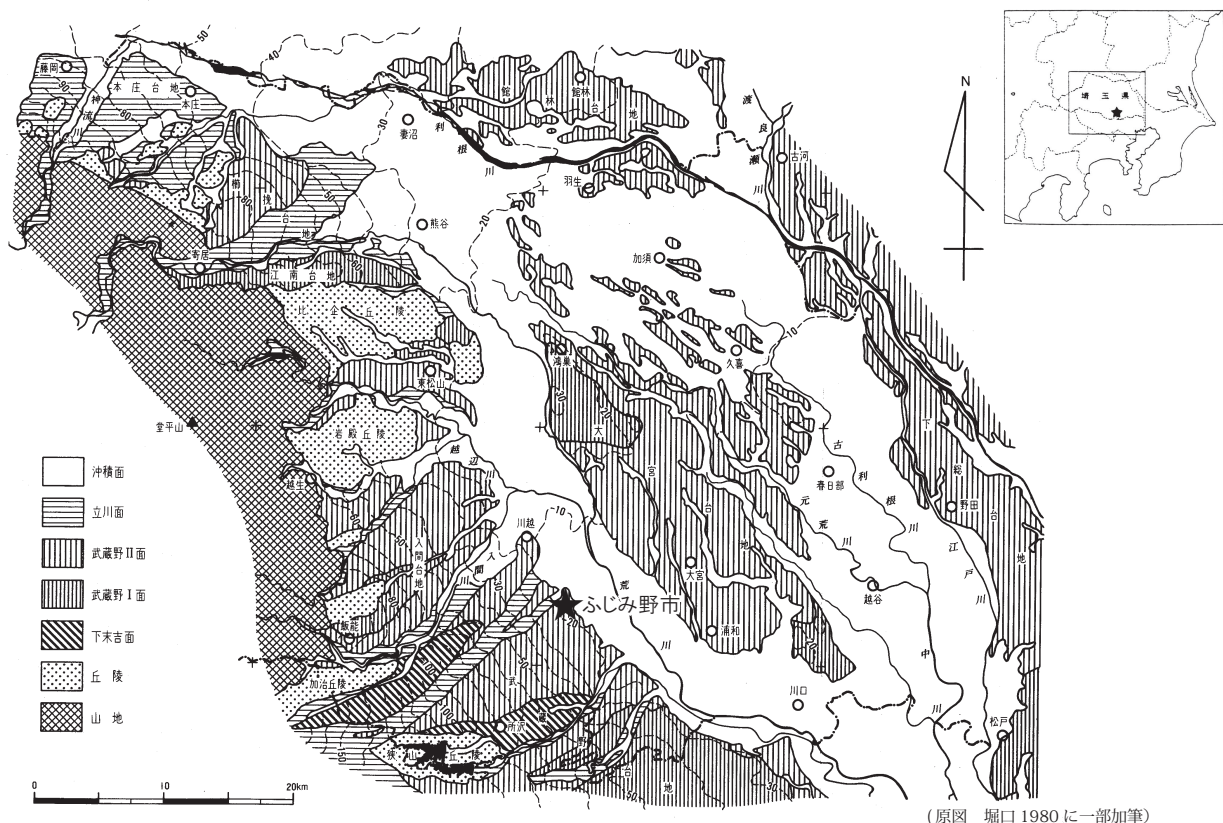
ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地縁辺部と荒川低地の沖積地に大きく分かれる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15～20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地

（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禅寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を發しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦に見えるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。



第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

## II 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線上には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名

称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

川越江川の1 km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺域に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ舞遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保堀跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

福岡江川の900 m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3 km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中

第1表 ふじみ野市遺跡一覧表

No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001
4	北野遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落	25-002
5	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004
6	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハケ遺跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡	25-005
8	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006
9	権現山遺跡群（古墳群）	古墳前期の集落跡・古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落	25-007
10	滝遺跡	縄文時代、古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡	25-008
11	西原遺跡	縄文の散布地	25-025
12	長宮遺跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009
13	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ヶ舞遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
15	富士見台横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17	松山遺跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天神廻遺跡	古墳中期の散布地	25-018
19	城山遺跡	中・近世の館跡	25-019
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020
21	江川南遺跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
22	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東久保遺跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-009
24	亀久保堀跡遺跡	中世の堀跡	30-006

No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号
25	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
26	駒林遺跡	近世の堀跡・中世の墳墓	25-013
27	福岡新田遺跡	縄文時代の散布地、中・近世寺院	25-015
28	鷺森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017
29	伊佐島遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
30	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
31	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
32	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期、後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33	中沢前遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
34	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
35	苗間東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
36	浄禅寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
37	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
38	大井宿遺跡	近世～近代の宿場跡	30-010
39	大井氏館跡遺跡・大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
40	本村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
41	西台遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
42	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
43	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
44	大井宿木戸跡	近世～近代の宿場跡	30-048
45	石塔畑	中世の散布地	30-027





ふじみ野市全図

第2図 ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)



沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ロームⅢ層～Ⅹ層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点移していく傾向がみられる。

さかい川の800 m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5～6 mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連綿と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるA T降灰前（立川ローム第Ⅶ層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では炉穴、落とし穴が散在するのみである。

【弥生・古墳時代】荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐島遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群（埼玉県指定史跡権現山古墳群）は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳（2号墳）1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群（通称権現山北古墳群）3基がある。ハケ遺跡第16地点の調査（2014）で、古墳の周溝から、6世紀後半頃とみられる複数の人物埴輪と、円筒埴輪が新たに発見された。狭小地のため、古墳の形態や主体部については不明である。他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5 kmの台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権

現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉から9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。

またハケ遺跡からは銚帯金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の下に、蔵骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毘跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。

16世紀後半から17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄禅寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

【近世】近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地蔵院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である浄禅寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷺森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である造兵廠東京工場福岡工場（通称火工廠）の跡地で、防爆土塁・防空壕・水溜・消火栓・排水枘などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。



## 第2章 鶴ヶ岡外遺跡第6地点の本調査

### I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ岡外遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ藤間江川に面した標高27～50mの台地北縁、低地との比高差4mあまりの緩斜面上に立地する南北100m、東西3.5km以上の細長い崖線上にまたがる遺跡である。

周辺の遺跡は、江川下流に鶴ヶ岡遺跡、川越市八幡神社遺跡、西遺跡があり、八幡神社遺跡と西遺跡には縄文時代の集落が広がる。また、本遺跡の対岸でも旧石器時代の石器が表採されている。

2003年11月、鶴ヶ岡遺跡に隣接地において事業所の建設に伴う事前協議があり、同年12月に試掘調査を行ったところ（第1地点）、旧石器時代（立川ロームIV層）の石器群と礫群を検出したため、2004年1月10日包蔵地の変更増補をして鶴ヶ岡外遺跡として新規登録した。また、2005年1月に第2地点を調査した際、崖線に沿って遺跡範囲確認の踏査を行った結果、さらに上流でも旧石器時代の石器を表面採取したため、同年9月に包蔵地の変更増補を行った。主たる時代は旧石器時代～縄文時代早・前期である。

### II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は老人介護福祉施設建設に伴うもので、原因者より2013（平成25）年2月15日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。

申請地は川越江川右岸の台地上に位置する。隣接する東側の第2地点と南側の第5地点の調査で、旧石器時代から縄文時代の遺構と遺物が確認されているため、原因者と協議の結果、遺跡の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2013年4月23日から5月31までと、駐車場部分を7月31日から8月7日まで行った。試掘調査は幅1.5～2mのトレンチを15本設定した。

さらに旧石器時代の遺構と遺物を確認するため、各トレンチ内に1～1.5m四方の小トレンチを5m間隔に設定した。トレンチ2・9・14で縄文時代の遺構を、トレンチ7～10で木炭窯とみられる炭化物が多数出土した。

旧石器時代の遺物とみられる石器が出土したが、周辺を拡張しても遺物等の広がりが見られなかった。

原因者と再協議の結果、開発の変更ができず遺跡への影響も避けられないため、原因者負担による本調査を実施することになった。

本調査は遺跡の確認された区画を、同年11月1日から22日まで、重機により表土除去後、人力による調査を行った。

試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代早期炉穴15基、縄文時代の集石土坑1基と土坑1基、11世紀前半から12世紀後半の木炭窯1基である。

### III 遺構と遺物

#### (1) 旧石器時代の遺構

旧石器時代の遺物は全て試掘調査のトレンチで単独で出土したものである。第7図9のナイフ形石器はトレンチ14、同図10の剥片はトレンチ3出土である。同図8は大型の台石の可能性のある礫で、旧石器時代の配石遺構とみられる。同図11は敲石（ハンマー）で側面に敲打痕がみられる。各石器の詳細は第5表のとおりである。

#### (2) 炉穴・集石土坑・土坑・木炭窯

##### ① 炉穴

炉穴は調査区のほぼ中央部で15基検出した。出土遺物が無いため時期の特定は出来ないが、隣接する第2地点では縄文時代早期後半の野島式土器が炉穴から出土している。炉穴の確認面までの深さは削平のため10～30cmと浅く、遺構が全体に硬化しており、東側には攪乱も広範囲にみられた。炉穴は密集し、燃焼

第2表 鶴ヶ岡外遺跡調査一覧表

地点	調査年	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	2003・2004	5,526	事業所	旧石器時代石器群6・礫群7、縄文落とし穴3	町内遺跡群Ⅻ、大井遺跡調査会報告第20集
2	2004・2005	5,000	老人介護福祉施設	旧石器時代石器群3、縄文炉穴群1・落とし穴1	町内遺跡群Ⅻ、大井遺跡調査会報告第20集
3	2005	160	鉄塔建設	遺構・遺物なし	市内遺跡群2
4	2003	5,911	給食センター	遺構・遺物なし	町内遺跡群Ⅻ
5	2007・2008	43,449	共同住宅	旧石器時代石器群3、石器	市内遺跡群5
6	2013	4,099	老人介護福祉施設	炉穴15基、集石土坑1、土坑1、木炭窯1	市内遺跡群13

第3表 鶴ヶ岡外遺跡第6地点炉穴一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	焼土範囲	足場	備考
炉穴 1	円形	72 × 58	27 × 41	16.2	56 × 70		
炉穴 2	楕円形	(62) × 90	54 × 70	28.1	54 × 70		
炉穴 3	(楕円形)	78 × 130	46 × 72	33.7	20 × 44	46 × 72	
炉穴 4	(楕円形)	78 × 130	46 × 72	14.3	44 × 64	46 × 72	
炉穴 5	不明	(50) × 54	(10 × 34)	20.6	(50) × 56		
炉穴 6	不明	52 × 100	25 × 80	35.6	16 × 32	15 × 15	
炉穴 7	不明	81 × 110	37 × 45	18.5	24 × 34	37 × 45	
炉穴 8	不整形	46 × 112	14 × 15	15.2	46 × 46		
炉穴 9	不整形	65 × 112	4 × 20	16.9	62 × 68		
炉穴 10	不明	(23) × 32	(17) × 21	9.4	(22 × 34)		
炉穴 11	(楕円形)	(42 × 82)	(10 × 12)	19.0	(18 × 20)		
炉穴 12	不明	52 × 100	25 × 80	24.5	60 × 65	15 × 15	
炉穴 13	楕円形	61 × 85	33 × 36	23.6	30 × 42		
炉穴 14	欠番						
炉穴 15	楕円形	40 × 48	12 × 24	25.2	30 × 40		
炉穴 16	円形	44 × 45	11 × 23	6.6	46 × 46		



第3図 鶴ヶ岡外遺跡の地形と調査区 (1/10,000)

部の焼土範囲の他に「足場」等と呼ばれる窪みのあるものもみられる。各炉穴の詳細は第3表のとおりである。

②集石土坑・土坑

集石土坑は調査区の東側に位置する。詳細は第4表のとおりである。

土坑は調査区の南部に位置する。平面形態は楕円形で確認面径 150 × 92 cm、底径 94 × 10cm、深さ 48.8 cmである。集石土坑と土坑は、覆土層の観察から縄文

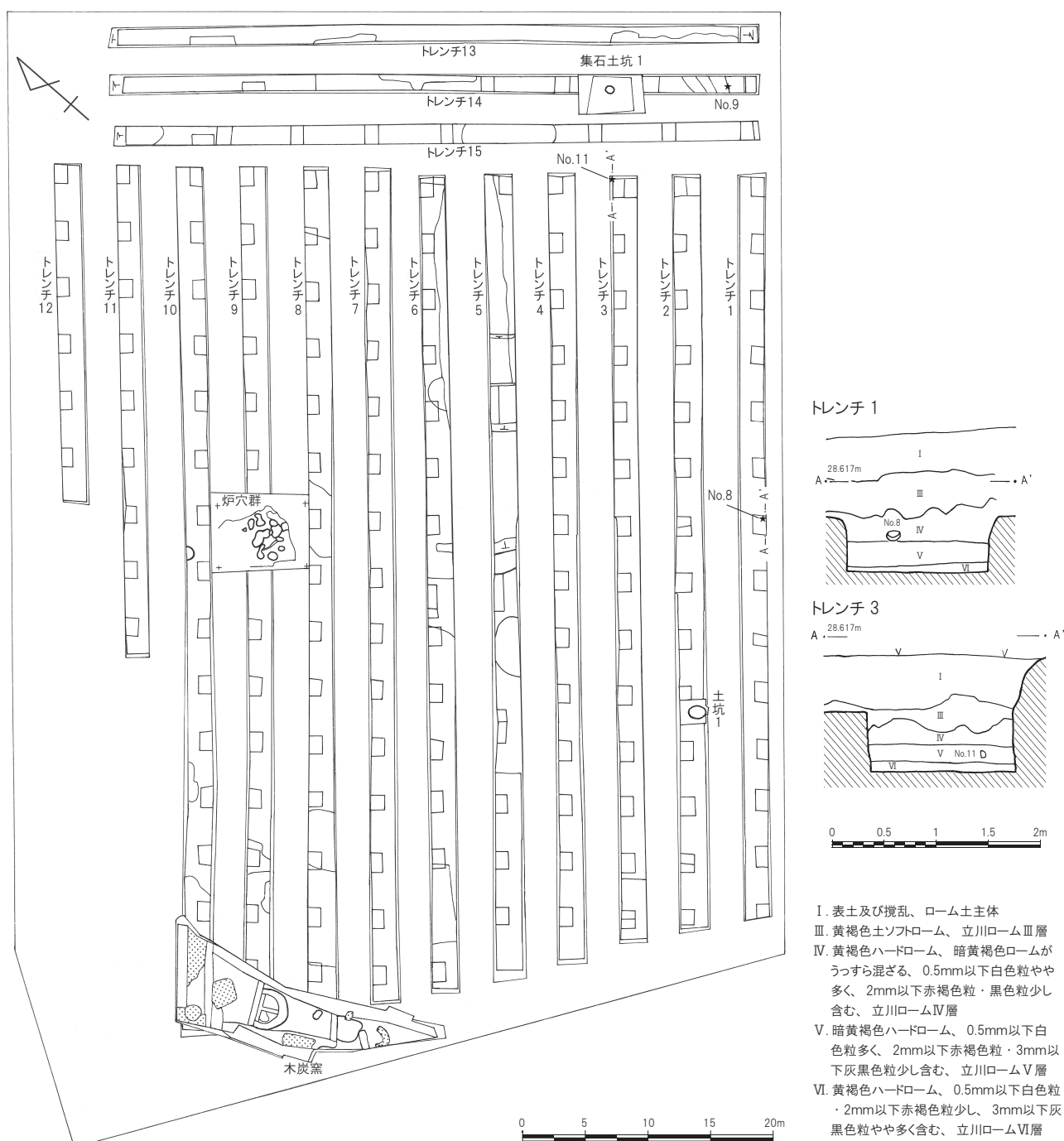
時代と考えられる。

③木炭窯

木炭窯は調査区の南西隅に位置する。試掘調査では当初、土地境の溝か川越江川に流れ込む埋没谷と考えていたが、出土する炭化物の量や土層の観察、遺構の側壁の立ち上がり角度がしっかりしている点などから木炭窯とした。木炭窯は埋没谷とみられる窪地を利用して作られたものと考えられる。炭化物以外の遺物は、須恵器杯の小破片が1点出土した。木炭窯出土

第4表 鶴ヶ岡外遺跡第16地点集石土坑・出土礫観察表 (単位 cm・個数・g (%))

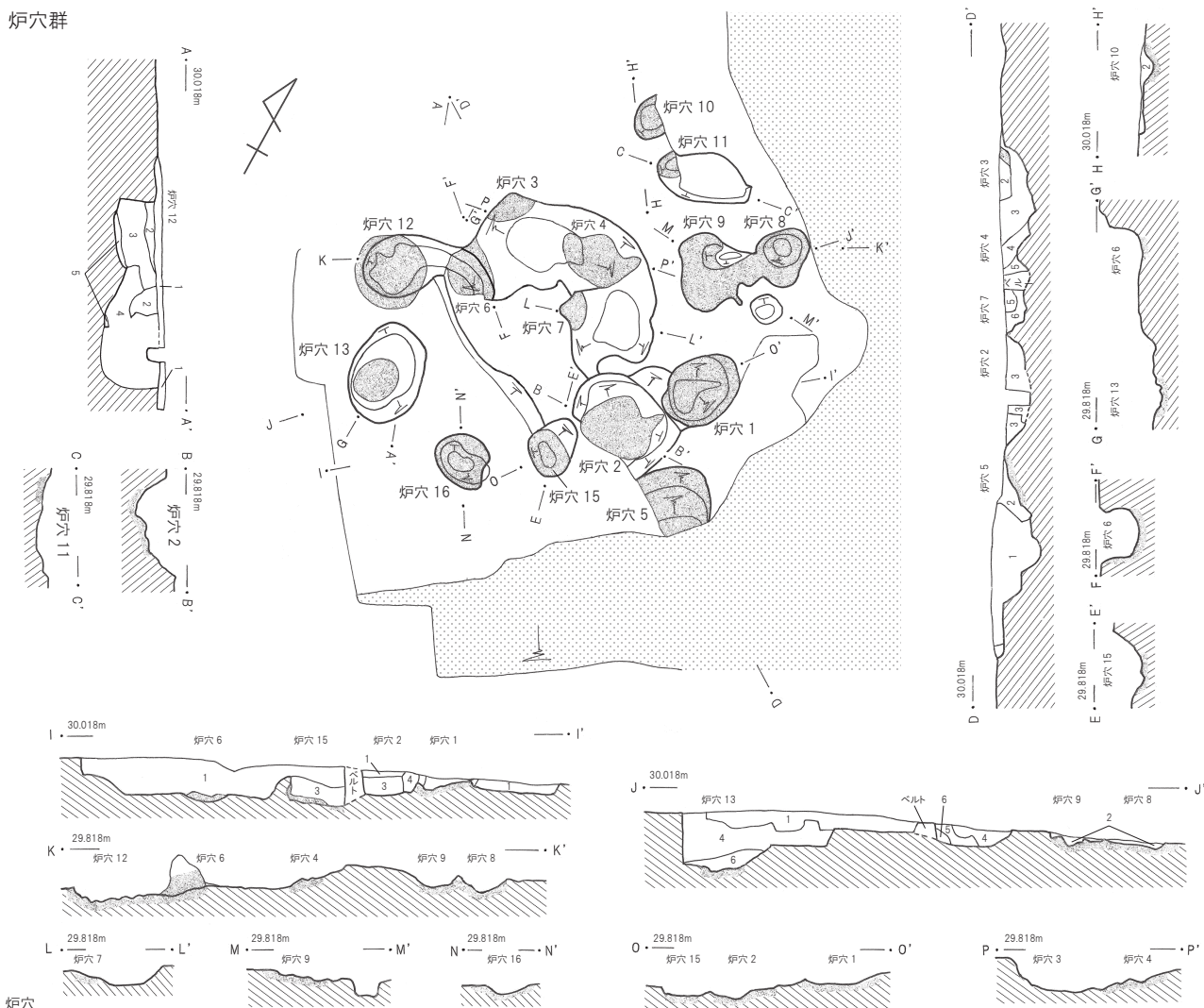
平面形態	確認面径	底径	深さ	礫範囲	総点数	総重量	平均重量	破損個数	完形個数	焼成個数	未焼成個数	タール・煤付着数	タール・煤未付着数
円形	67 × 64	51 × 44	12.8	45 × 33	19	771.28	41	16 (84.2%)	3 (15.7%)	6 (31.5%)	13 (68.4%)	13 (68.4%)	6 (31.6%)



第4図 鶴ヶ岡外遺跡第6地点遺構配置図 (1/500)、土層 (1/60)



炉穴群



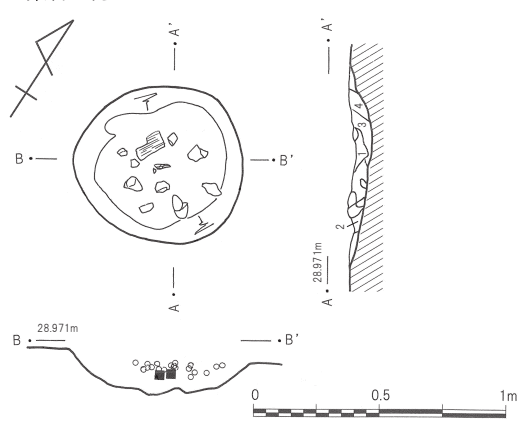
炉穴

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、盛土攪乱、全体にシミ状黒褐色色を含み、3mm以下焼土を少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下粒状焼土多量に含む、3mm以下粒・シミ状ローム少し含む、底部焼土硬化面
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、全体にシミ状黒褐色土を多く含む、3mm以下シミ状焼土を少し含む（2層よりも焼土少ない）、3mm以下シミ状炭化物極少し含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、全体にシミ状黒褐色土を多く含む、3mm以下シミ状焼土を少し含む（3層よりも焼土少ない）、3mm以下シミ状炭化物少し含む（2層より多い）
5. 褐色土 締り強、粘性有、ローム主体でシミ状に黒褐色土を少し、2mm以下シミ状焼土少し含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下焼土をシミ状に少し含む、1cm以下の5層ブロックを少し含む

炉穴 12・13

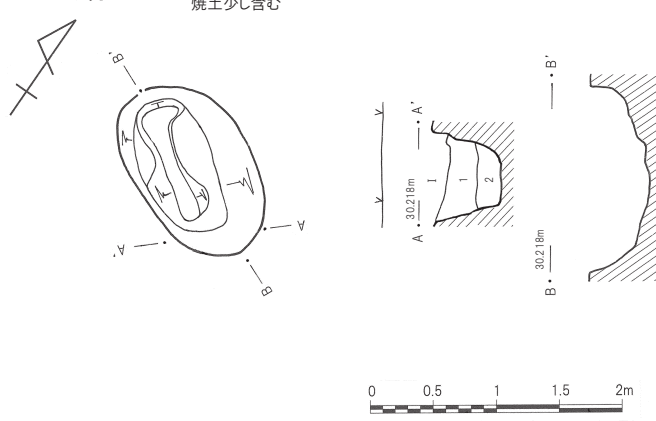
1. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下シミ状焼土やや多く、2cm以下シミ状ローム少し、1mm大白色粒子少し含む
2. 褐色土 締り強、粘性有、ローム土で焼土等を全く含まない
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下焼土・ロームをシミ状にやや多く、2mm以下炭化物を少し含む、全体に赤色味を呈す
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、3層より焼土を含むのが少なく、全体の赤味がやや薄い以外は3層に類似する
5. 暗赤褐色土 締り強、粘性有、1cm以下の焼土ブロックを多く含む焼面
6. 暗赤褐色土 締り強、粘性有、1cm大焼土ブロック少し、2mm以下シミ状焼土少し含む

集石土坑 1



1. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下焼土・ローム粒やや多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にソフト質ローム土多く含む
4. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体シミ状に黄灰色土多く含む

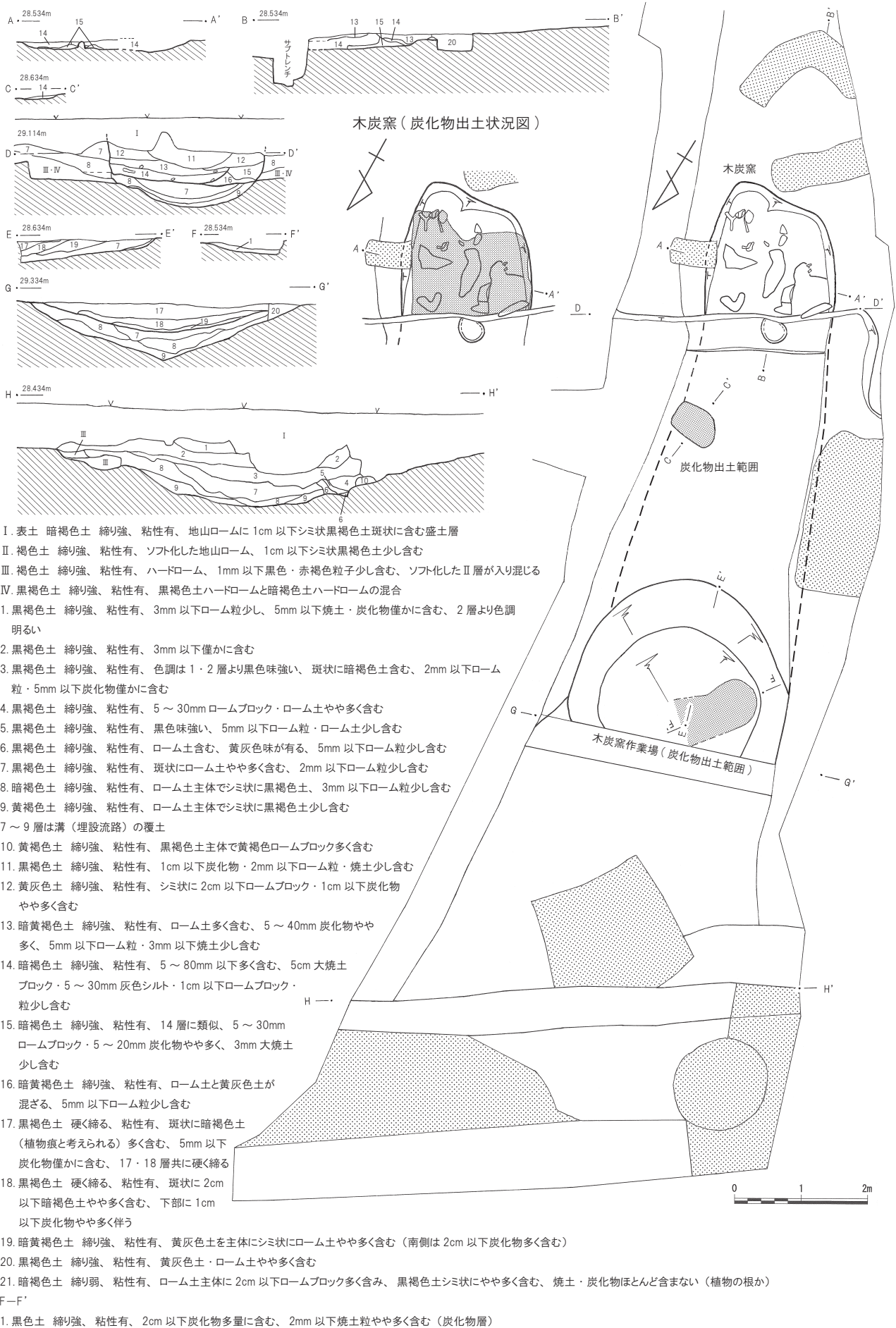
土坑 1



I. 表土

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土と暗褐色シミ状ロームの混合、1mm以下炭化物を少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ほぼ地山ソフトローム層に似るが、1mm以下炭化物を極少し含む

第5図 鶴ヶ岡外遺跡第6地点炉穴・土坑 (1/60)、集石土坑 (1/30)



第6図 鶴ヶ岡外遺跡第6地点木炭窯・遺物出土状況（1/80）

炭化物の年代測定等を実施した。結果については、附編に記したとおりである。

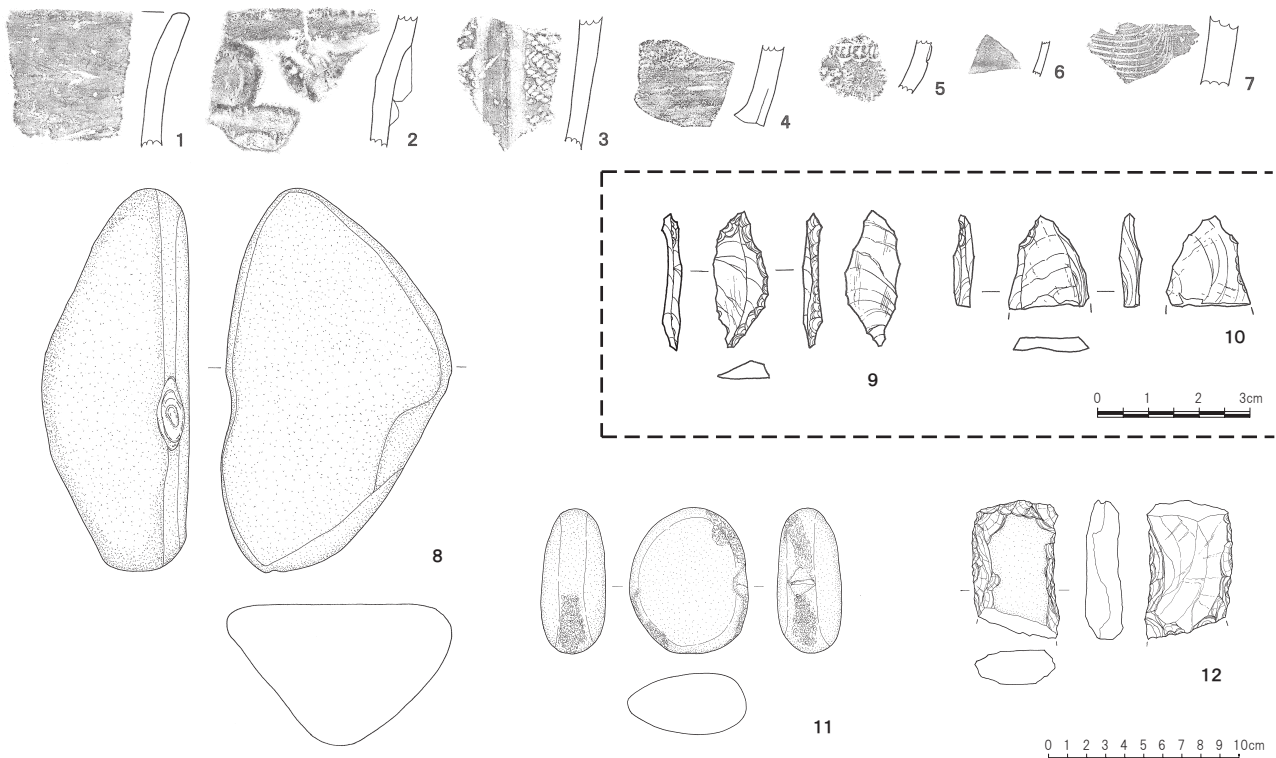
埋没谷の上部に炭化室の南端部分と、その北側に炭化物が僅かに広がる。炭化室の南端部分は南北 200 cm、東西 195 cm で深さは 21 cm で、多量の炭化物が出土した。主軸方位は S - 30° - E で、窯床傾斜は約 3° である。北側の炭化物は、長方形の範囲に 71 ×

48、深さ 4 cm で広がる。

炭化物の広がりの方に更に北側に、平面形態が円形で、確認面径は 320 × (246) cm、深さ 25.3 cm の作業場とみられる掘り込みがあり、炭化物が 110 × 75 cm の楕円形に広がる。

第5表 鶴ヶ岡外遺跡第6地点出土遺物観察表 (単位 cm、g)

No.	出土遺構名	種別 / 器形	長さ	幅	厚さ	重量 / 地文	石材 / 推定生産地	推定年代	残存 / 部位 / 備考
1	表土一括	土器 / 深鉢	-	-	1.2	無文	在地	縄文時代	口縁部 / 撫で
2	表土一括	土器 / 深鉢	-	-	1.1	-	在地	勝坂Ⅲ	胴部 / 頸部隆帯楕円形区画
3	表土一括	土器 / 深鉢	-	-	1.3	LR縄文	在地	加曾利 E II	胴部 / 2 本組沈線懸垂文間幅広磨消
4	表土一括	土器 / 深鉢	-	-	1.8	無文	在地	縄文時代	胴部から底部付近
5	表土一括	土器 / 深鉢	-	-	0.9	-	在地	勝坂Ⅲ	胴部 / 半截竹管刺突蓮華文
6	木炭窯一括	須恵器 / 坏	-	-	0.4	-	-	-	体部 / 轆轤成形
7	表土一括	平瓦	-	-	1.6	-	-	-	凸面に櫛型文引く
8	配石遺構	台石	20.1	11.8	7.3	1881.50	砂岩	旧石器時代	完形
9	トレンチ 14	ナイフ形石器	2.6	1	0.35	0.95	チャート	旧石器時代	完形 / 右側縁と左側縁の上位に細部調整有り
10	トレンチ 13	剥片	1.75	1.5	0.4	0.91	チャート	旧石器時代	右側縁に剥離痕有り
11	トレンチ 3	敲石	7.6	6.1	3.4	256.06	砂岩	旧石器時代	完形
12	表土一括	打製石斧	(7.2)	4.2	1.9	88.06	撥形 / ホルンフェルス	縄文時代	下部欠損



第7図 鶴ヶ岡外遺跡第6地点出土遺物 (1/4・2/3)



### 第3章 ハケ遺跡第7地点の本調査

#### I 遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の東側付け根に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。遺跡の北側は落差2m程度のゆるい斜面を形成し、小支谷が入る。標高は14～16mで、遺跡の範囲は南北360m、東西160m以上ある。宅地開発される遺跡中央に畑が残る。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳～奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

1976年以降、宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2014年12月現在18ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構（旧福田屋跡）と、2014年に第16地点の発掘調査で、古墳の周溝から6世紀の人物埴輪と円筒埴輪多数が出土した。

本遺跡は便宜上東西に走る道路によって南側からハケ遺跡A、ハケ遺跡B、ハケ遺跡Cと呼称していたが、現在はハケ遺跡に統一している。

#### II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2006年6月24日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南端に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を行った。

試掘調査の結果は2008年3月刊行のふじみ野市埋蔵文化財調査報告第4集『市内遺跡群3』に報告済みである。

2014年度になり宅地造成の開発が決定し、遺跡への影響が避けられないため、原因者負担による本調査を実施した。

本調査に先立ち、2013年8月10日と11日に遺構範囲確認の試掘調査を再度実施した。調査区北側の先端に幅約1.5mのトレンチ1本を設定し、縄文時代の住居跡や溝等が確認された。

本調査は開発区域を南北に分け、南側調査区を8月21日～10月2日まで、北側調査区を10月3日～11月11日まで、重機による表土除去の後、人力による調査を行った。

調査区内に5m方眼の区画を設定し、北から南にA・B・C～、東から西へ1・2・3～の番号を付し、A1区・B1区～とした。



第8図 ハケ遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第6表 ハケ遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A-1次	大字中福岡字遠見 1228～2021	1976.9.11～16	306	個人住宅	古墳住居跡1軒、竪穴状遺構3、縄文土器	上福岡市遺跡調査報告書
C-1次	大字中福岡字清見 1480番地	1977.8.2～27	1794	宅地造成	縄文住居跡5軒、奈良平安住居跡2軒、竪穴状遺構、土坑、炉跡	ハケ遺跡調査会 ハケ遺跡C地区
B-1次	中福岡 1228-40	1978.8.28～9.10	165	個人住宅	遺構なし、縄文中期土器片	埋蔵文化財の調査(I)
B-2次	中福岡 1181-2	1978.9.11～25	360	貸家建設	土坑4、炉跡1、土器	埋蔵文化財の調査(I)
B-3次	中福岡 1228-37	1979.7.20～31	166		土坑3、縄文土器	埋蔵文化財の調査(II)
B-5次	大字中福岡字遠見 1228-46	1982.5.10～17	165		溝1、縄文中期土器	埋蔵文化財の調査(V)
C-2次	福岡 3-2068の1,2	1987.4.16～5.29	1900	倉庫付住宅改築	縄文中期住居跡11軒、奈良平安住居跡4軒、掘立1棟	埋蔵文化財の調査(X)
C-3次	福岡 2-2-1	1988.8.15～20	627	駐車場	縄文中期住居跡4軒、平安住居跡2軒	埋蔵文化財の調査(11)
C-試	福岡 3-4-2	1988.10.24～28	60	擁壁改修工事	縄文前期住居跡1軒	埋蔵文化財の調査(11)
C-4次	旧福田屋敷地内	1990.6.20～9.6 H3.1月末～継続調査予定	500		旧福田屋柱礎石跡、鍛冶屋建物跡、(礎石・火処3・物置跡・粘土貼りつけ円形小竪穴)・江戸前期～中期長方形土坑12・溝1・平安住居跡3・縄文中期住居跡2、縄文後・晩期住居跡3軒	2年度教育要覧 市史資料編
C-6次	福岡 3-1189,2056-2	1993.5.6～18	141.91	個人住宅	縄文中期土坑6	埋蔵文化財の調査(16)
C-4次	福岡 3-2069-1の一部	1994.6.10～1.31	54	河岸記念館管理棟・庭造成工事	縄文中期住居跡5軒、土坑30	埋蔵文化財の調査(17)
C-試	福岡 3-1184-8	2000.1.26	100	個人住宅	なし	埋蔵文化財の調査(22)
7	福岡 3-2	(2006.7.10～22) (2013.8.10・11) (2013.8.21～11.11)	666 712.35	宅地造成 宅地造成	縄文・奈良平安遺構検出 縄文中期住居跡3軒、奈良平安住居跡4軒、集石土坑2、土坑3、井戸1、溝4	市内遺跡群3・13
8	福岡 3-2069-9	(2009.3.17)	99	個人住宅	住居跡確認	市内遺跡群6
9	福岡 3-1257-7,1259-1	(2010.2.2～4)	120	個人住宅	土坑1、風倒木1	市内遺跡群8
10	福岡 3-1363-14	(2011.4.22～25)	122.06	個人住宅	時期不明溝1本	市内遺跡群14
11	福岡 3-1363-11	(2011.4.21～22)	157.68	分譲住宅	縄文時代埋蔵1基	市内遺跡群14
12	福岡 3-1472-1	(2012.9.24)	122	個人住宅	ビッド	未報告

第7表 ハケ遺跡縄文時代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形 ( )は推定	規模	炉			埋蔵	周溝	時期	備考	文献
						地床	炉体	石皿					
1	1977	C地区1号住	1/4	(円形)	600×			○			加曾利EⅡ		ハケ遺跡C地区
2	"	C地区4号住	完掘	楕円形	(600)	○					加曾利EⅠ		"
3	"	C地区5号住	完掘	(方形)	400×500	○					諸機		"
4	"	C地区6号住	(完掘)			○					加曾利EⅢ	7住と重複	"
5	"	C地区7号住					○	○			加曾利EⅠ		"
6	1987	C地区2次1号住	1/3						○		加曾利EⅠ		埋蔵文化財の調査X
7	"	C地区2次2号住	西1/2	隅丸台形				○	○		加曾利EⅠ	連弧文土器出土	"
8	"	C地区2次3号住	完掘	楕円形	720×600			(○)	○		加曾利EⅡ	連弧文、曾利系多い	"
9	"	C地区2次4号住	北1/2					○			加曾利EⅡ		"
10	"	C地区2次5号住	ほぼ完掘	円形	620	○					加曾利EⅡ		"
11	"	C地区2次7号住	完掘	円形	700			○			加曾利EⅡ		"
12	"	C地区2次8号住	完掘	円形					○		加曾利EⅠ	2軒の住居の重複	"
13	"	C地区2次9号住	完掘	方形	720×	○			○	○	加曾利EⅡ	10住と重複	"
14	"	C地区2次11号住	完掘	円形	450×400	○					加曾利EⅡ		"
15	"	C地区2次14号住	完掘	円形	660×640		○		○	○	加曾利EⅡ	3度建替え	"
16	"	C地区2次16号住	完掘	隅丸台形	670×650	○			○	○	加曾利EⅡ		"
17	1988	C地区3次18号住	完掘	円形	650				○	2	加曾利EⅡ	17住と重複	"
18	"	C地区3次19号住	西2/3	円形	800と500			○		○	加曾利EⅡ	2軒の住居の重複	"
19	"	C地区3次21号住	完掘	円形	460～480				○		加曾利EⅠ	滑石製垂飾品	"
20	"	C地区3次22号住	西4/5	不整円形	700						加曾利EⅡ		"
21	1990	C地区4次23号住	1/4	(方形)							安行1	床面から土偶	市史資料編
22	"	C地区4次24号住	西側未調査	楕円形									"
23	"	C地区4次25号住	南東隅1/4	(円形)	500						加曾利EⅡ		"
24	"	C地区4次26号住	北東隅1/4	(楕円形)	600						加曾利EⅢ古		"
25	"	C地区4次28号住									加曾利EⅢ		"
26	"	C地区4次29号住							両耳垂		加曾利EⅢ古		"
27	"	C地区4次30号住									称名寺～堀之内		"
28	"	C地区4次31号住									堀之内		"
29	"	C地区4次34号住	一部	楕円形	560				○		加曾利EⅠ		"
30	"	C地区4次35号住	一部	(円形)	(8m×7m)	○					加曾利EⅢ		"
31	2013	J31号住居	7/10	楕円形	(690×550)	○			○		勝坂～加曾利EⅠ	H17住、集石土坑3・4と重複	市内遺跡群13
32	"	J32号住居	完掘	円形	(480×408)	○					勝坂Ⅱ		"
33	"	J33号住居	9/10	楕円形	(570×500)	○					加曾利EⅡ	H16住、集石土坑1、溝2と重複	"



第8表 ハケ遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形( )は推定	規模	カマド		周溝	主軸方位	時期	備考	文献
						カマドK	設置壁					
1	1976	A地区LN01	1/2	隅丸方形	440 ×	K	北	○		鬼高		上福岡市遺跡調査報告書
2	"	C地区3号住	完掘	長方形	470 × 480	K	北	○		8C 3 四半期		"
3	"	C地区8号住	完掘	長方形	560 × 388 × 44	K	北	○		8C 4 四半期		"
4	"	C地区2次6号住	完掘	方形	300 × 280	K	北			国分		"
5	"	C地区2次10号住	完掘	長方形	450 × 300	K	北	○		8C 末		"
6	"	C地区2次12号住	完掘	長方形	400 × 340	K	南東	○		9C 後半		"
7	"	C地区2次15号住	南東 1/4					○		9C 後半		"
8	"	" 2次掘立柱建物	桁行4間×梁間2間		870 × 470				東面に庇	8C 中葉		"
9	1988	C地区3次17号住	完掘	長方形	350 × 290	K	北東	○		10C 初頭		埋蔵文化財の調査 11と市史資料編
10	"	C地区3次20号住	南東 1/6							8C 3 四半期		"
11	1990	C地区4次27号住	完掘	方形	400 × 380		北東	○		10C 初頭		"
12	"	C地区4次32号住	カマドの痕跡が確認されたため住居とした							10C 初頭		"
13	"	C地区4次33号住	ほぼ完掘	方形	320 × 340			○		8C 3 四半期	カタイ金具出土	"
14	2013	H14号住居	4/5	長方形	410 × 340	K	北	○	N-4°-W	8C 中頃		市内遺跡群 13
15	"	H15号住居	完掘	長方形	290 × 275	K	北		N-8°-W	9C か		"
16	"	H16号住居	完掘	不整形	395 × 468	K	北	○	N-25°-W	8C 後半		"
17	"	H17号住居	1/5	不明	(300) × 140			○		8C 前～中頃か		"

III 遺構と遺物

(1) 縄文時代の住居跡

縄文時代の住居跡は3軒検出した。各住居跡の概略は第7表と第9表のとおりである。

① J31号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の北端に位置し、H17号住居跡、集石土坑3・4と重複する。北側は調査区外に延び歩道に削平され、東側は隣地との境で未検出である。調査率は約70%である。

土層の観察や遺物出土状況等から、本住居跡は拡張ではなく、新たに住居跡が構築された可能性が高い。住居跡の外側から内側(周溝3→周溝1又は周溝2)に新しくなるものと考えられる。床面はほぼ平坦で全体的に硬化している。勝坂～加曾利E I期。

【形状・規模】平面形態は楕円形を呈する。規模は、長軸(690)cm、短軸(550)cm、深さ40cmである。

【炉】炉は地床炉で4ヶ所検出した。形状は全てほぼ楕円形である。炉1は古い住居跡に伴い、炉4が配置や規模的にも新しい住居に伴うと考えられる。

炉1の規模は長軸62cm、短軸50cm、深さ4cmである。炉2の規模は長軸110cm、短軸90cm、深さ5cmである。炉3の規模は長軸130cm、短軸(80)cm、深さ11.4cmである。炉4の規模は長軸107cm、短軸86cm、深さ24cmである。

【周溝】周溝は3本検出した。周溝1の上幅は19～33cm、下幅6～21cmである。周溝2の上幅は16～21cm、下幅7～11cmである。周溝3の上幅は20～61cm、下幅7～22cmである。

【柱穴】柱穴は13本検出した。外側の古い住居跡に伴う柱穴はP3・6～9である。内側の2本の周溝に伴う柱穴はそれ以外のもので、主柱穴はP1・2・5・10・11である。

【遺物出土状況】周溝1・2の内側では床面のやや上層から覆土層全体にかけて大量に出土するが、周溝1・2と周溝3の間では極めて出土数が少ない。

② J32号住居跡

【位置・時期】調査区の中央部やや北寄りに位置し溝1と重複する。近現代の井戸や建物基礎などの攪乱を受けるが、調査率はほぼ完掘である。床面は皿状を呈し硬化していない。勝坂II期。

【形状・規模】平面形態は円形を呈する。規模は、長軸(480)cm、短軸(408)cm、深さ24cmである。

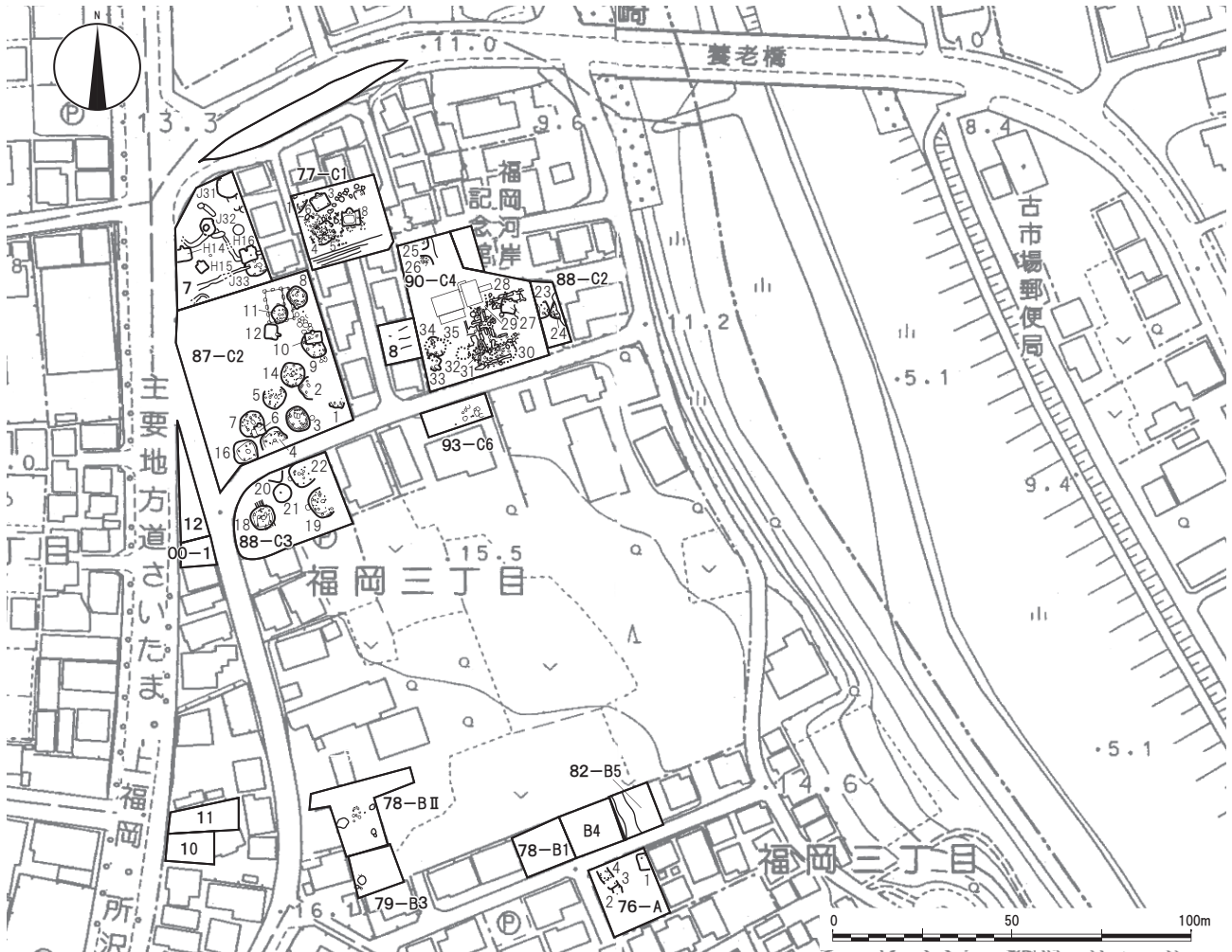
【炉】炉は地床炉で中央部に位置するが、大部分を井戸跡に壊されている。炉の規模は長軸62cm、短軸50cm、深さ4cmである。

【柱穴】柱穴はP2・6・7・10が土層の観察からやや新しく、それ以外のP1・2～5・8～10・12の土層が類似する。主柱穴の配置は4本柱か5本柱とみられる。P11は住居跡に伴わず、住居跡より新しい。

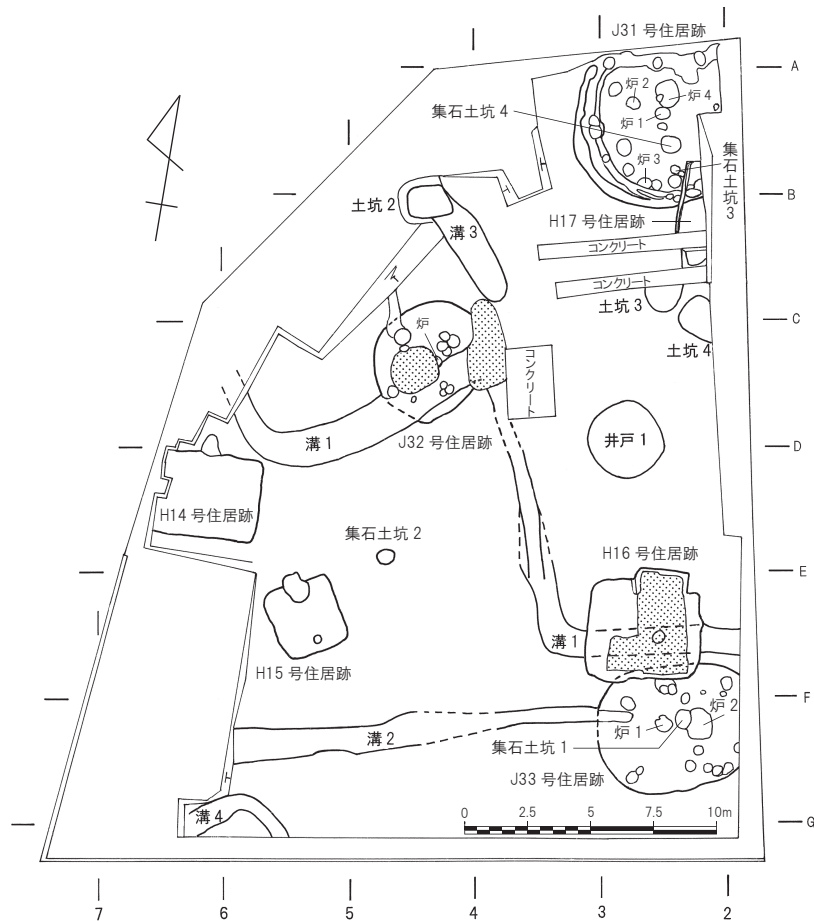
【遺物出土状況】覆土層と住居外の南東部から僅かに出土する。

③ J33号住居跡

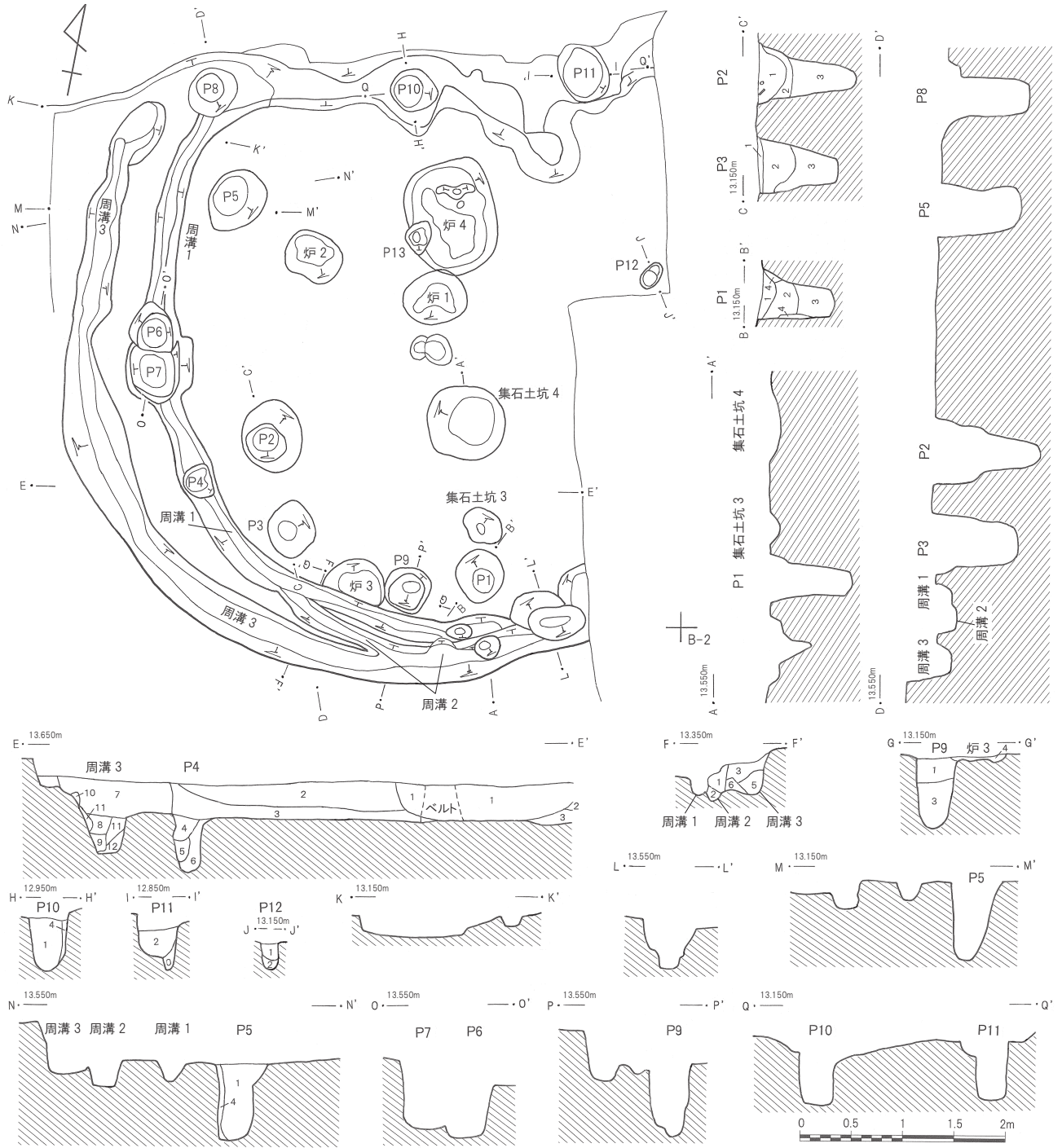
【位置・時期】本住居跡は調査区の南東隅に位置する。H16号住居跡、集石土坑1、溝2と重複し、本住居跡が最も古い。東側は隣地との境で未検出である。調査率は約90%である。加曾利E II期。



第9図 ハケ遺跡遺構分布図 (1/2,500)



第10図 ハケ遺跡第7地点遺構配置図 (1/300)



J31 号住居跡 E-E'

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・5mm 以下焼土・3mm 以下炭化物やや多く含む、焼土やや多いのが特徴
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、3mm 以下ローム粒少し～やや多く、焼土・3mm 以下炭化物少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2層より黒色味が有り、締り強めで3mm 以下ローム粒多め、焼土・3mm 以下炭化物少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く含む、色調明るめ
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～20mm ロームブロックやや多く含む、ローム粒は4層より少なめ
6. 黄褐色土 締り強、粘性有、ソフト質ローム主体、シミ状に黒褐色土含む
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、3層より黄灰色味が有り、色調明るめ、1cm 以下ロームブロック・粒やや多く含む
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、7・8層の中間的な色調、2～5mm ローム粒少し含む
8. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm 大ロームブロック少し、ローム津やや多く含む、7層より黒色味強い
9. 黒褐色土 締り強、粘性有、ソフト質ローム土を多く含む、色調明るめ、2cm 以下ロームブロック少し含む
10. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、地山(漸移層)の崩落土
11. 黒褐色土主体 締り強、粘性有、ソフト質ローム土・ロームブロック・2cm 以下多く含む、ベースの土は黒色味強い
12. 黄褐色土 締り強、粘性有、ソフト質ローム土主体

周溝 F-F'

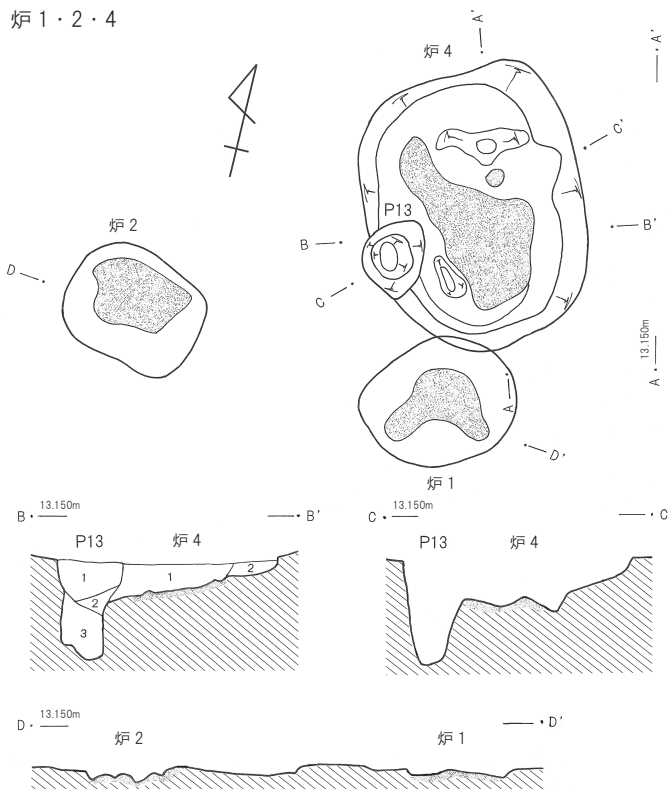
1. 黒色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒やや多く、同炭化物少し含む
  2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体土にシミ状に黒褐色土少し含む
  3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体に2cm 大ロームブロック少し、2mm 以下ローム粒多く含む
  4. 褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック
  5. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、2mm 以下ローム粒多く、2cm 大ロームブロック少し含む、3層に含まれる土は似るが、黒色土主体
  6. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、3層をベースにするが、1cm 以下のロームが主体
  7. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、ローム主体土で1cm 大ロームブロック・2mm 以下ローム粒多く多く含む
- P1・2・5・10～12
0. 攪乱
  1. 黒色土 締りやや弱、粘性有、1mm 以下ローム粒やや多く含む、同焼土少し、遺物も多く含む
  2. 黒色土 締り弱、粘性有、1mm 以下ローム粒少し含む
  3. 黒色土 締り弱、粘性有、1mm 以下ローム粒少し含む、2層より締り弱
  4. 黒褐色土 締り弱、粘性有、ローム主体の崩落土で1mm 以下ローム粒多く含む

第 11 図 ハケ遺跡第 7 地点 J31 号住居跡 (1/60)

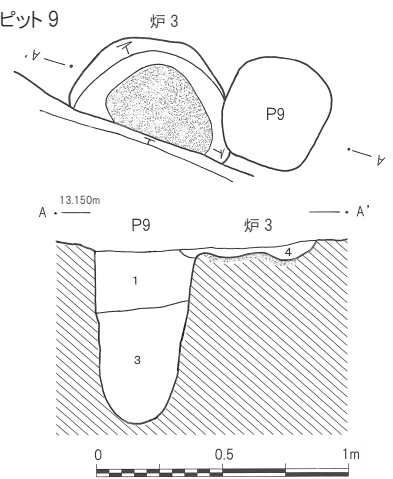
J31号住居跡遺物出土状況



炉1・2・4



炉3・ピット9



炉3・P9・13

1. 黒色土 締り強、粘性有、黒色土主体に2mm以下ローム多く、1cm大ロームブロック多く含む
  2. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、ローム主体の土で3cm以下ロームブロック多く、1cm以下シミ状黒色土極少し含む
  3. 暗褐色土 締り弱、粘性有、2層に類似する、ブロック少ない  
1層は貼床、2・3層は埋土
  4. 褐色土 締り強、粘性有、貼床、ソフトローム主体にシミ状に黒褐色土を斑状に少し含む
- 炉4
1. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下焼土粒多量に含む
  2. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下焼土粒極少し含む

第12図 ハケ遺跡第7地点 J31号住居跡遺物出土状況 (1/60)、炉 (1/30)



【形状・規模】平面形態は楕円形を呈する。規模は、長軸（570）cm、短軸（500）cm、深さ47cmである。床面は皿状を呈し、炉の周辺は硬化する。

【炉】炉は地床炉で2ヶ所検出したが、規模と配置からみて炉2が主体的な炉とみられる。炉の形状は、炉1は楕円形、炉2は楕円形から隅丸長方形である。炉1の規模は長軸127cm、短軸90cm、深さ22cmである。炉2の規模は長軸110cm、短軸90cm、深さ5cmである。

【柱穴】柱穴は15本検出したが、主柱穴はP2・4～6・10・11の6本柱である。P12・14は主柱穴よりやや規模が小さいが対を成す。P12は覆土に貼床状の堆積がみられ、あるいは拡張などによる古い柱穴の可能性も考えられる。

【遺物出土状況】床面のやや上から覆土層にかけて出土する。

## （2）古代の住居跡

### ① H14号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の中央部の西寄りに位置し、西側は調査区外に延び未検出である。8世紀中頃。

【形状・規模・掘方】平面形態は長方形を呈する。規模は長軸（410）cm、短軸340cm、深さ42cmである。住居跡の掘方は、竈の正面部分の地山ロームをやや高く残して「U」の字状に掘り込み、ローム混じりの黒褐色土で貼床を行う。竈正面の床は硬く締まるが他は軟い。貼床の厚さは約20cmで、柱穴はみられない。

【竈】住居跡北壁の中央部に構築され、竈の袖には僅かに構築部材の灰色粘土がみられる。長軸135cm、袖部の最大幅135cmである。竈内部は幅68cm、奥行き90cmで床面からの深さは10cmである。

【周溝】竈の左側と東壁から南壁にかけて存在し全周はしない。上幅15～25cm、下幅7～16cm、深さ9.3～16.4cmである。

【遺物出土状況】竈内にやや集中し、住居内の床面上から覆土層にかけて僅かに出土する。

### ② H15号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区中央部のやや南西寄りに位置する。9世紀か。

【形状・規模・掘方】平面形態は長方形を呈する。規模は長軸290cm、短軸275cm、深さ58cmである。掘方は床面全体を2～8cmに浅く掘り込み、黒褐色土混じりのローム質土で貼床を行う。床は全体的に硬

く締まり、柱穴と周溝はみられない。貼床の下から平面が楕円形で確認面径40×32cm、底径14×7cm、深さ42.4cmのピットを検出した。周溝と柱穴はみられない。

【竈】住居跡北壁の中央部に構築される、竈の北西部に攪乱がみられる。竈の右袖には僅かに構築部材の暗灰色粘土がみられる。長軸116cm、袖部の最大幅（115）cmである。竈内部は幅（88）cm、奥行き80cmで床面からの深さは22.2cmである。

【遺物出土状況】床面上から覆土層にかけて僅かにみられる。

### ③ H16号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の南東部に位置し、J33号住居跡、溝1と重複する。8世紀後半。

【形状・規模・掘方】住居跡北東の隅の形態が不整形で、住居跡全体が方形とも長方形とも言えず、あるいは複数の住居跡が重なったものか拡張等によるものか不明であるが、今回は1軒の住居跡として報告する。

規模は長軸395cm、短軸468cm、深さ78.7cmである。掘方は全体に凹凸がみられ、貼床の厚さは4～25cmで、柱穴はみられない。

【竈】住居跡北壁の中央部に構築されるが、攪乱により左袖の一部と焚口の一部が残存するのみである。左袖部は地山ロームを削り出し、長さ140cm、幅46cm、高さ50.5cmである。焚口は不整形で88×61cm、深さ17.8cmである。

【周溝】竈部と住居北東隅以外はほぼ全周する。上幅16～30cm、下幅10～18cm、深さ7.9～16.5cmである。

【遺物出土状況】床面付近と覆土層全体から僅かに出土する。

### ④ H17号住居跡

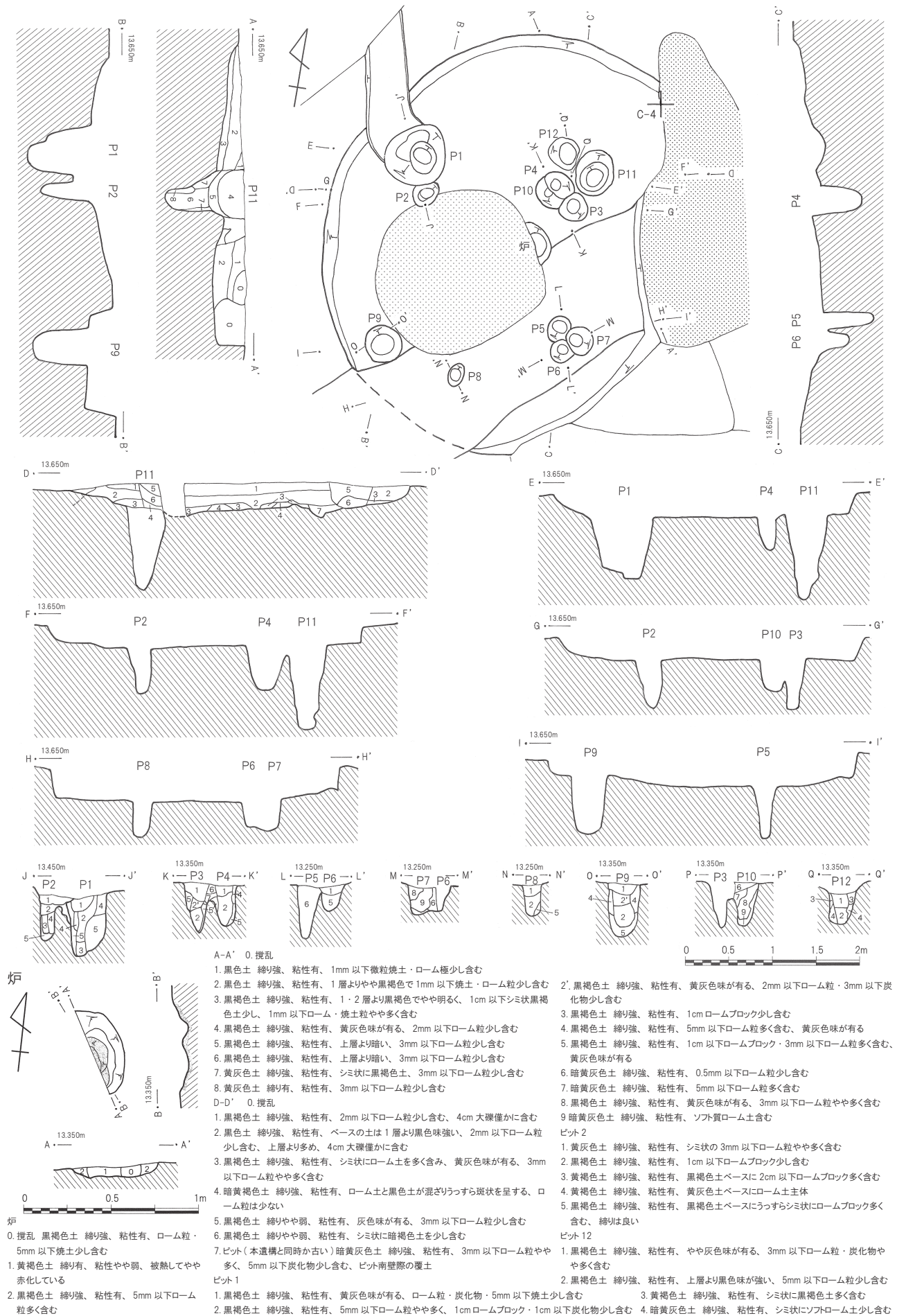
【位置・時期】本住居跡は調査区の北東部に位置する。J31号住居跡と重複し、東側の大部分は隣地との境で未検出である。8世紀前～中頃か。

【形状・規模】住居跡の形状は不明である。検出部の規模は（300）cm×140cm、深さ48.9cmである。周溝は上幅10～16cm、下幅3～8cm、深さ4.7～13.3cmである。竈と柱穴は未検出である。覆土層より土師器片が1点出土している。

## （3）集石土坑・土坑・井戸・溝

### ①集石土坑

集石土坑は4基検出した。集石土坑1はJ33号住



第13図 ハケ遺跡第7地点 J32号住居跡(1/60)、炉(1/30)

第9表 ハケ遺跡第7地点 J31～33号住居跡ピット一覧表  
(単位 cm)

ピット番号	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
J31住P1	円形	53×48	24×20	82.9	主柱穴
J31住P2	楕円形	72×58	28×21	104.7	主柱穴
J31住P3	円形	57×45	20×17	85.3	旧主柱穴
J31住P4	円形	33×25	26×20	31.2	
J31住P5	楕円形	66×49	41×21	80.9	主柱穴
J31住P6	円形	(40)×34	30×25	52.0	旧主柱穴
J31住P7	円形	50×(43)	32×25	67.9	旧主柱穴
J31住P8	円形	51×44	27×25	75.8	旧主柱穴
J31住P9	円形	45×40	17×11	73.4	旧主柱穴
J31住P10	円形	45×38	28×24	44.6	主柱穴
J31住P11	楕円形	61×44	51×38	55.4	主柱穴
J31住P12	楕円形	28×17	13×13	24.0	
J31住P13	不整形	33×23	11×8	42.0	
J32住P1	円形	75×67	22×15	73.5	主柱穴
J32住P2	楕円形	32×27	16×11	62.2	旧主柱穴
J32住P3	楕円形	33×30	17×15	57.6	主柱穴
J32住P4	楕円形	40×(32)	14×12	41.7	主柱穴
J32住P5	楕円形	32×24	17×14	58.8	主柱穴
J32住P6	円形	26×(23)	11×(11)	32.3	旧主柱穴
J32住P7	円形	34×32	16×16	31.8	旧主柱穴
J32住P8	楕円形	29×18	14×12	41.9	(主柱穴)
J32住P9	円形	44×42	26×25	65.6	主柱穴
J32住P10	(円形)	38×(20)	9×(7)	49.9	旧主柱穴
J32住P11	楕円形	53×40	21×17	96.6	住居に伴わない
J32住P12	円形	34×32	27×19	48.2	主柱穴
J33住P1	円形	51×47	27×24	48.1	
J33住P2	円形	39×35	27×20	59.9	主柱穴
J33住P3	(楕円形)	65×(54)	(30)×27	34.1	主柱穴
J33住P4	楕円形	62×43	27×20	74.0	主柱穴
J33住P5	楕円形	98×45	39×21	72.8	主柱穴
J33住P6	円形	45×38	30×25	51.8	主柱穴
J33住P7	円形	37×33	24×20	11.8	
J33住P8	楕円形	44×31	21×12	15.2	
J33住P9	楕円形	50×43	39×20	27.7	
J33住P10	(円形)	42×(16)	26×(11)	(67.7)	主柱穴
J33住P11	円形	53×47	27×14	74.2	
J33住P12	円形	40×38	19×17	44.7	(主柱穴)
J33住P13	円形	20×17	5×4	42.5	
J33住P14	楕円形	44×28	21×19	45.2	(主柱穴)
J33住P15	円形	25×22	9×8	38.6	

居跡、集石土坑3・4はJ31号住居跡と重複し、各住居跡より新しい。各集石土坑の詳細は第10表のとおりである。

②土坑

土坑は3基検出した。当初、土坑1とした遺構は井戸1に名称変更した。

土坑2は天井の一部が残存しており中近世の時期とみられる。土坑3・4は出土土器から縄文時代中期のものである。各土坑の詳細は第11表のとおりである。

③井戸

井戸は調査区の中央部に位置し、当初土坑1としたものである。確認面から234.6cmまで検出したが、底は未検出である。

平面形態は円形で、規模は確認面径158×147cm、底径104×101cm、深さ234.6cmである。

覆土層からはほぼ1体分の馬の骨と縄文土器片等が出土しているが、時期については古代以降と考えられる。馬の骨については附編に同定結果などを記した。今後は年代測定を実施し時期を明らかにしたい。

④溝

溝は4本検出した。溝3は土坑2と重複し、土層の観察から土坑2が新しい。その他の溝は、溝1がクランク状、溝2は直線的に調査区外に延びる。各溝の詳細は第12表のとおりである。

⑤遺構外遺物出土

J32号住居跡の南側の遺構外からややまとまった遺物が出土している。出土範囲はやや地山ローム層を掘り込んだようにもみえるが、掘り込みが確認出来なかったため、今回は遺構外出土とする。

(4) 遺物

① J31号住居跡出土土器 (第23図26～35)

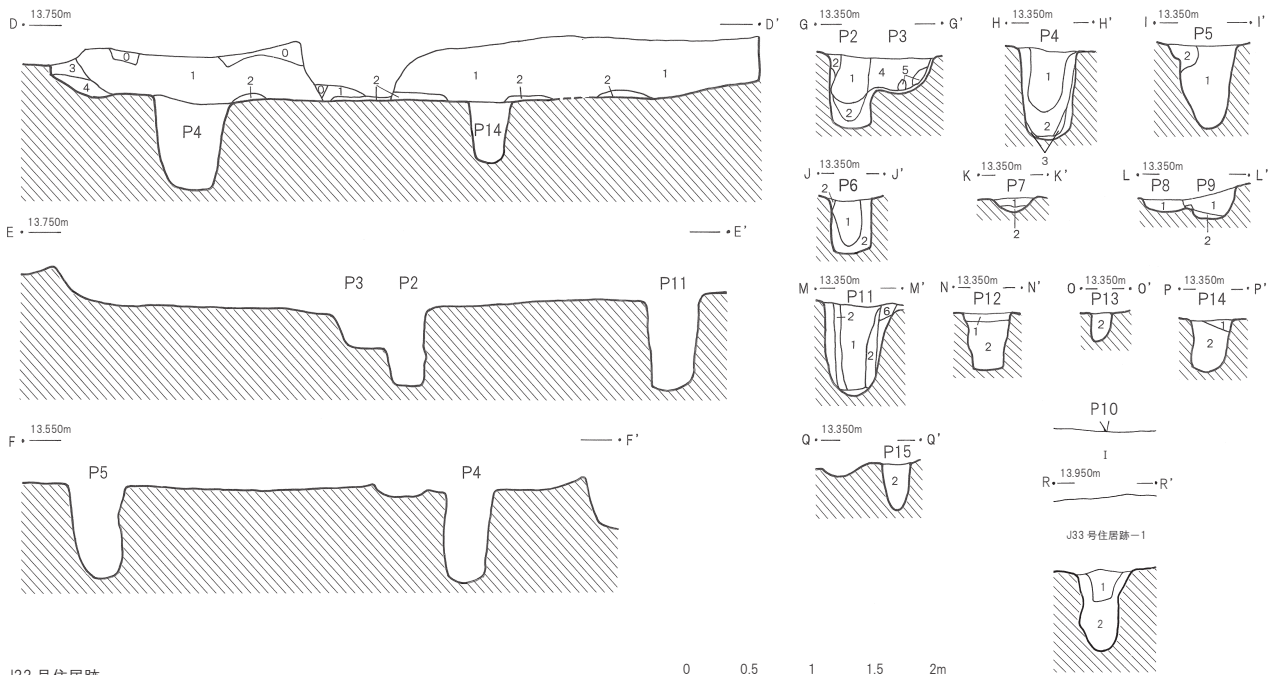
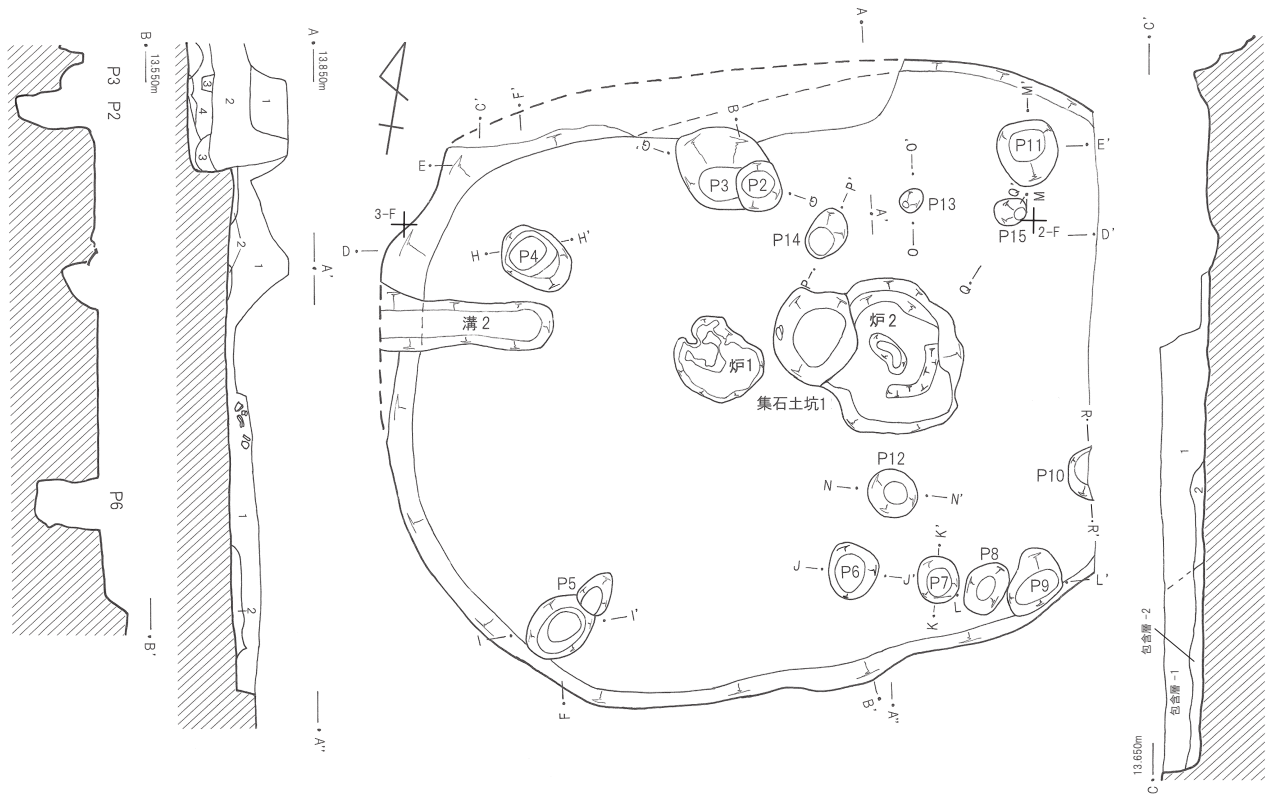
1～5、21～35が本住居跡に伴う時期で、7～20は住居跡より古い段階の土器である。

1は口径52cm(残存1/5)、大形の曾利系土器。地

第10表 ハケ遺跡第7地点集石土坑・出土礫観察表 (単位 cm・個数・g (%))

番号	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	総点数	総重量	平均重量	破損数	完形数	焼成数	未焼成数	タール・煤付着数	タール・煤未付着数
1	円形	15.2×13.3	9.3×6.9	30.9	J33住内	95	23,284.94	245.10	85 (89.5%)	10 (10.5%)	71 (74.7%)	24 (25.3%)	61 (64.2%)	34 (35.8%)
2	楕円形	77×66	46×32	15.8		112	13,721.85	122.51	82 (73.2%)	30 (26.8%)	67 (59.8%)	45 (40.2%)	53 (47.3%)	59 (52.7%)
3	楕円形	42×35	10×8	8.1	J31住内	40	12,231.55	305.79	22 (55%)	18 (45%)	28 (70%)	12 (30%)	18 (45%)	22 (55%)
4	円形	76×70	48×39	7.7	J31住内	14	2,806.65	200.48	13 (92.9%)	1 (7.1%)	6 (42.9%)	8 (57.1%)	5 (35.7%)	9 (64.3%)





J33号住居跡

- 1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒、焼土粒少し、遺物多く含む
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム質の暗褐色土と1層の黒褐色土を斑状に含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層より明るく地山包含層に類似する層でほぼ何も含まない
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、3層より更に明るくソフトロームに近いが遺物を含む、ソフトローム崩落土

包含層

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム・焼土極少し含む、遺物含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に2cm以下シミ状暗褐色土多く、1mm以下ローム・焼土粒極少し含む

P2～6・9～11

- 1. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、1mm大ローム多く含む、同焼土・炭化物少し含む、P4では2cm大ロームブロックをやや多く含む
- 2. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、2mm以下ローム多く含む、焼土・炭化物ほとんど含まない、P4では2cm以下ロームブロックをやや多く含む

- 3. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、ローム主体で2mm以下粒状ロームやシミ状に黒褐色土を含む (P4ではほぼローム主体だがP6では黒褐色土含む)
  - 4. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、1層よりやや明るく、1cm大ロームブロック少し、2mm以下ローム粒多く(1層程度)含む、1mm大焼土極少し、2mm大炭化物少し含む
  - 5. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、ロームブロック主体に暗褐色土含む、焼土・炭化物含まない
  - 6. 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm大ロームブロックと暗褐色土の混合(貼床)
- P7・8・12～15
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下シミ状ローム多く、2mm以下ローム粒多く含む、焼土・炭化物含まない
  - 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm以下黒褐色土とロームブロックの混合土、焼土・炭化物含まない

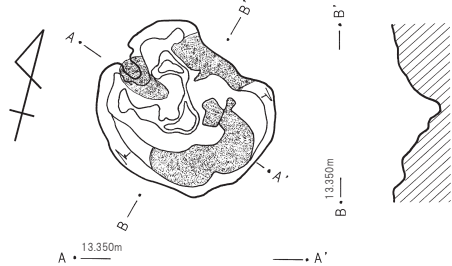
第14図 ハケ遺跡第7地点 J33号住居跡 (1/60)



J33 号住居跡遺物出土状況



炉 1



炉 1

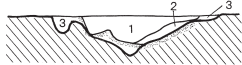
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下焼土粒多量、2mm 大ローム粒少し含む
- 2. 暗赤褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下焼土粒やや多く含む
- 3. 暗赤褐色土 締り強、粘性有、ローム又はロームブロックで西側は赤褐色に焼けている

炉 2

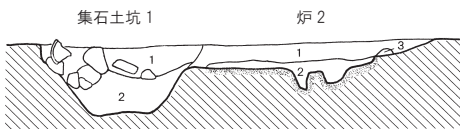
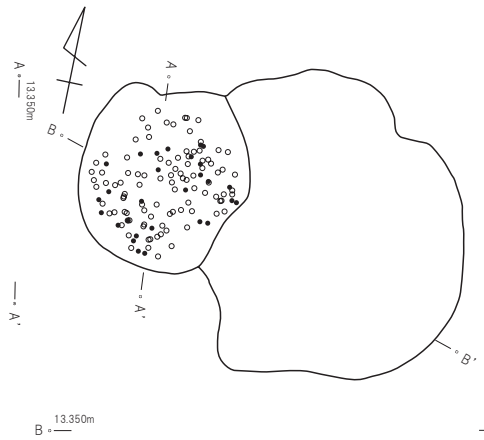
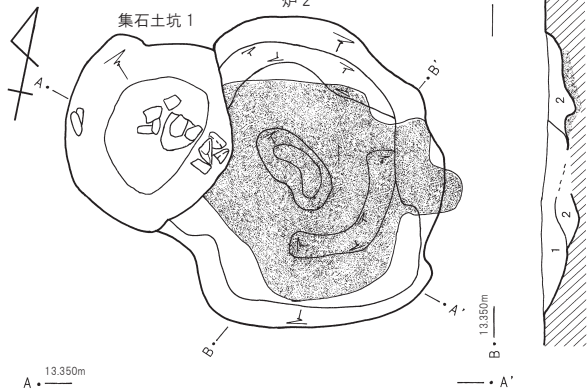
- 1. 黒色土 締り強、粘性有、2mm 以下赤褐色焼土・ローム粒少し含む、炭化物ほとんど見られない
- 2. 黒赤褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下赤褐色焼土・ローム粒多量に含む、2mm 以下シミ状炭化物極少し含む
- 3. 暗褐色土 締り有、粘性有、大形ロームブロック含む、焼土・炭化物含まない

集石土坑 1

- 1. 黒褐色土 1mm 大ローム粒・焼土粒少し含む
- 2. 黒色土 2mm 以下ローム粒やや多く含む、1mm 以下焼土粒極少し、同炭化物・2cm 大炭化物少し含む



炉 2・集石土坑 1



第 15 図 ハケ遺跡第 7 地点 J33 号住居跡遺物出土状況 (1/60)、炉・集石土坑 (1/30)

第11表 ハケ遺跡第7地点土坑一覧表(単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
2	長方形	201 × 124	178 × 120	84.7	天井残存
3	不明	158 × (100)	(88) × 80	89.6	
4	不明	(189) × 167	35 × 31	34.8	

第12表 ハケ遺跡第7地点溝一覧表(単位 cm)

No.	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
溝1	「U」字形	66 ~ 152	42 ~ 118	43.2	旧溝3含む
溝2	逆台形	98 ~ 138	10 ~ 86	60	旧溝1含む
溝3	浅い「U」字形	110 ~ 150	70 ~ 86	47.1	旧溝5
溝4	浅い「U」字形	52 ~ 108	26 ~ 54	29.4	

文はRI撚糸文、括れ部に蛇行隆帯、胴部に2本単位の懸垂文と1本の蛇行懸垂文。2は口径15cm(残存1/2)の小形土器。全面RL単節縄文を縦方向に施文、一部斜位施文とし縄文の条が縦になる。3は口唇部が欠落、器面は加熱を受けたように脆い。口径22.5cm(現存1/5)、渦巻文と楕円文を交互に(おそらく6単位)配し、胴部に半截竹管の平行線で懸垂文を施文、地文RL単節。4は口径28cm(現存1/2)、地文RI撚糸文、「フ」状に突出した渦巻文と、直下に3本単位の短い懸垂文と楕円文で組み合わせた6単位の口縁部文様帯を構成。頸部は2本単位の隆帯で区画、胴部は1/3ほど残存、2本単位の直線懸垂文と1本の蛇行懸垂文。5は最大径46cmの浅鉢形土器(現存1/8程)。外湾する無文の口縁部と「く」字状の文様施文部の境に交互刺突、隆帯で杵状の楕円文とその脇に先端が退化した連結渦巻文に、地文は縦の沈線。6は有孔罅付土器で、口径24cm(現存1/8)。赤褐色で胎土は非常に堅緻、内面は横位のヘラ磨き、外面は無文口縁部で縦にヘラ磨きを施す。幅4mmの細い沈線の区画内に複節RLRを充填文、大きな渦巻文を施文する。

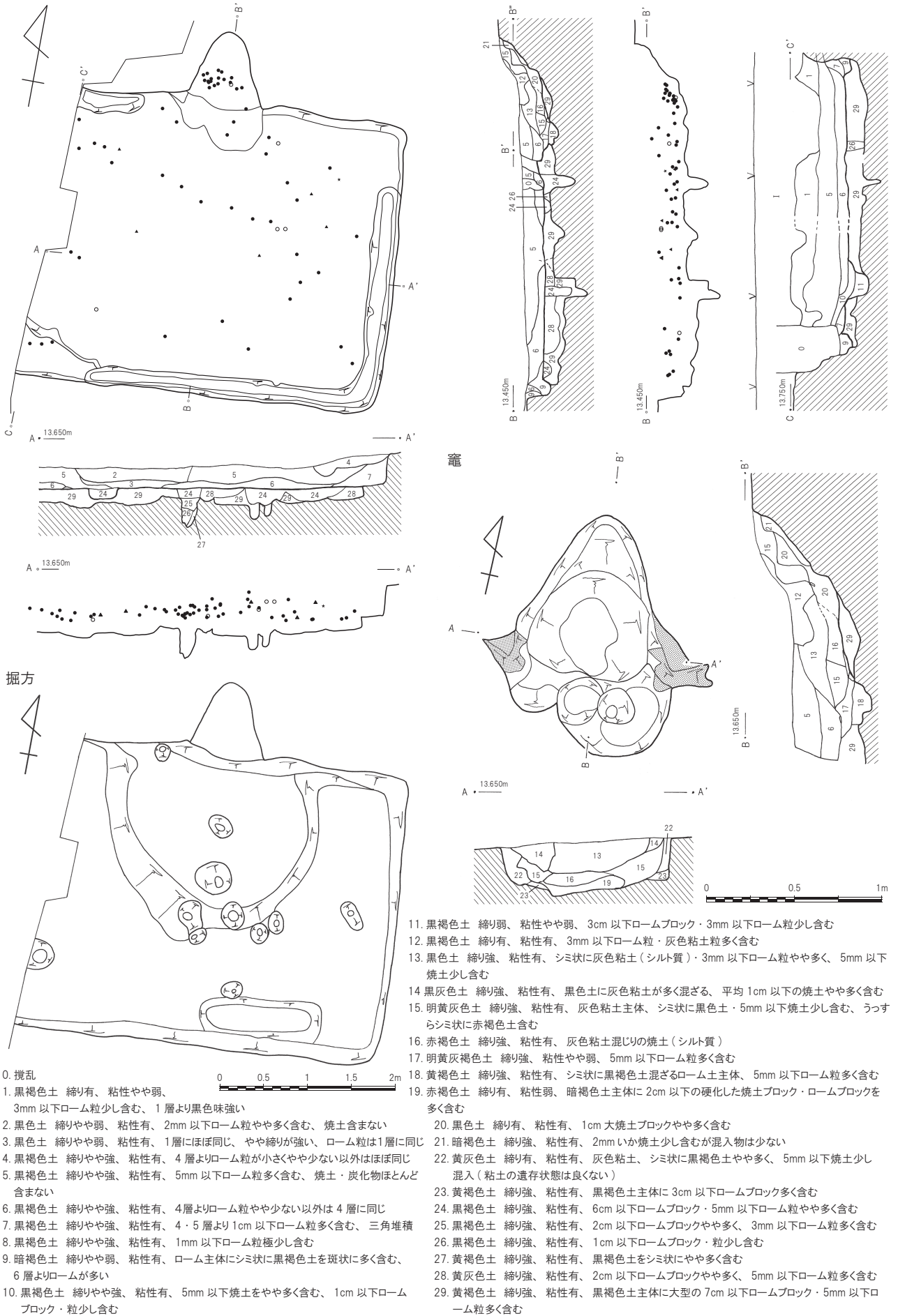
7~13は早期・前期の土器。7は内外面とも縦方向に貝殻条痕を施文する茅山系の土器。8は諸磯a式、暗褐色で繊維は含まない。縄文RLの原体をRLの原体に付加する、詳細不明。9・10は大形爪形文の諸磯a式。11は諸磯b式の大きく内湾した口縁部片。細い粘土紐の上に刻みを施す。12・13は諸磯c式土器。12の地文は半截竹管の集合条線で、半円形の突起を貼付る。13も地文は集合条線である。

14~20は中期の土器。14は細い連続爪形文の勝坂I式土器で浅鉢形。内外面ともによく研磨する。

15は楕円の隆帯の脇に幅広の爪形文、幅狭三角爪形文などが多用された勝坂I式(新)。16は浅鉢形。胎土に多量の雲母を含み、楕円の隆帯の脇を半截竹管で平行沈線を施した阿玉台式。17は口縁に平行にキャタピラ文を密に施文、中央の隆帯脇にも施文、いわゆる抽象文。地文は無文だが輪積痕の接合痕が残され、凸部に指頭押圧文が斜位に等間隔で連続して施文。阿玉台の指頭痕に近いが雲母は含まない、勝坂II(古)。18は隆帯の脇に連続幅広三角文を施し、隆帯上には刻みがある、勝坂II(古)式。19はRLの単節を施したソロバン玉状器形の底部近く、いわゆるパネル文の胴部区画文。区画文の境に「ハ」字状の刻みを施す、勝坂II(新)式。20は無文口縁部に罅状隆帯を貼り付ける。

21~26はキャリパー状の加曽利E式土器群。21は地文に無節r撚糸文、粘土紐をクランク状にS字状文を貼り付ける。22は地文単節LR、粘土紐で大きなS字状文を付け、粘土紐両側のナゾリが深い。23は地文Lr撚糸文で、粘土紐で渦巻文を付ける。24・25は、粘土紐で渦巻きを「フ」字状に突出した突出渦巻文である。26も粘土紐でS字状の渦巻きを配し、渦巻が文様区画の横位の隆帯に接する。27は加曽利E系の胴部片で、括れ部に二本隆帯で区画。胴部は地文単節RLに緩い蛇行懸垂文が付く。28は地文単節RLに二本隆帯で直線懸垂文、大きな蛇行懸垂文を付ける。

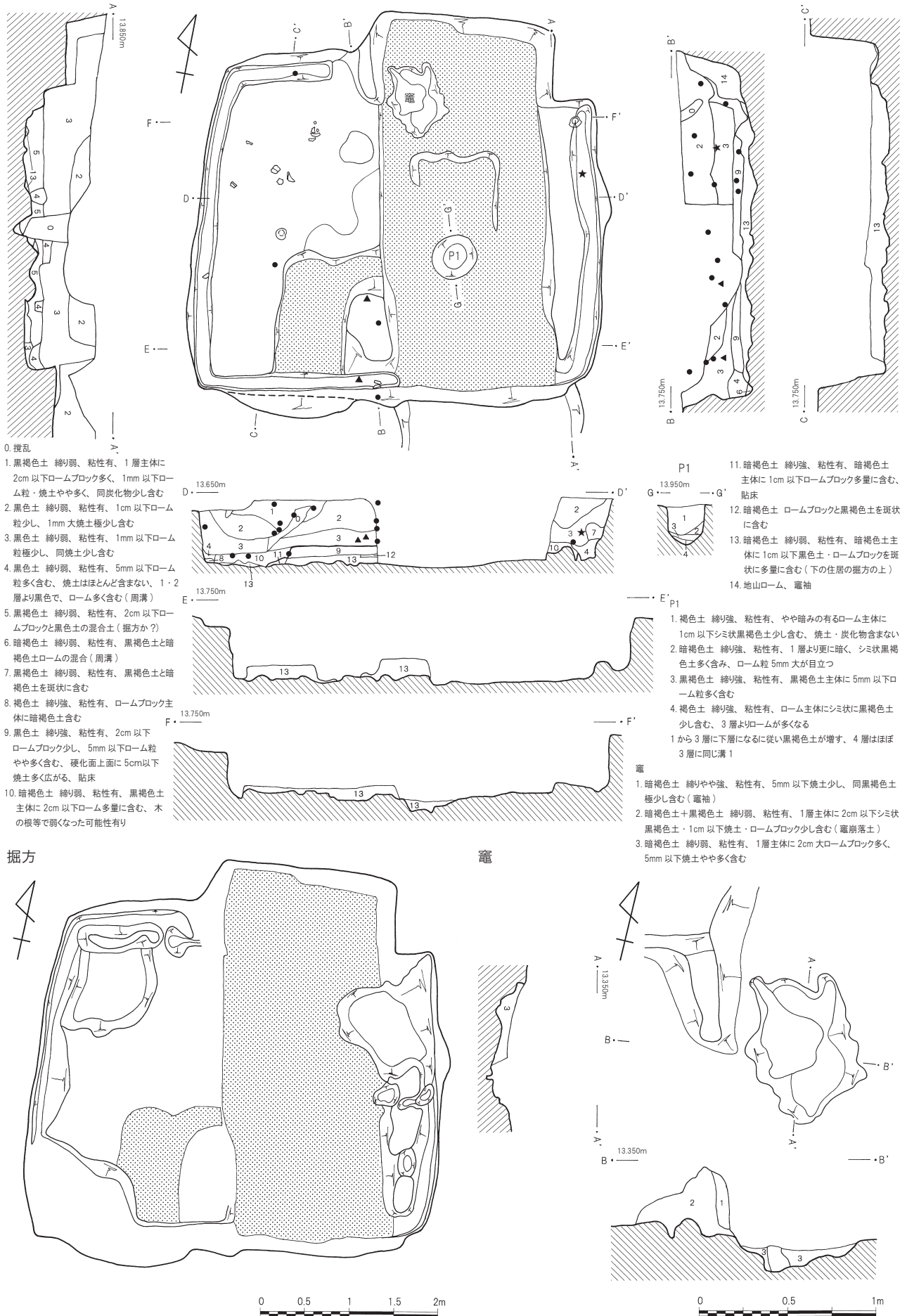
29~32は曾利系土器。29は口径約36cm(現存約1/8)、裏面に黒斑が有り明茶色。30は地文単節RLに二本隆帯で小形蛇行懸垂文を貼付。31は暗褐色で大形の曾利II式系。破片は多いが接合しない。口縁部は地文半截竹管による集合沈線で緩い弧状を施す。



第16図 ハケ遺跡第7地点H14号住居跡・掘方(1/60)、竈(1/30)



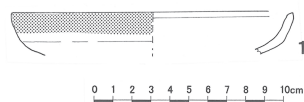
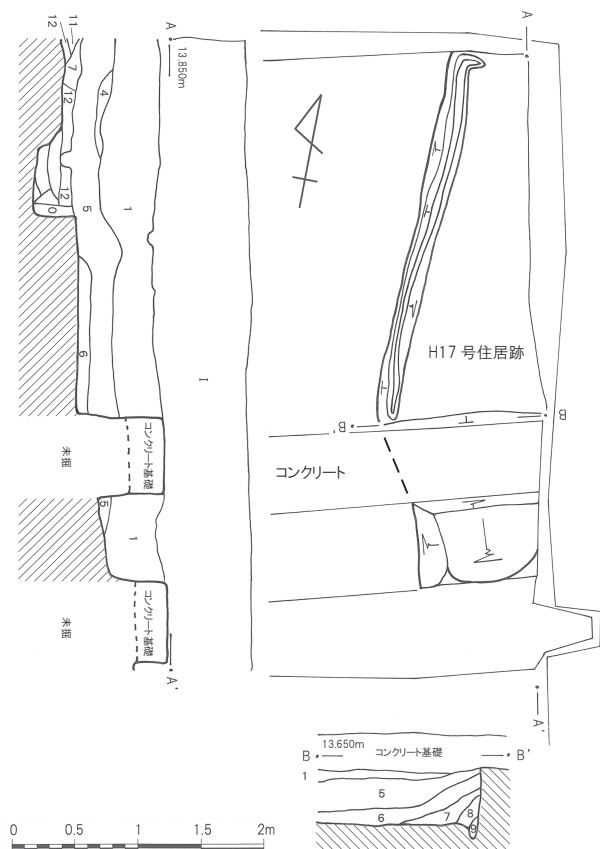




第18図 ハケ遺跡第7地点H16号住居跡(1/60)、竈(1/30)

第13表 ハケ遺跡第7地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

掲載No.	出土遺構名	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石材 / 推定生産地	推定年代	残存 / 備考 / 注記No.
36	J31号住居跡	石鏃	2.3	1.5	0.5	1.93	黒曜石		完形 / J31住A区1
37	J31号住居跡	小型打製石斧	5.7	3.5	1.5	34.39	砂岩		一部欠損 / J31住No.200
38	J31号住居跡	石器 / 打製石斧	10.8	5	1.5	73.03	砂岩		完形 / J31住H7
39	J31号住居跡	石器 / 打製石斧	10.1	5.7	2.4	147.67	砂岩		完形 / J31住No.104
40	J31号住居跡	石器 / 打製石斧	(8.8)	4.4	1.4	71.39	砂岩		上部欠損 / J31住H2
41	J31号住居跡	石器 / 打製石斧	(8.6)	3.5	1.8	129.78	泥岩質ホルンフェルス		下部欠損 / J31住H7
42	J31号住居跡	石器 / 打製石斧	(8.2)	5.1	2.7	137.71	砂岩		下部欠損 / J31住No.121
56	J32号住居	石器 / 打製石斧	(10.7)	6	2.4	177.81	泥岩質ホルンフェルス		上部欠損 / TP1
57	J32号住居	石器 / 打製石斧	(6.7)	5	2.2	61.69	黒色細粒砂岩		一部残存 / TP1
110	J33号住居	石器 / 石鏃	2.9	0.9	0.5	1.56	チャート		完形 / J33住No.349
111	J33号住居	石器 / 尖頭器	(4.9)	1.7	0.8	6.00	黒色安山岩		下部欠損 / J33住No.608
112	J33号住居	石器 / 石鏃	1.2	1.3	0.4	0.48	黒曜石		一部欠損 / J33住No.33
113	J33号住居	石器 / 小型打製石斧	5.7	2.6	0.9	17.28	黒色細粒砂岩		完形 / J33住H1
114	J33号住居	石器 / 磨製石斧	7.5	3.1	0.7	24.98	頁岩		完形 / J33住No.38
115	J33号住居	石器 / 打製石斧	(8.5)	4.7	1.2	62.76	砂岩		上部欠損 / J33住No.51
116	J33号住居	石器 / 打製石斧	9.2	3.5	1.4	57.21	泥岩質ホルンフェルス		下部欠損 / J33住No.445
117	J33号住居	石器 / 打製石斧	(7.7)	5.9	1.2	150.70	黒色細粒砂岩		一部残存 / J33住No.427
118	J33号住居	石器 / 打製石斧	(7)	6	1.5	97.45	砂岩		上部欠損 / J33住No.538
119	J33号住居	石器 / 打製石斧	(9.1)	5.8	1.9	138.62	砂岩		上部欠損 / J33住No.70
120	J33号住居	石器 / 磨製石斧	7.5	3.7	1.7	105.50	蛇紋岩?		上部欠損 / J33住No.426
121	J33号住居	石器 / 敲石	12.3	4.3	2.8	195.66	砂岩		背面剥離 / J33住No.325
135	H14号住居	石器 / 打製石斧	(8.2)	3.3	1.4	39.97	黒色細粒砂岩		下部欠損 / H14住No.17
138	H15号住居	石製品 / 砥石	12.3	7.5	4.7	699.73	砂岩		一部欠損 / H15住No.6
145	H16号住居	石器 / 石鏃	4.1	(2)	0.6	4.13	チャート		一部欠損 / H16住No.15
160	遺構外	石器 / 石鏃	1.5	1.1	0.4	0.58	黒曜石		完形 / H22
161	遺構外	石器 / 石鏃	2.3	1.7	0.3	1.31	チャート		完形 / 5トレ2
162	遺構外	石器 / 打製石斧	9.3	4.7	1.2	66.37	輝緑凝灰岩		完形 / H11
163	遺構外	石器 / 打製石斧	9.2	4.7	2.5	172.70	砂岩		完形 / H11
164	遺構外	石器 / 打製石斧	10.7	7.4	2	142.65	ホルンフェルス		上部欠損 / H31
165	遺構外	石器 / 磨製石斧	11.1	4.8	3.3	372.83	砂岩		上部欠損 / H20
166	遺構外	金属製品 / 銭貨	2.7	2.7	1.1	3.39	材質: 銅 / 孔径 0.68 / 銭貨名: 不明		上部欠損 / H20



- I. 表土 暗黄灰色土 締り強、粘性有、所々ローム主体の覆土を伴う掘り込み有り
- 0. 攪乱
- 1. 黒色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、3mm以下焼土・ローム粒少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、土質は11層に似るが、5mm以下ローム粒・シミ状に黒色土をやや多く含む、締り弱め、3mm以下焼土少し含む、J31号住居跡を切る掘り込み
- 3. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒・2mm以下焼土少し含む
- 4. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、3mm以下焼土少し含む
- 5. 黒色土 締り強、粘性有、2cm以下暗褐色土ブロック・2mm以下ローム粒・焼土少し含む
- 6. 黒色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く、2mm以下焼土・5mm以下炭化物少し含む
- 7. 黒色土 締り強、粘性有、上層より褐色味が有る、2mm以下ローム粒やや多く、1cm以下ロームブロック少し含む
- 8. 黒色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土をやや多く含む明らめ、5～10mm以下ロームブロック少し含む
- 9. 黄灰色土 締り強、粘性有、黒色土主体にローム土・2mm以下ローム粒多く含む
- 10. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・5mm以下焼土・3mm以下炭化物や多く含む、焼土やや多いのが特徴
- 11. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、3mm以下ローム粒少し～やや多く、焼土・3mm以下炭化物少し含む
- 12. 黒褐色土 締り強、粘性有、11層より黒色味が有り、締り強めで3mm以下ローム粒多め、焼土・3mm以下炭化物少し含む

第19図 ハケ遺跡第7地点 H17号住居跡 (1/60)、出土遺物 (1/4)

口縁部から半截竹管で押圧した隆帯が垂下、胴部に接合する括れ部には蛇行の隆帯を廻らす。32は大形土器で、地文は半截竹管の集合沈線を全面に施し、隆帯で捻れ蛇行懸垂文を付ける。

33～35は底部。33はLr撚糸文に半截竹管による幅8mmの2本組蛇行沈線を施す。34の底部は全周し、直線の懸垂文と蛇行懸垂文が交互に4単位を成す。外面は研磨が著しく、内面の底部側面は黒色化してざらつき、底面は黒色から灰茶色になる。35は浅鉢形土器の底部。内外面ともにヘラ磨き痕が著しい。外面は明茶褐色で内面は黒斑がつき黒褐色である。

### ② J32号住居跡出土土器（第23図43～55）

43は、内外面貝殻条痕が施された茅山系土器。44・45は諸磯a式。44は半截竹管による平行線で縦沈線を中心にして肋骨文を施文。45は半截竹管の連続爪形文が5mmの間隔を挟んで平行に施し、研磨され光沢を帯びる。46は風化が著しいが、口縁部が「く」の字状に内湾。地文半截竹管の集合条線が施される。口縁部に細い粘土紐を貼り付け、頸部には等間隔に押圧したやや太い粘土紐を貼り付ける。胎土に雲母片を含む。46は中期初頭か。47は半截竹管による集合条線である。47は諸磯c式。

48は指頭押圧痕で、断面三角形の隆帯が横位に貼り付けた阿玉台1b式。49・52は勝坂I式（新）。49は隆帯の脇に幅の狭い（幅5mm）「D」字形連続爪形文、50～52は、「D」字形の幅広三角（幅8mm）の連続爪形文が施文。隆帯の断面はやや丸い三角形。53～55は勝坂II式。53・54は「D」字形の幅広（1.2mm位）連続爪形文が1mm間隔に密に施文。53の図示下端にいわゆる抽象文で、胴部地文はLRの単節を横位に回転施文。54も抽象文である。55は、隆帯の上に密な「C」字形の連続爪形文を施文。胎土に雲母が混入する。

### ③ J33号住居跡出土土器（第24・25図58～109）

64～88は、混入した土器で細片が多く、住居跡と所属時期が異なる。他は住居に關係する。58は、6単位の突出渦巻文を「U」字状で連結させ口縁部文様帯を構成。地文条線で明茶褐色。胴部には竹管で2本の平行懸垂文と1本の緩い蛇行懸垂文を付ける。59は加熱を受けているらしく非常に脆い。口径42cm（接合しないが1/3現存）で白黄色。地文Lr撚糸文を施し、粘土紐を貼付け渦巻文と楕円杵文を構成。胴部には2本の隆帯で平行懸垂文と1本の蛇行懸垂文を貼り付ける。60は地文Rl撚糸文、灰黄色で内面黒褐色。加

熱を受け器面は風化し脆い。3本の沈線で2本単位の「擬隆帯」による平行懸垂文、蛇行懸垂文が付く。61は、波状口縁で口径約30cm（現存1/10）。加熱を受けたように風化が激しい。暗褐色。図示した口縁部と胴部は接合しないが同一個体。口縁部は無文で、胴部上半まで6～8本単位の条線。胎土には8mm大の小砂利が多量に混じる。

62は口径44.5cm（現存6/8）、同一個体の破片が多いが接合しない。色調は茶褐色。加熱を受けたように非常に脆い。口縁部は無文で口唇部は内側に湾曲した曾利系。頸部に太い半截竹管による平行線を蒲鉾状に5段ほど施し、上を斜め右側から左上、左下方向へ交互刺突文を2段に施す。胴部にはRL単節を縦回転。隆帯の懸垂文を貼り付ける。63は胴下半部で地文条線。黄褐色で胎土は非常に脆い。隆帯の直線懸垂文、蛇行懸垂文を雑に付ける。

64～66は諸磯a式。64は口縁部直下に半截竹管による押し引き、縦に円形刺突から半截竹管による肋骨文を施文。65は半截竹管で平行線を引いた後、間に鋸歯文を施文。66は半截竹管の集合条線を横直線に引き、間に波状集合条線を加え、さらに口縁部から刺突文を加える。67・68は縄文のみの胴部片、RL単節を横回転施文。端末をS字状の結節文。

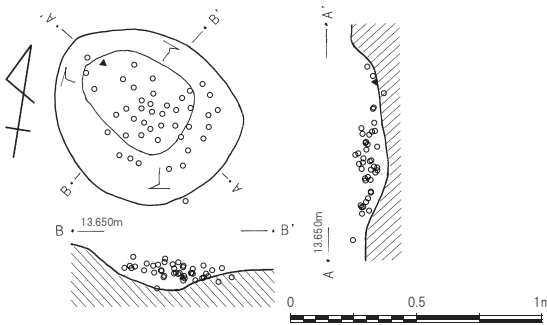
69～71は諸磯b式。69は連続C字形の大形の半截竹管文。70は2単位の大型波状口縁の土器と推察。右側へ引いた半截竹管と器面に直角に押し付けた円形刺突文がある。71は口縁部で、細い粘土紐で斜位に刻みを加えた浮線文で文様を付ける。

72～74は集合条線の諸磯c式。72は重渦巻き文の口縁部片。73は波状口縁部で、内外面に集合条線を施す。74は上半が横位、下半は縦に集合条線を施文し、円形の貼付がある。75、76も同類である。75は胎土に雲母片が混入、口縁部は横位に胴部は縦に半截竹管の集合条線を施文、直径5mmの小さい円形の貼付文が付ける。76は口縁部で半截竹管を束にした条線を斜めに施し円形の貼付文がある。77は胎土に雲母片が混入。貝殻復縁を横位に結節して引く。78は口径20cm程、外面は雑な擦痕調整で凹凸が激しく、内面はよく磨く。口唇部が大きく外湾し7mm間隔で刻みが付く。外面に2～3mmの半截竹管で左上から右下に1～1.4cm間隔で施文。77～78は興津式土器か。

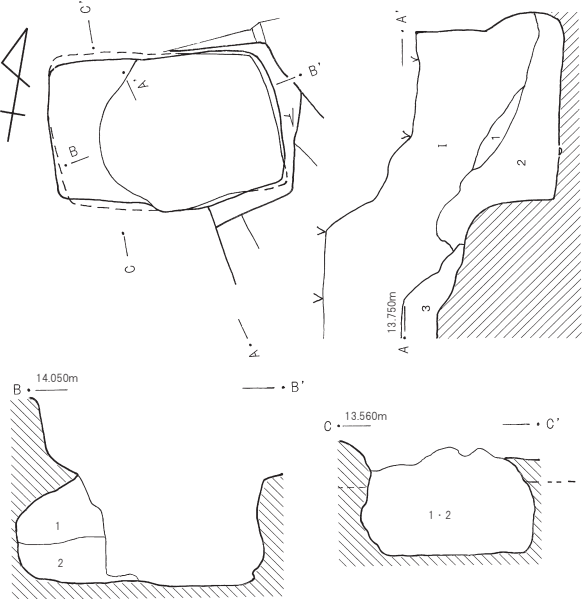
79は波状口縁で胎土に雲母を多量に含み黒褐色。断



集石土坑 2



土坑 2



土坑 4

- 0. 黒色土 締り強、粘性有、5mm 以下焼土少し含む
- 1. 黄灰色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
- 2. 灰黒色土 締り強、粘性有、5mm 焼土少し含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、3mm 以下焼土少し含む
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土多く含む、2mm 以下焼土少し含む
- 5. 黄灰色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒少し含む
- 6. 黒色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、3mm 以下ローム粒・焼土少し含む

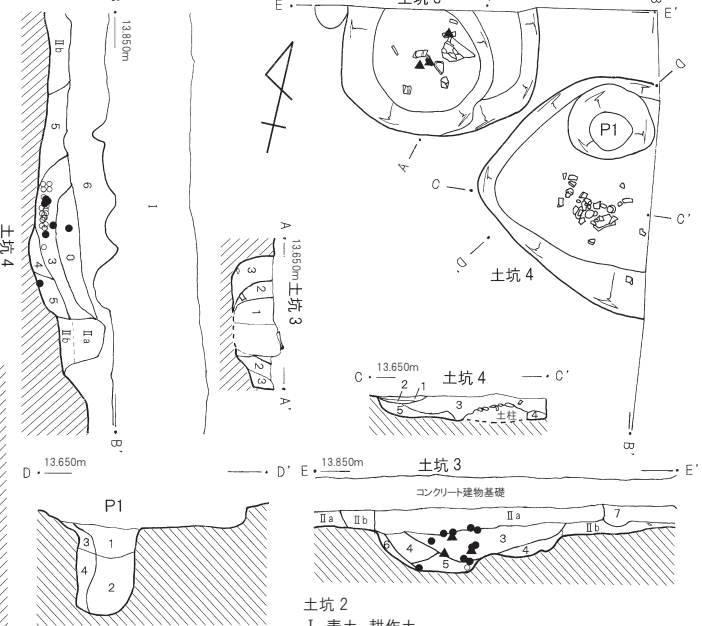
ピット 1

- 1. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、色調は土坑 4 の 4 層に近い、2mm 以下ローム粒やや多く、3mm 大焼土・炭化物少し含む
- 2. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、締りは 1 層より弱め、3mm 以下ローム粒多く含む
- 3. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に 3mm 以下ローム粒少し、焼土僅かに含む
- 4. 黄灰色土 締り強、粘性有、締り 3 層より弱め、シミ状に 3mm 以下ローム粒少し含む

井戸 1

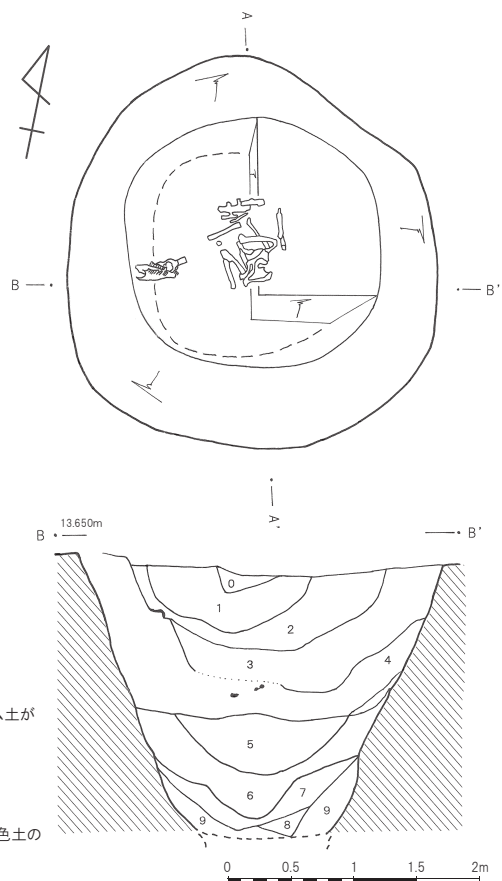
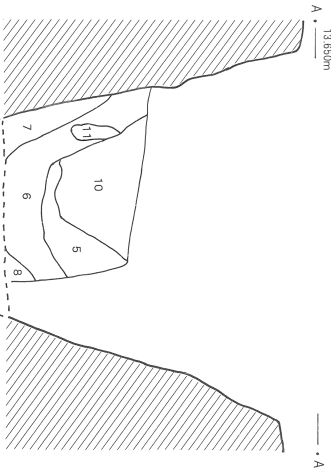
- 0. 攪乱
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒やや多く含む
- 2. 黒褐色土+黒色土 締りやや強、粘性有、黒褐色土とこしよこの混合で 1mm 以下ローム粒極少し含む
- 3. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、2 層に見られた黒色土を含まない以外は、ほぼ 2 層に同じ
- 4. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、ロームブロック多く含む
- 5. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm 以下ローム粒少し含む、黄灰色味が有る
- 6. 黄褐色土+黒褐色土 締りやや強、粘性有、黒褐色土とローム土が混ざる、西半は約 5cm 厚の黒褐色土とローム土が斜位に互層を成す
- 7. 黒褐色土 締り有、粘性有、2cm 以下ロームブロック・ローム粒部分的に少し含む
- 8. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、1cm 以下ロームブロック・ローム粒やや多く含む
- 9. 黄褐色土 締りやや弱、粘性有、黄灰色味有る黒褐色土ベースに、5cm 以下ロームブロック・ローム粒主体
- 10. 黒褐色土 締り有、粘性有、2cm 以下シミ状のロームブロック・5mm 以下ローム粒やや多く含む、黒褐色土と黒色土の混合土
- 11. 断移層～ソフトロームのブロック崩落土か

土坑 3・4



- 1. 黒色土 締り強、粘性有、3cm 以下ロームブロック・5mm 以下ローム粒少し含む
- 2. 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、黒褐色土主体に 3cm 以下ロームブロック・5mm 以下ローム粒多く含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有
- 土坑 3
- II a. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下焼土少し含む
- II b. 黄灰色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
- III. 暗褐色土 締り強、粘性有、地山ソフトローム
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム・3mm 以下焼土粒やや多く、1cm 焼土ブロック少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1 層より明るめ、ローム・焼土・2mm 以下炭化物少し含む
- 3. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状の 3mm 以下ローム粒少し含む
- 4. 黄灰色土 締り強、粘性有、うすら斑状に 2cm 以下ロームブロックやや多く含む
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒やや多く含む
- 6. 黄灰色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・焼土・炭化物少し含む
- 7. 黒色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、3mm 以下ローム粒・焼土少し含む

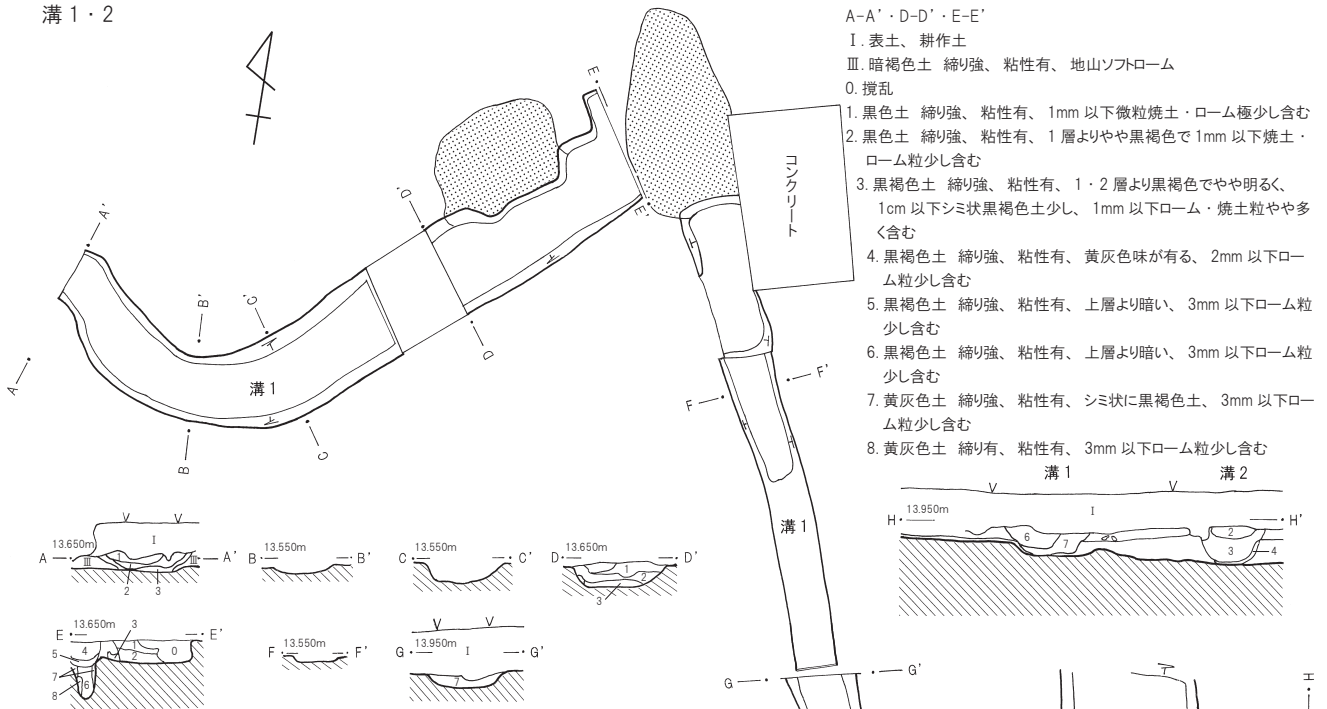
井戸 1



第 20 図 ハケ遺跡第 7 地点集石土坑 2 (1/30)、土坑・井戸 (1/60)

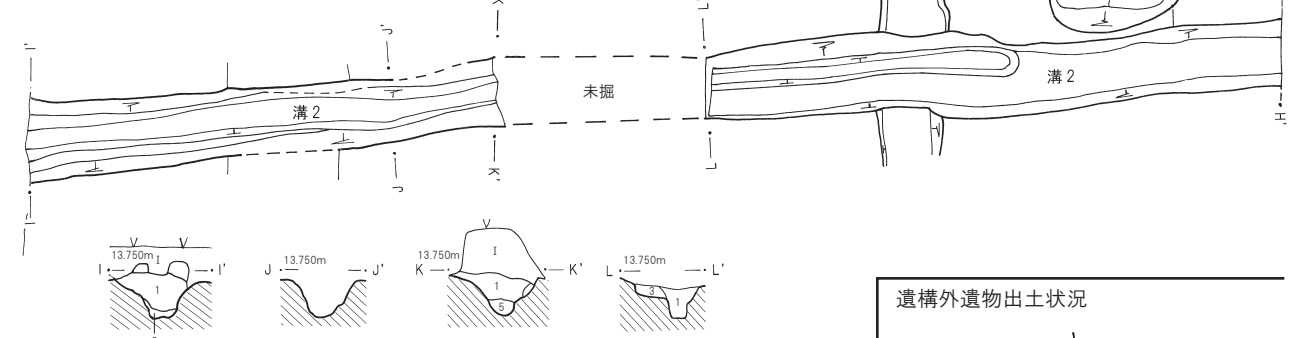


溝 1・2



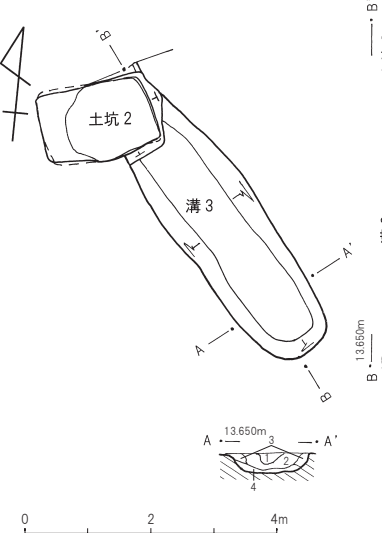
H-H'・I-I'・K-K'・L-L'

- I. 表土 耕作土
1. 黒色土 締り弱、粘性有、3mm以下ローム粒多く含む、2～4層とは別の溝覆土である
  2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、I層の黒灰色土をシミ状に多く含む
  3. 黒色土 締り強、粘性有、ほぼ何も含まない黒色土、1mm以下褐色粒子極少し含む
  4. 黒褐色土 締り弱、粘性有、I層主体に1cm以下暗褐色ブロック少し含む
  5. 黒褐色土+暗褐色土 黒色土と暗褐色シミ状ロームを斑状に含む、側壁には水性堆積の赤褐色酸化鉄がみられる
  6. 黒色土 締り弱、粘性有、1cm以下シミ状黒灰褐色土を少し含む
  7. 黒色土 締り弱、粘性有、1cm以下シミ状黒灰褐色土を極少し、5cm以下暗褐色ロームブロック少し含む



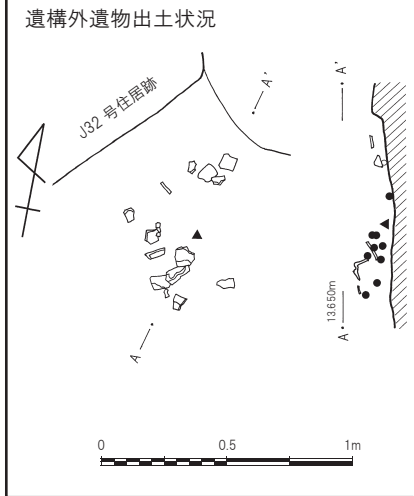
溝 3

溝 4



溝 3

1. 黒色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、1層よりやや褐色味が有り、1mm以下焼土・ローム粒少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1・2層より明るく、シミ状にローム土・1mm以下ローム粒やや多く含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色土主体に2cm以下、シミ状にロームブロックやや多く含む



第 21 図 ハケ遺跡第 7 地点溝 (1/120)、遺構外遺物出土状況 (1/30)

面三角系の隆帯脇に結節沈線文を加え、胴部に指頭による押圧痕が付く。阿玉台 1b 式。

80～86は勝坂 I 式。幅 3 mm 程の半截竹管による結節沈線を多用。80は粘土紐で長方形の杵状文を付け、口縁部に鋸歯文、胴部に平行文を多用。81も口縁部に鋸歯文、胴部に爪形文が斜め縦位に 8 mm 間隔で付く。82は口唇部に 2 条、直下に蛇行の連続爪形文を施す。83は蛇行の抽象文で、蛇行起点に三叉文を配置する。84は口唇部に横一状の幅 7 mm で間隔 3 mm のキャタピラ文が付く。直下に 82 と同じ幅 4 mm の蛇行爪形文を施文、さらに隆帯脇に幅 7 mm のキャタピラ文が付く。85は先端が尖る幅 8 mm の三角状の連続爪形文を間隔 3 mm で隆帯脇に二重に密に施文。内面はよく研磨する。86は粘土紐の隆帯で区分を構成し、地文単節 RL を横位に施文、隆帯脇を半截竹管で 3 mm 間隔のキャタピラ文を施す。空白部には幅 3 mm の爪形文を充填。87・88は同一個体で勝坂 II 式（古）。隆帯で大きな三角形を構成し隆帯の脇を幅 1 cm で約 5 mm 間隔のキャタピラ文を施文。空白部に三叉文を加える。

89は加曾利 E I 式。S 字状文様の橋状突手。地文単節 RL を横位に施文。90～92は加曾利 E II 式（古）。90は「く」の字状に外湾した浅鉢形土器で単独の渦巻文を連結する。内外面ともによく研磨する。91は隆帯で多重渦巻文を施文。92は粘土紐を貼り付け突出渦巻文を付ける。

93～96は曾利系土器。93は口唇部内面に「フ」状に突出させ、口唇部上面に 5 mm 間隔で斜め沈線を付ける。外面は地文条線で二条の沈線を描く。94は推定口径 45 cm、「フ」状の口唇部と口縁部外面に半截竹管で平行線の連続した重弧線文を付けた典型的な曾利 II 式。黒褐色で外面は脆く風化が激しい。95は半截竹管で平行沈線の重弧文を施文。口縁部から垂下する蛇行隆帯と頸部に横位蛇行隆帯を付ける。96は地文単節 RL を施文、頸部と胴部に粘土紐で蛇行隆帯を貼付する。

97・98は連弧文。97は地文条線に、竹管状工具で沈線を 3 本引く。98は地文 Lr 撚糸文に連弧文を施す。口唇部に半截竹管で斜め左下から列点を付ける。99・100は胴部片で地文単節 RL を縦回転し、沈線で連結 S 字状渦巻き文を付ける。外面黒褐色で内面黄褐色。100は地文単節 RL に、幅 1 cm の半截竹管による平行線で蛇行懸垂文を施す。101は有孔鏝付土器。鏝

の断面は方形状に突出する。102～105は加曾利 E II 式（新）～E III 式。102は地文単節 RL に大きな楕円渦巻文。103は胴部下半で地文は無節 RL に 2 本対の幅広沈線で懸垂文施文。104は地文単節 RL を雑に施文、口唇部直下に二本の沈線。105は底部で地文単節 RL に浅い沈線による平行懸垂文で研磨が著しい。

106～107は浅鉢形土器で、内外面良好に磨きを施し、胎土の砂粒も非常に細かい。106は口径 40 cm（現存 1/10）。外面は赤彩がみられ、赤茶色を基調に黒斑が大きい。107は口径約 40 cm（現存 1/8）、外面に赤彩がみられ、内面黒褐色、外面茶褐色を基調に黒斑あり。108は底部で底径 7.5 cm。109は浅鉢形土器で 107 に類似、同一個体の可能性有り。

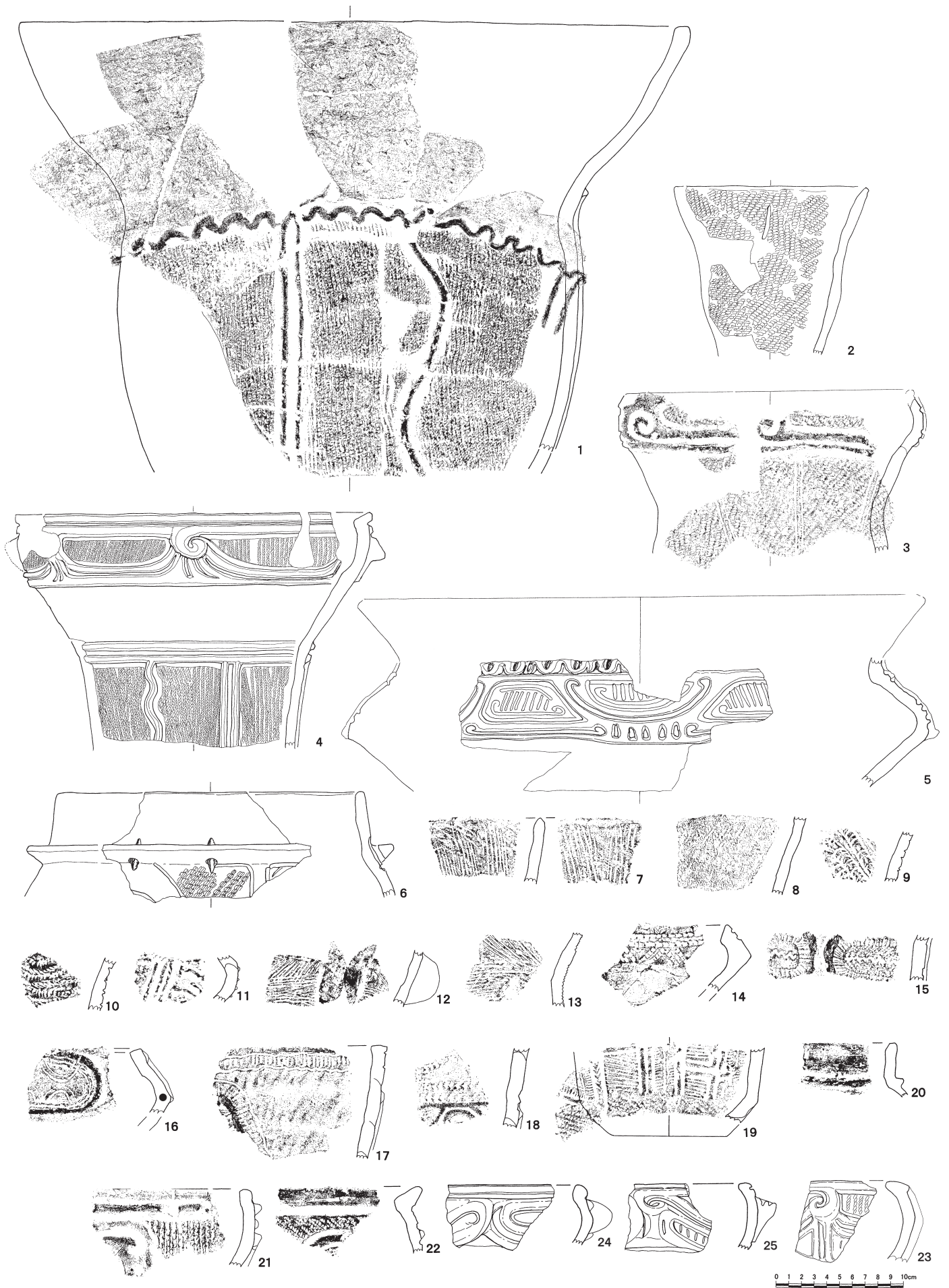
#### ④ H14 号住居跡出土土器（第 26 図 122～134）

122～125は須恵器坏。122は大略完形。口径 13 cm、器高 4.3 cm、底径 7.3 cm。底部回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り調整。灰褐色で胎土に白色針状物質を含む。内外面ともに滑らか。123は現存口縁部 1/2、底部 1/3、口径 13.6 cm、器高 4.0 cm、底径 7.4 cm。底部側面に回転ヘラ削り調整が残る。外面下半にロクロ痕があり、口縁部先端は外湾する。胎土に白色針状物質含む。124は現存口縁部 1/2。口径 12.5 cm、器高 3.1～3.5 cm、底径 6.4 cm で暗褐色。口縁部は緩やかに外湾。底部には回転糸切り離し後、周辺部手持ちヘラ削り調整。125は現存口縁部 3/5。口径 12.3 cm、器高 3.3 cm、底径 6.7 cm で灰褐色。底部は全面回転糸切り離し後、周辺部に一部手持ちにより若干のヘラ削り調整を施す。底部に「×」の窯印がある。126は底部破片。底径 4 cm で現存 1/2、明茶褐色。回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り調整。内面に爪立てによる凹みがある。内面の調整は滑らかである。

127は、長頸瓶の高台付底部。高台径は 8.5 cm。器面は滑らかで硯に転用か、図示した範囲に煤状の付着物がある。胎土に白色針状物質含む。

128は、須恵器碗形土器。現存 1/8、口径 16.6 cm。色調灰褐色でロクロ痕の凸部が青色を帯び、非常に丁寧な作りである。底部下端周辺に手持ちによる調整痕あり。129は須恵器壺形土器の肩部片である。破片の為、図示による器形の傾き等は確かではない。頸部の接合部に、櫛状工具による調整痕有り。胴部下半には平行叩き痕が密に施され、胎土には白色針状物質を含む。

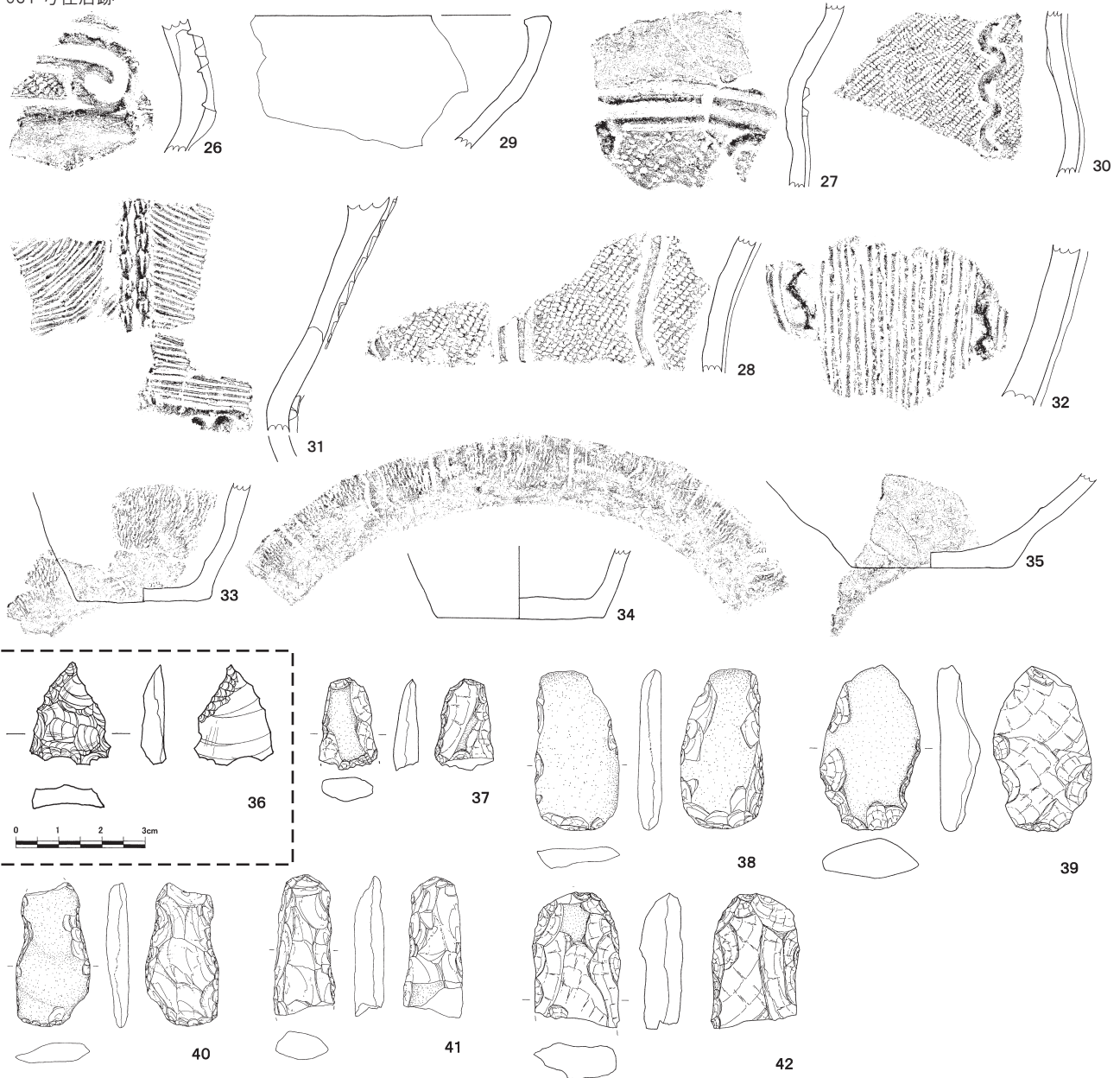
130～132は土師器小形台付甕の口縁部。130は



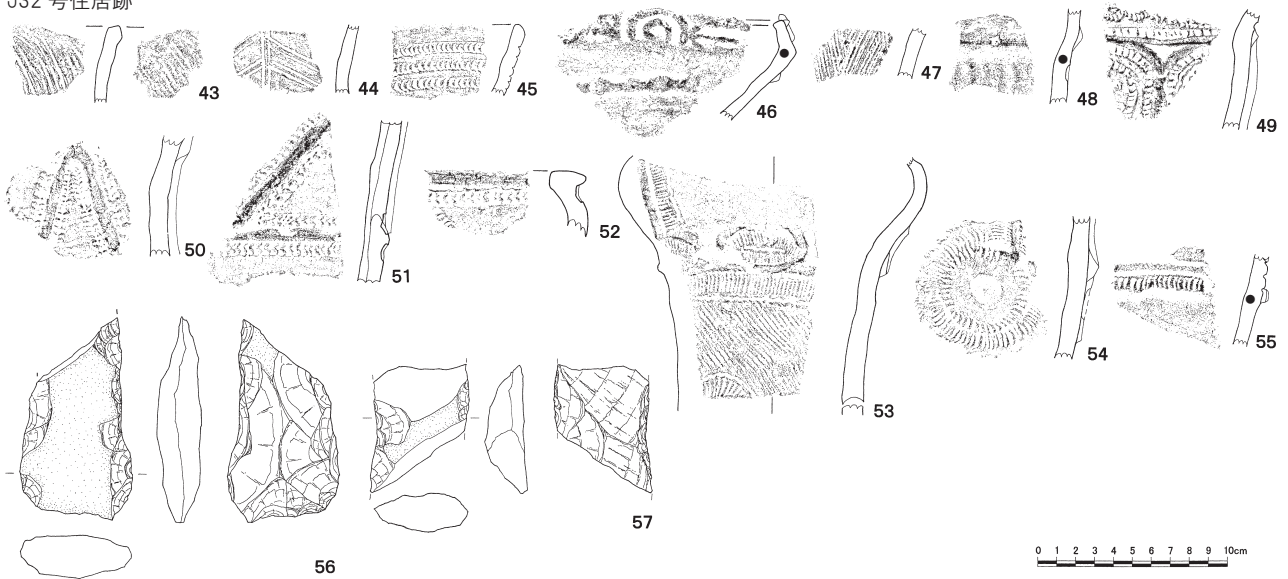
第22図 ハケ遺跡第7地点J31号住居跡出土遺物① (1/4)



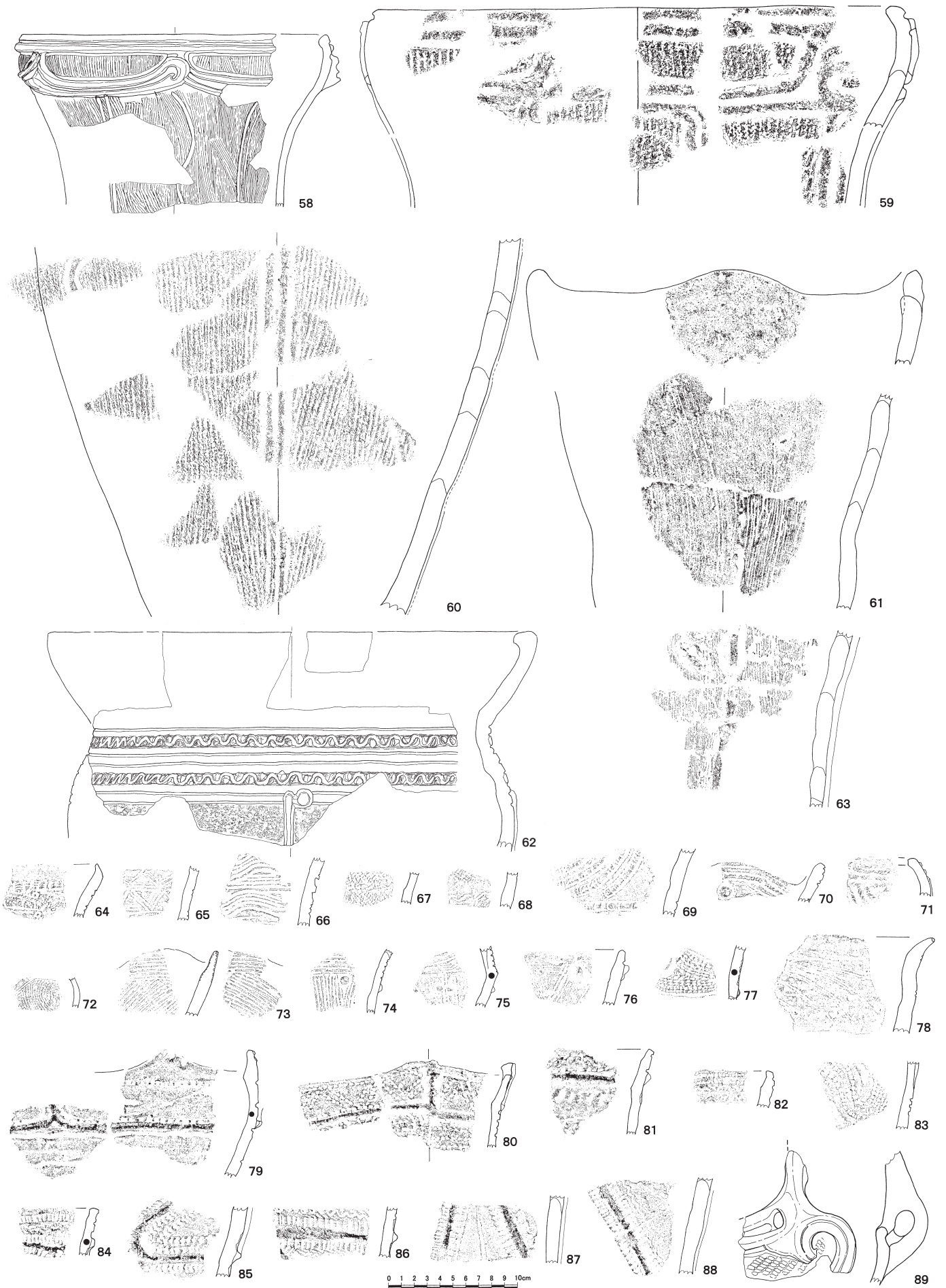
J31 号住居跡



J32 号住居跡

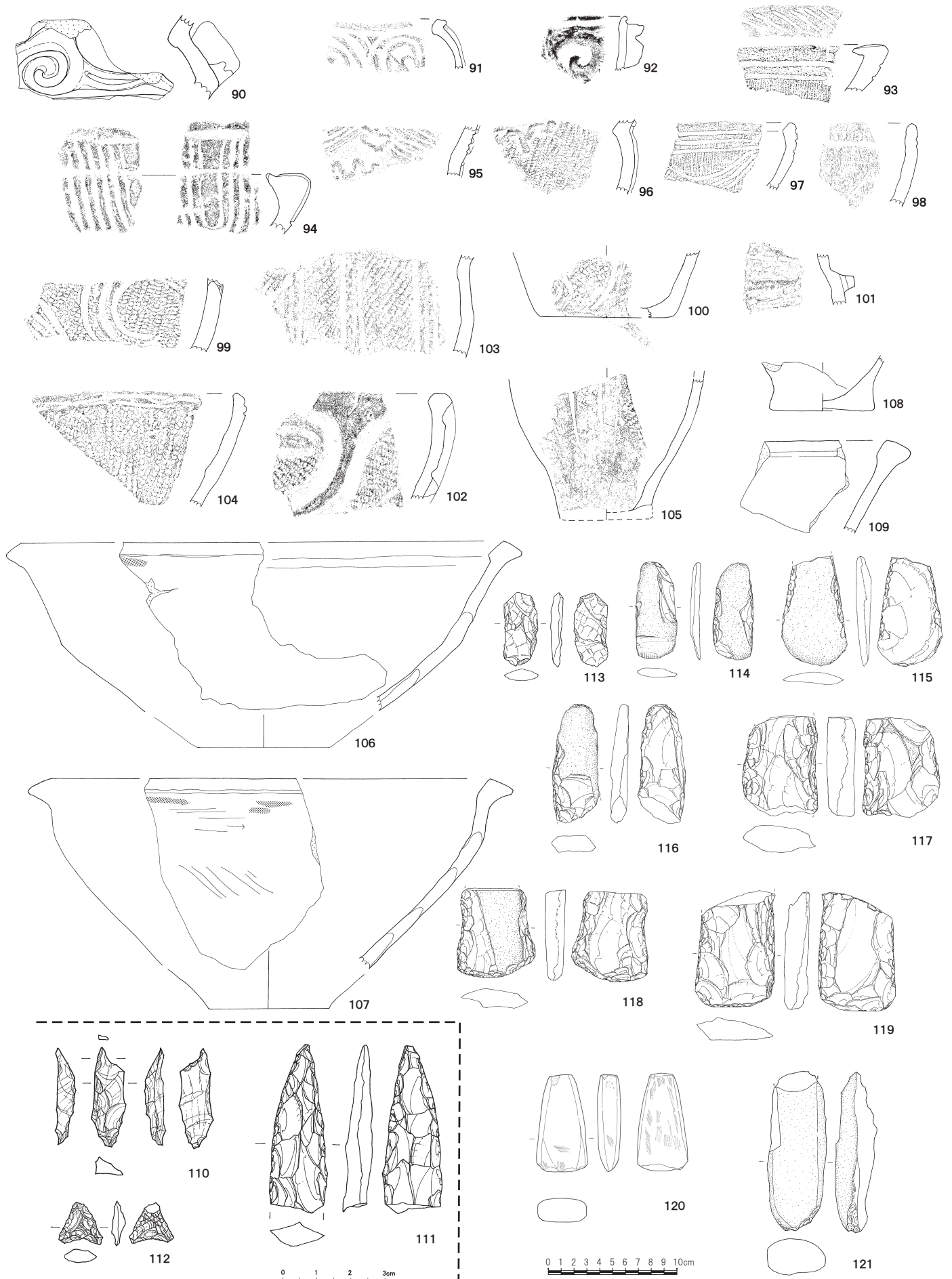


第23図 ハケ遺跡第7地点 J31 号住居跡出土遺物②・J32 号住居跡出土遺物 (1/4)



第 24 図 ハケ遺跡第 7 地点 J33 号住居跡出土遺物① (1/4)

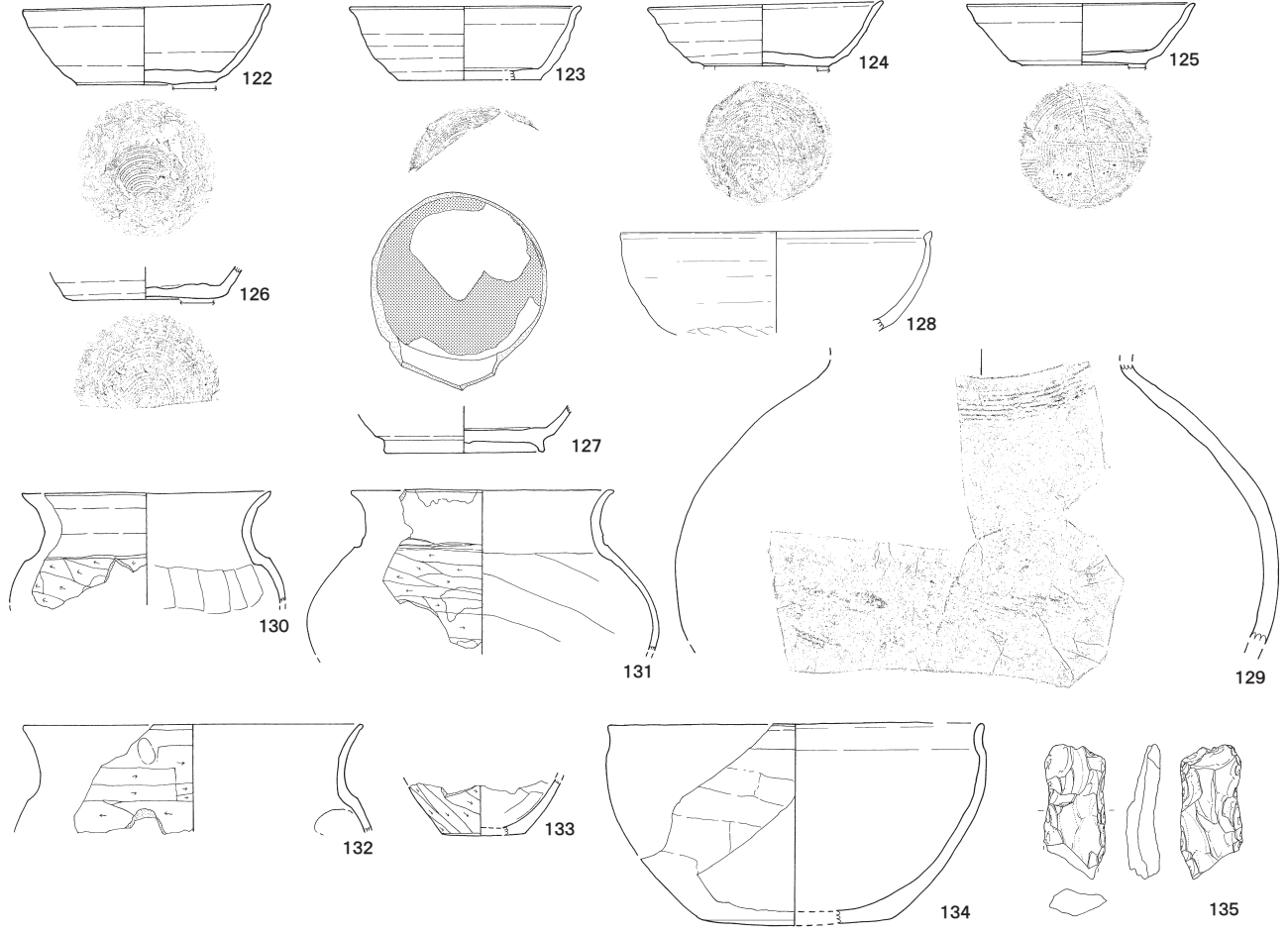




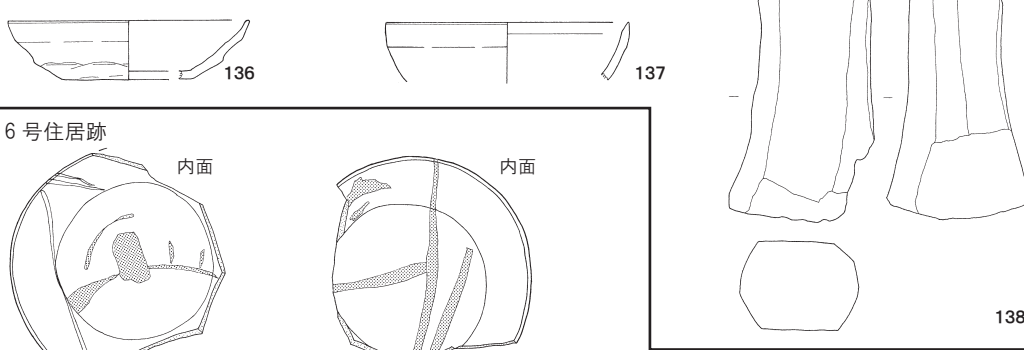
第25図 ハケ遺跡第7地点 J33号住居跡出土遺物② (1/4・2/3)



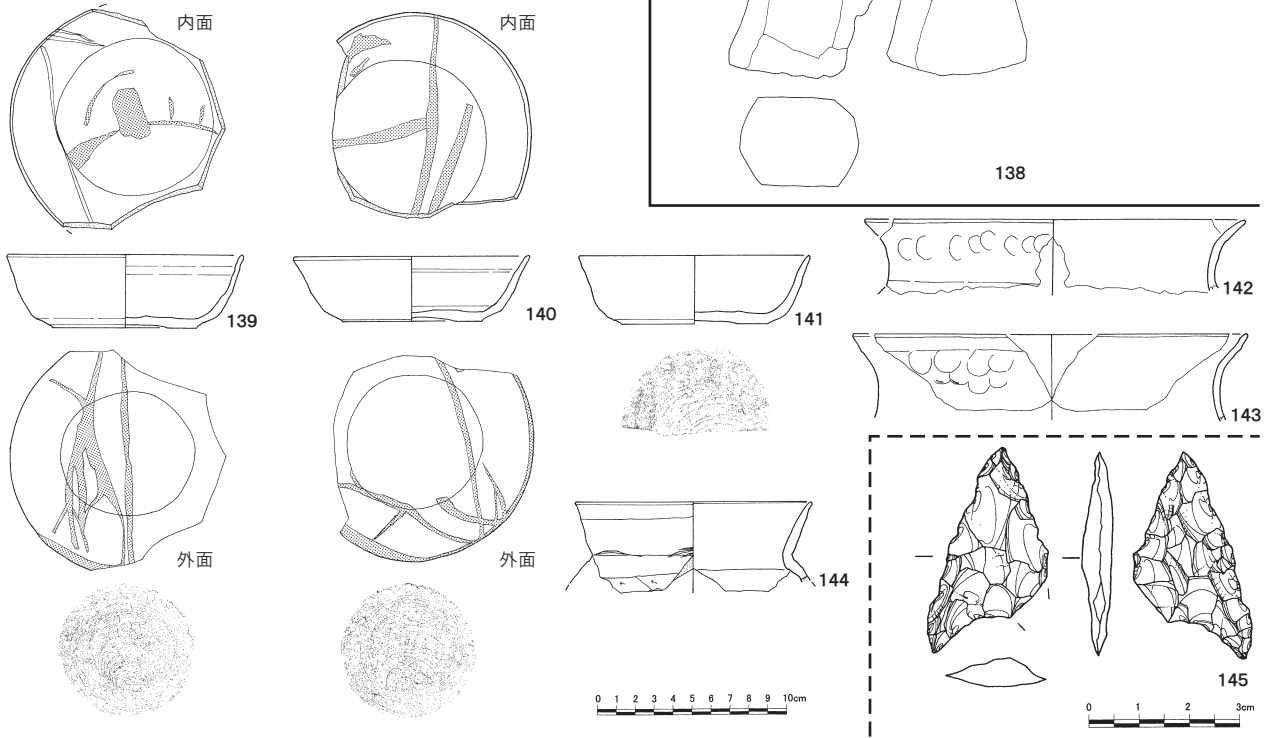
H14 号住居跡



H15 号住居跡

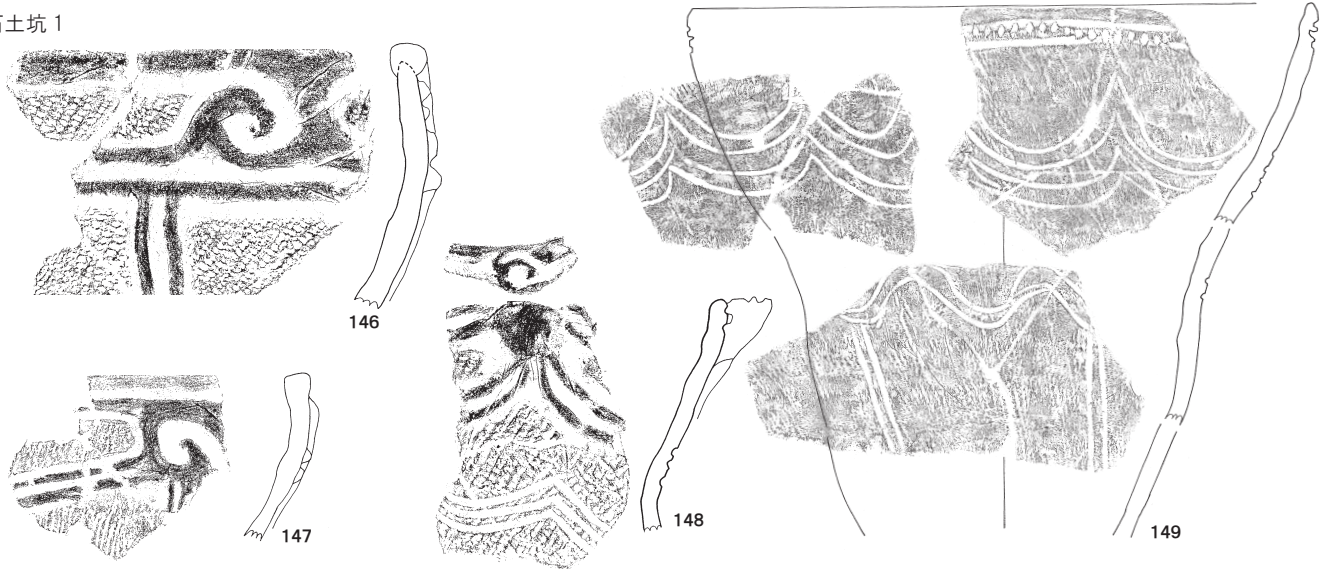


H16 号住居跡

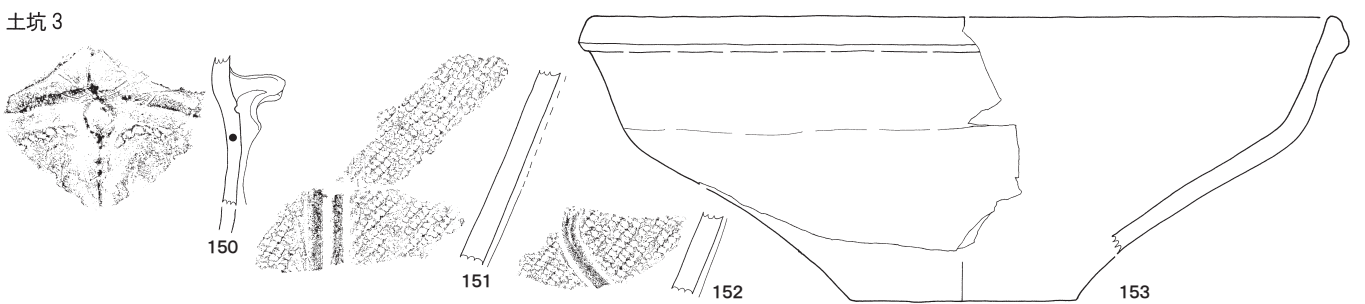


第 26 図 ハケ遺跡第 7 地点 H14 ~ 16 号住居跡出土遺物 (1/4・2/3)

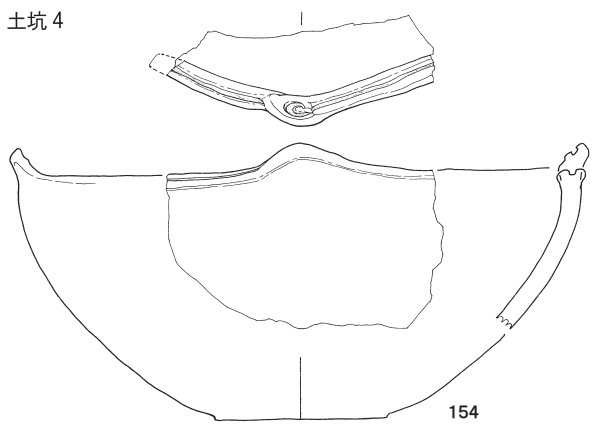
集石土坑1



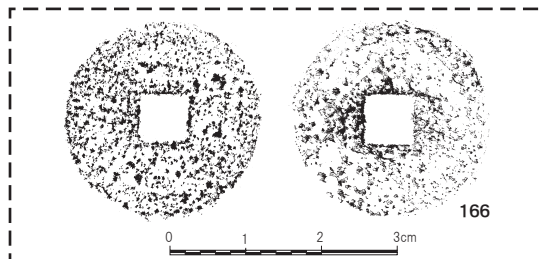
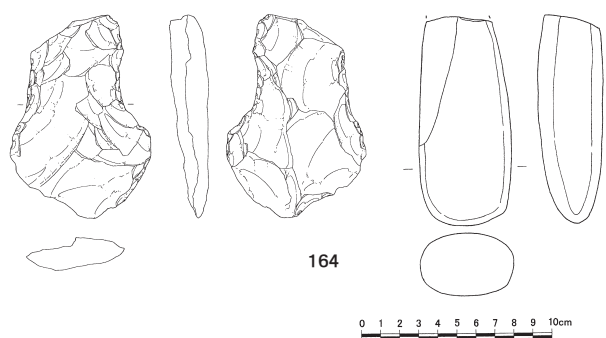
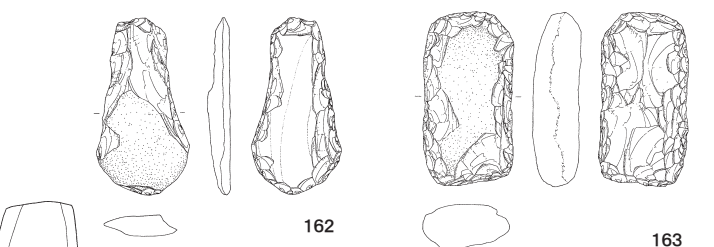
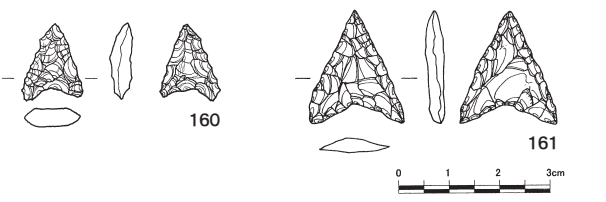
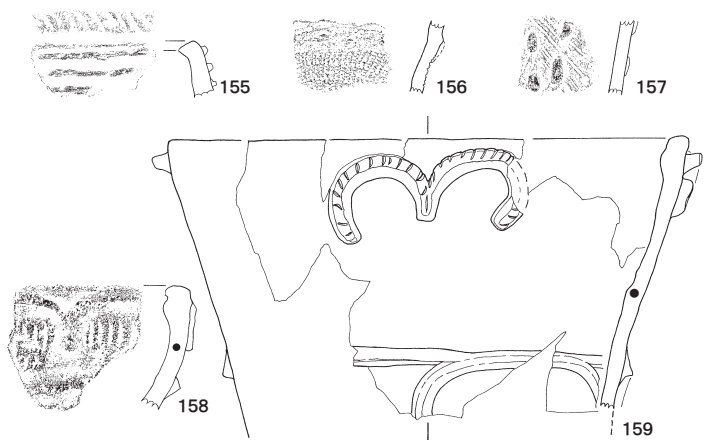
土坑3



土坑4



遺構外



第27図 ハケ遺跡第7地点集石土坑・土坑・遺構外出土遺物 (1/4・2/3・1/1)

口径 13.5 cm (現存 1/4)。黄褐色で胎土に白色針状物質を含む。131 は口径 14 cm (現存 1/7)、130 に較べ胴部が大きく張り出す。132 は土師器甕形土器。口径 18 cm (現存 1/8)、カマド内から出土する。133 は土師器甕形土器の底部で、底径 4.8 cm である。

134 は土師器椀形土器。口径 20 cm (現存 1/5)、体部は内湾して立ちあがる、口縁部は横ナデで外湾する。胎土は強い焼成により非常に脆い。外面調整の削り痕の凹凸がみられるが方向ははっきりしない。

#### ⑤ H15 号住居跡出土土器 (第 26 図 136 ~ 137)

136 は土師器杯、口径 12.8 cm (現存 1/10)、黄肌色。体部下半はへら削りの凹凸が激しく、器面は強い焼成で胎土の粉末が付着する。137 は須恵器杯で焼成不良、灰褐色。口径 13.0 cm (現存 1/10)。

#### ⑥ H16 号住居跡出土土器 (第 26 図 139 ~ 144)

139 ~ 141 は須恵器杯。139 は口径 12.5 cm (現存 1/3)、器高 3.9 cm、底径 7.3 cm。底部は回転糸切り後、周辺部回転へら削り。灰褐色で白色針状物質を含む。火襷痕が内外面に線状に付着。140 は口径 12.6 cm (現存 1/2)、器高 3.4 cm、底径 7.3 cm。底部は回転糸切り後、周辺部回転へら削り。灰褐色で白色針状物質を含む。色調と火襷痕は 139 に同じ。141 は口径 12.3 cm (現存 1/2)、器高 3.7 cm、底径 7.7 cm。底部は回転糸切り後、周辺部回転へら削り。灰白色で器表面は内外とも滑らか。胎土に白色針状物質を含む。

142・143 は土師器甕形土器。142 は口径 20 cm。口縁部直下外面に指頭による押さえにより口縁部外湾。内面は横ナデ。143 は口径 20.8 cm (現存 1/8)。142 と同じく口縁部直下外面に指頭による押さえにより口縁部外湾させ口縁部先端は内湾気味に作出。内面は横ナデ。144 は土師器小形台付き甕。口径 12.5 cm (現存 1/2)。口縁部は「く」の字状に直線的に外湾。先端は指頭による横ナデの凹みがつく。

#### ⑦ H17 号住居跡出土土器 (第 19 図 1)

覆土層から出土した土師器杯の口縁部で、体部はへら削りで口縁部は横撫でを施す。

#### ⑧ 集石土坑出土土器 (第 27 図 146 ~ 149)

大形の破片が多く出土する。146 ~ 148 は隆帯により渦巻文と楕円区画文の組み合わせで文様帯を構成。いずれも隆帯の脇のナゾりは浅く弱い。146・147 は 2 本対の平行懸垂文が付く。文様は渦巻が独立し新しい、加曾利 E II の古段階。148 は突出渦巻きを起点に楕円形区画を配する。頸部に 3 単位の沈線

で連弧文を施文。149 は口径 33 cm (現存 1/10)。口縁部に 2 本の沈線の間に刺突の列点文を施文。口縁部上段に 4 本単位、下段に 2 本単位の連弧文を、胴部下半に 2 本単位の懸垂文を施文。146・148 が地文単節 RL、147・149 は Lr 撚糸文。148・149 の連弧文土器が伴う。

#### ⑨ 土坑出土土器 (第 27 図 150 ~ 154)

150 ~ 153 は土坑 3 出土、154 は土坑 4 出土である。150 は雲母を多量に含み、断面三角形の隆帯の脇に結節沈線を施した阿玉台 1b 式土器。151・152 は同一個体。地文に単節 RL を縦回転した後、2 本対の隆帯で懸垂文、1 本の隆帯で蛇行懸垂文を付ける。153 は口径 40 cm (現存 1/4)。5 mm 大の石英や非常に細かい黄色砂粒を多量に含む。茶褐色で、内外面をよく研磨する。

154 は口径 30 cm (現存 1/4)、おそらく 4 単位波状口縁の浅鉢形土器。波頂部の口唇部内面には渦巻き文が付く。内面黄褐色、外面暗褐色、胎土に黄色や白色の細かい砂粒を多量に含む。

#### ⑩ 遺構外出土土器 (第 27 図 155 ~ 159)

155 は極細い竹管状工具の押し引きを 3 列単位に横方向に施文する。155 の口縁部は内傾し、口唇部に斜位の刻みを施す。口唇部に沿って 3 本の幅 5 mm の粘土紐を貼り付ける。諸磯 b 式。156 は貝殻腹縁文を 3 段ほど密に横方向へ施文する。器厚は 6 mm 程度。157 の地文は、半截竹管で条線を斜位に施し、浮線文を貼り付ける、諸磯 c 式。158 は明茶褐色で、断面三角形の隆帯で棒状文を構成し、内部に幅 15 mm の半截竹管で連続爪形文を施文、阿玉台 II 式。159 は口径 25 cm (現存 1/4)、胎土に多量の雲母を含む。口縁部に、断面が方形で刻みを持つ隆帯を、横「3」字状に貼り付ける。胴下部の楕円形文の隆帯は、断面三角形である。外面は凹凸があるが内面は平滑に磨かれる。胴下部と胴上部の隆帯の断面形が、全く異なる形状など興味深い、阿玉台 III 式に勝坂 III 式の様相が加わったものであろう。

(笹森健一)



## 第4章 長宮遺跡第44地点の本調査

### I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ(現在は排水溝として利用)、幅100mほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500m南側には福岡江川が流れ、標高9~10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北300m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が隣接する。1977年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる遺構

群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2014年12月現在49ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に關係のある溝跡などである。

### II 本調査に至る経過と調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2013年4月26日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するための試掘調査を実施した。

調査区は住宅地や道路を挟んで東西の2ヶ所に分かれる。

試掘調査は2013年5月14日から6月24日まで行った。2ヶ所の調査区域で幅約1.5mのトレンチ15本を設定し重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。縄文時代早期の炉穴や前期の住居跡、中



第28図 長宮遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第14表 長宮遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間( )は試掘調査	面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1次	長宮2-1-23	1977.10.3~30	1,000	保育園	溝3、土坑48、柱穴	川崎遺跡(第3次)・長宮遺跡
2次	長宮2-1-27	1978.4.25~5.15	235	民間宅地	溝2、土坑1、石臼、板碑、砥石、古銭、陶器、馬骨	埋(Ⅰ)
3次	長宮2-5-11	1978.7.24~30	111	民間宅地	土坑1	埋(Ⅰ)
4次	長宮1-1-14	1978.10.6~9	37		住居跡1、土師器、須恵器、鉄製品	埋(Ⅰ)
5次	長宮2-5-2	1979.4.16~20	110		縄文前期住居跡1、縄文土器片	埋(Ⅱ)(Ⅳ)
6次	中丸1-4-13	1980.4.21~30	515		遺構なし、中世以降陶器片	埋(Ⅲ)
7次	中丸1-3-6	1980.5.13~31	869		溝、井戸跡、縄文土器、中世以降陶器片	埋(Ⅲ)
8次	長宮2-1-10~13	1980.9.8~10.8	1,900	宅地造成	中世溝、井戸、土坑、板碑、砥石、陶磁器、古銭、馬骨	遺調1集
9次	長宮1-4-10	1980.9.21~30	200		遺構なし、中世以降陶器片	埋(Ⅲ)
10次	長宮2-3-4	1980.12.5~15	485		溝、土坑他、縄文前期土器・石器、中世以降古銭・陶器	埋(Ⅲ)
11次	長宮2-2-10	1980.12.16~22	117		溝、縄文土器片、中世以降陶器	埋(Ⅲ)
12次	長宮1-2-7	1981.5.26~30	160	個人住宅	溝1、中世陶器片、縄文土器片	埋(Ⅳ)
13次	長宮1-2-13	1981.6.3~11	251	個人住宅	遺構なし、中世陶器片	埋(Ⅳ)
82試	長宮1-2-12		1,000	歴史民俗資料館	溝2	57年教要
14次	長宮2-2-1	1985.9.24~27	156	個人住宅	溝1	埋(Ⅷ)
15次	西原2-5-8	1985.10.22~31	116	個人住宅	なし	埋(Ⅷ)
85試	長宮1-2-11	(1986.3.6~15)	400	学童保育	溝2	60年教要
16次	長宮1-4-7	1986.6.9~17	173	個人住宅	縄文土器片	埋(Ⅸ)
17次	中丸1-3-11	1987.6.19~30	504	個人住宅	縄文前期土器散布	埋(Ⅹ)
88試	長宮1-3-8	(1988.9.13~16)	657	住宅建設	なし	埋(11)
89試(1)	長宮1-3-9	(1989.9.20~30)	448	住宅建設	なし	埋(12)
89試(2)	長宮2-5-19	(1989.11.14~24)	1,778	住宅建設	なし	埋(12)
90試	長宮2-5-4	(1990.11.27~30)	919	共同住宅	なし	埋(13)
18次	長宮2-5-3	1992.10.6~12.2	925	共同住宅	縄文住居跡1、中近世土坑2、溝5	埋(15)
19次	長宮1-2-21,35	1993.12.17~1994.1.22	467	駐車場	古墳末期住居跡1	埋(15)
93試	長宮2-4-2の一部	(1994.2.10~28)	1,502	共同住宅	溝2、土坑1、中世後期板碑	5年教要
94試	西原2-5-1	(1994.7.25~8.2)	314	心身障害者デイケア施設	断面函形溝1	埋(17)
20次	長宮2-1-22の一部	1995.4.10~5.9	170	個人住宅	中近世溝4	埋(18)
21次	長宮2-1-63,65	(1995.6.19~8.8)	361	個人住宅	中近世溝1、井戸7	埋(18)
95試(1)	長宮2-1-20外	(1995.8.9~28)	421	市道敷設	なし	埋(18)
95試(2)	上ノ原3-1-6外4筆	(1995.10.4~12)	1,528	共同住宅	溝1	埋(18)
95試(3)	長宮2-1-60	(1995.10.23~25)	269	駐車場	中近世溝1、井戸4	埋(18)
22次	長宮2-1-60	1995.10.27~11.9	269	駐車場	中近世井戸跡4、溝1、陶器、板碑破片、かわらけ、	遺調6集
95試(4)	長宮1-3-13	(1995.12.12~25)	120	駐車場	なし	埋(18)
96試(1)	長宮1-2-16	(1996.7.12~18)	349	宅地造成	なし	埋(19)
96試(2)	中丸2-2-9他3筆	(1996.11.7)	568	宅地造成	なし	埋(19)
96試(3)	長宮1-2-4	(1997.1.14~21)	794	共同住宅	古墳~奈良住居跡1	埋(19)
96試(4)	長宮2-2-4	(1997.2.24)	205	社務所改築	なし	8年教要
97試(1)	長宮2-3-3	(1997.4.8~9)	611	農地天地返し	溝1(時期不明)	埋(20)
97試(2)	長宮2-1-2	(1997.4.9~11)	289	個人住宅	土坑1(時期不明)	埋(20)
97試(3)	長宮1-2-36,37	(1997.6.4~5)	423	駐車場	溝1	埋(20)
97試(4)	西原2-5-6	(1997.8.15~21)	753	駐車場	中近世堅穴状遺構1	埋(20)
98試	中丸1-2-4	(1998.11.24~27)	1,014	宅地造成	なし	埋(21)
99試	中丸1-3-12	(1999.11.8~16)	98	個人住宅	溝1、縄文前期集石2	埋(22)
00試(1)	中丸1-4-7	(2000.7.4~11)	932	宅地造成(土地分譲)	縄文前期(関山期)住居跡5、土坑13	埋(23)
00試(2)	西原2-4-8,10	(2000.7.17~24)	1,081	宅地造成(土地分譲)	なし	埋(23)
00試(3)	長宮2-1-17	(2000.8.21~23)	687	共同住宅	なし	埋(23)
00試(4)	長宮1-3-3A,4A	(2001.1.17~23)	1,119	宅地造成(土地分譲)	近世以降土坑1	埋(23)
23次	中丸1-4-7	2001.7.18~26	137	個人住宅	土坑6(縄文早期後葉1、前期4、近世以降1)	埋(24)
01試(1)	長宮2-1-3	(2001.4.20~24)	330	個人住宅	なし	埋(24)
01試(2)	西原2-4-7	(2001.5.25)	634	共同住宅	なし	埋(24)
01試(3)	中丸1-1-3	(2001.8.7~24)	513	共同住宅	道路状遺構1、縄文前期土坑1	埋(24)
01試(4)	長宮2-8-6	(2001.11.6)	130	個人住宅	なし	13年教要
02試(1)	長宮1-3-2~5	(2002.6.5~11)	3,536	宅地造成(土地分譲)	住居跡2【盛土保存】	埋(25)
02試(2)	長宮1-4-3	(2002.6.20~7.2)	575	確認調査	住居跡2、溝2	埋(25)
02試(3)	中丸1-1-5	(2002.9.3~11)	622	宅地造成(土地分譲)	道路状遺構1	埋(25)
02試(4)	長宮1-3-31	(2002.9.20~25)	362	地区計画道路	溝1	埋(25)
24次	長宮1-4-3	2003.1.30~2.14	72	個人住宅	住居跡2	14年教要
02試(5)	長宮2-5-6	(2003.3.10~12)	827	宅地造成	住居跡1【盛土保存】	14年教要

地点	所在地	調査期間( )は試掘調査	面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
03試(1)	長宮2-5-30,32	(2003.9.16)	197	区画道路	なし	埋(26)
03試(2)	長宮2-4-7	(2003.12.16~18)	1,123	宅地造成	井戸跡1	埋(26)
04試(1)	中丸1-1-11	(2004.11.26)	488	宅地造成	なし	埋(27)
04試(2)	長宮1-2-15	(2004.12.7~9)	466	農地改良	なし	埋(27)
25	中丸1-4-8	(2007.2.15~16)	1,161	個人住宅	ピット3、縄文土器・石器他	市内3
26	西原2-5-2の一部	(2007.3.28)	594	個人住宅	縄文土器片	市内3
27	長宮2-1-4	(2007.5.30~31)	175	個人住宅	溝。保存措置	市内4
28	長宮2-1-8	(2007.5.31~6.5) 2007.6.6~22	188	個人住宅	中近世井戸5、土坑10、ピット13他、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内4
工事立会	西原2-5-31	2007.10.15	120	個人住宅		市内4
29	長宮2-4-6の一部	(2007.11.20~12.3) 12.4~5	618	共同住宅	土坑1、井戸2、堀跡1、溝5、ピット10、縄文土器、中近世土器他	市内4
30	長宮2-4-6	(2009.9.28~11.2) 11.4~12.8	1362.1	老人福祉施設	中近世土坑、井戸、ピット8、溝2、縄文土器・石器、中近世陶磁器他	市内7、8
31	欠番					
32	長宮2-1-18	(2010.1.15~25) 2011.2.4~26	271	分譲住宅	中近世土坑20、ピット142、溝3、縄文土器、中近世陶磁器他	市内7、8
33	中丸1-3-2	(2011.5.19~5.31)	534	分譲住宅	堀跡1	未報告
34	中丸2-2-246	(2011.6.27~7.16) 2011.11.2~12.1	914	分譲住宅	縄文時代早期炉穴、前期(関山)住居跡1、近世溝、縄文土器他	市内11
35	上ノ原3-1-4	(2011.9.9~27)	1157.88	共同住宅	縄文時代焼土跡1	未報告
36	長宮2-4-3	(2011.10.4~17) 10.21~11.14	981	個人住宅	中近世井戸15、土坑5、溝15、ピット多数、板碑他	市内11
37	上ノ原3-6-6	(2011.11.8)	105	個人住宅	なし	未報告
38	長宮1-4-27	(2011.11.24~25)	101	分譲住宅	なし	未報告
39	長宮2-3-23	(2012.2.1)	130.54	個人住宅	なし	未報告
40	西原2-5-7の一部	(2012.4.16)	201	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	未報告
41	福岡字丸橋988-1~3、989-2~5、990-3	(2012.4.17~5.31) 6.11~7.23	1,152.62	分譲住宅	炉穴1、焼土面1、落とし穴1、土坑12、ピット33、溝1、縄文前期土器片・石器、近世陶磁器等	市内12
42	仲丸1-2-24	(2012.7.31)	101.00	分譲住宅	なし	未報告
43	長宮2-1-72	(2013.2.27~3.1)	231.00	個人住宅	中世~近世溝2・土坑3・ピット17	未報告
44	中丸1-3-3、4-5	(2013.5.14~6.24) 6.25~7.30	1,329.00	分譲住宅	縄文前期住居2軒、炉穴6、落とし穴1、土坑15、井戸5、溝9、ピット4、溝9	市内13

※埋：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市教育要覧、市内：ふじみ野市市内遺跡群報告書

第15表 長宮遺跡縄文時代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形( )は推定	規模	炉		周溝	主軸方位	時期	備考	文献
						カマド K	規模 cm					
J1	1979	5地点2号住居		長方形	600 ×	炉	×	○		関山期		埋蔵文化財の調査Ⅱ・Ⅳ
J2	1992	18地点3号住居			×	炉	×			関山期		埋蔵文化財の調査15
J3	2000	00年試掘(1)1号住	プラン		×							埋蔵文化財の調査23
J4	2000	00年試掘(1)2号住	プラン		×							埋蔵文化財の調査23
J5	2000	00年試掘(1)3号住	プラン		×							埋蔵文化財の調査23
J6	2000	00年試掘(1)4号住	プラン		×							埋蔵文化財の調査23
J7	2000	00年試掘(1)5号住	プラン		×							埋蔵文化財の調査23
J8	2003	02年試掘(5)	プラン		×		×	○				14年教要
J9	2011	34地点J9号住	1/4	(方形)	(395) × (330)	炉2	① 52 × 68 ② 70 × 51			前期関山Ⅱ		市内遺跡群11
J10	2012	41地点J10号住	完掘	方形	400 × 418	炉	123 × 78	○	N-108° - W	前期関山Ⅱ		市内遺跡群12
J11	2012	41地点J11号住	完掘	長方形	420 × 365	炉2	① 57 × 60 ② 55 × 41		N-94° - W	前期関山Ⅱ		市内遺跡群12
J12	2012	41地点J12号住	1/2	(方形)	(320) × (360)			○	N-25° - W	前期関山Ⅱ		市内遺跡群12
J13	2012	41地点J13号住	3/4	(長方形)	(355) × (340)	炉	78 × 49		N-60° - W	前期関山Ⅱ		市内遺跡群12
J14	2012	41地点J14号住	完掘	方形	310 × 310	炉	125 × 98	○	N-34° - E	前期関山Ⅱ		市内遺跡群12
J15	2012	41地点J15号住	一部	(方形)	(125) × (170)			○	N-34° - E	前期関山Ⅱ		市内遺跡群12
J16	2012	44地点J16号住	完掘	隅丸長方形	515 × 404	炉	120 × 75	○	N-28° - E	前期関山Ⅱ		市内遺跡群13
J17	2012	41地点J17号住	未掘	不明	(500以上) × 450	—		—	—	前期関山	プランのみ確認	市内遺跡群13

第16表 長宮遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形( )は推定	規模	炉		設置壁	カマド・炉規模 cm	周溝	主軸方位	時期	備考	文献
						カマド K	規模 cm							
H1	1978	4地点1号住居	1/4	(方形)	×	K	東	×	×	○				埋蔵文化財の調査Ⅰ
H2	1993	19地点4号住居	完掘	方形	×	K	北	×	×					埋蔵文化財の調査15
H3	1997	96年試掘(3)			×			×	×					埋蔵文化財の調査19
H4	2002	02年試掘(1)6号住	完掘	台形	470 × 340	K	北	×	×	○		70後半~80初頭		埋蔵文化財の調査25
H5	2002	02年試掘(1)7号住	完掘	長方形	530 × 450	K	北・東	×	×	○	N-15-W	80初頭		埋蔵文化財の調査25
H6	2002	02年試掘(2)8号住	完掘	方形	280 × 280	K	北	×	×			70末~80第1四半期		埋蔵文化財の調査25
H7	2002	02年試掘(2)9号住	1/2	方形	280 × 280	K	南西	×	×	○		70末~80第1四半期		埋蔵文化財の調査25





第29図 長宮遺跡遺構分布図(1/2,000)

近世以降の井戸や溝等を多数確認した。開発予定区域の遺跡確認面までの深さは80～120cmである。

原因者と再度協議の結果、造成工事により表土層の削平が約60cm以上行われ、遺跡への影響が避けられないことから、原因者負担による本調査を実施した。

本調査の範囲は西側調査区の南北に延びる道路部分と、雨水等の浸透トレンチ部分とした。

本調査は遺跡の確認された部分を、2013年6月25日から7月30日まで、重機により表土層を除去し人力による調査を行った。

試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代早期炉穴6基、前期住居跡2軒、落とし穴1基、土坑15基、ピット4基、井戸5基、溝9本などある。遺物は縄文時代前期の土器、石器、中近世以降の陶磁器や板碑などである。

III 遺構と遺物

(1) J16号住居跡

縄文時代前期の住居跡は2軒(J16号住居跡、J17号住居跡)を確認したが、開発による影響を受けるJ16号住居跡の調査を実施し、J17号住居跡は保存措置とした。

【位置】2軒の住居跡は西側調査区に位置する。長宮遺跡の縄文時代前期の集落配置でみると、南西部に位

置する。今回の調査区ではほぼ中央部で南東約6mにJ17号住居跡があり、住居跡の北側を風倒木による攪乱を受ける。

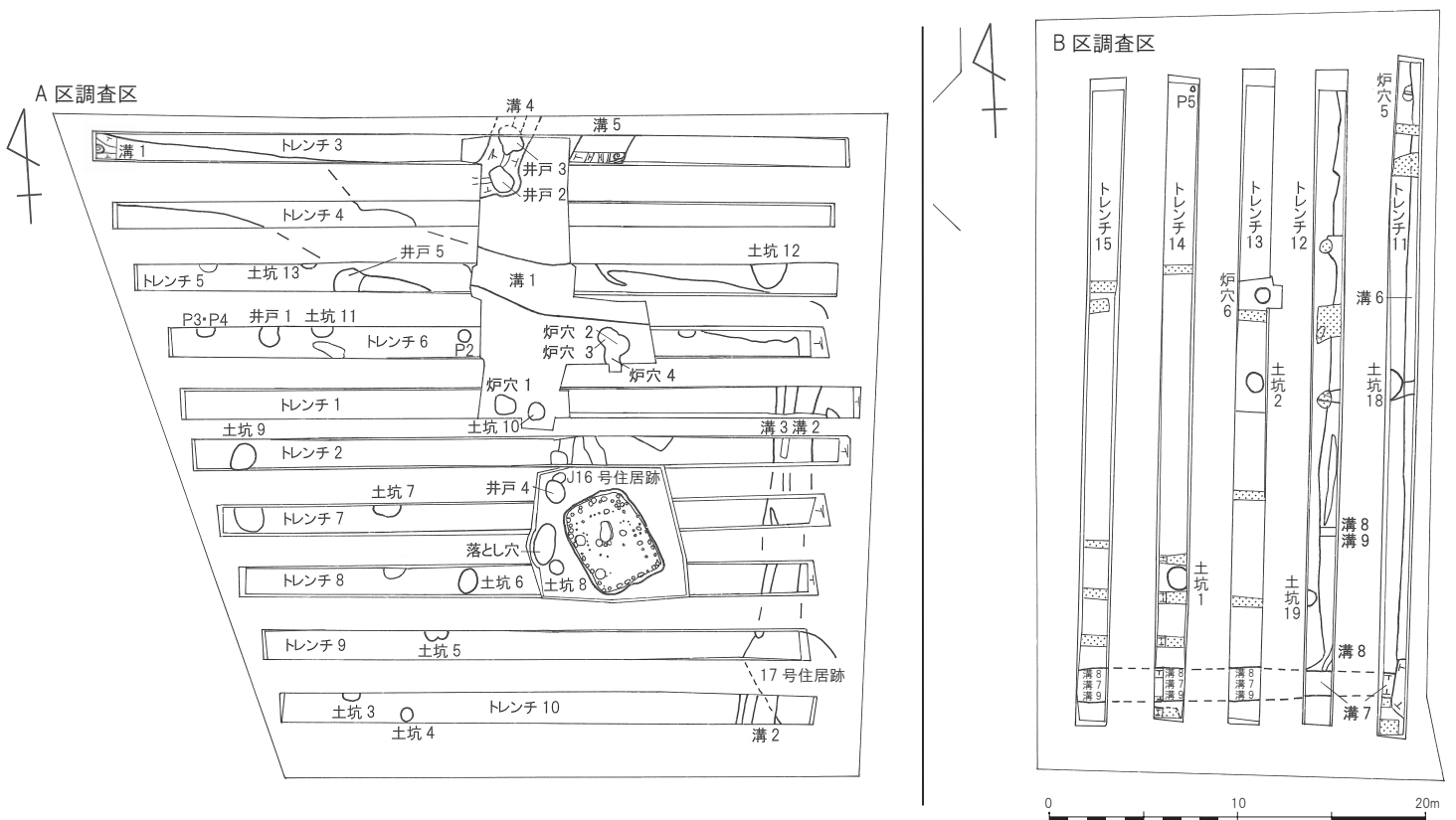
【形状・規模】平面形態は隅丸長方形を呈し、長軸515cm、短軸404cm、深さ46cmである。床面はほぼ平坦で、炉の周辺を中心に硬く締まる。

【炉】住居内の中央部やや北側に位置する。平面形態は不整楕円形で浅い皿状を呈する。規模は南北120cm、東西75cm、深さ12.6cmである。

土器沿炉とでも言うような、炉の北側に大型の土器片を七重に重ねて埋設する。土器の詳細については出土遺物で記載する。

【柱穴・土坑】主柱穴はP1～6(53)・9・71の6本～8本柱である。P8・11は炉の焼土面を掘り込んでいる。主柱穴の他には、壁際を巡る壁柱穴(P10・12・13他、約30～40本)と主柱穴と壁柱穴の間に巡る柱穴列(16・22・23他、約20～25本)がみられる。その他にも区別出来ない柱穴も多数ある。

P8・11をみると、住居の建て替えや拡張の可能性も考えられるが、P16等の柱穴列も同様に理解してよいのかは不明である。柱穴の他に西側の壁近くに土坑1・2が存在する。直径約60cmの円形で、深さは床面から15～25cmである。土層の観察からは本住居に伴うものと考えられる。



第30図 長宮遺跡第44地点遺構配置図 (1/400)

【遺物出土状況】住居跡の床面から壁面にかけて遺物の少ない黒褐色土(覆土の5層)が堆積する。堆積は住居中央部が薄く、壁際が厚い三角堆積である。ローム主体の5層が堆積した後、住居跡は窪地を形成する。

窪地に堆積する覆土層の1～4層からは、大量の土器片と焼けた礫が出土する。出土土器のうち、復元可能なものは覆土層の4層から出土し、破片は広範囲から出土する。また窪地内の南西部に、焼土面を有する大量の焼けた礫が密集して出土する。焼けた礫の集中部分には、特定の掘り込みを有する土坑等が確認出来ないため、住居跡の窪地を利用した集石(焼けた礫)遺構の可能性も考えられる。焼けた礫の詳細については第18表のとおりである。

【時期】住居跡の時期は出土土器から縄文時代前期の関山式I式である。

(2) 炉穴・落とし穴・土坑・ピット・溝

①炉穴

炉穴は東西の調査区で検出した。出土遺物は炉穴5から出土した須恵器の口縁部片1点であるが、隣接する溝の影響を受けた遺物であり、炉穴自体の時期を示すものとは考えられない。本地点の北東約100mの第34地点で縄文時代早期末の炉穴群が確認されており、今回の遺構群も同様の時期と考えられる。各炉穴の詳細は第19表のとおりである。

②落とし穴

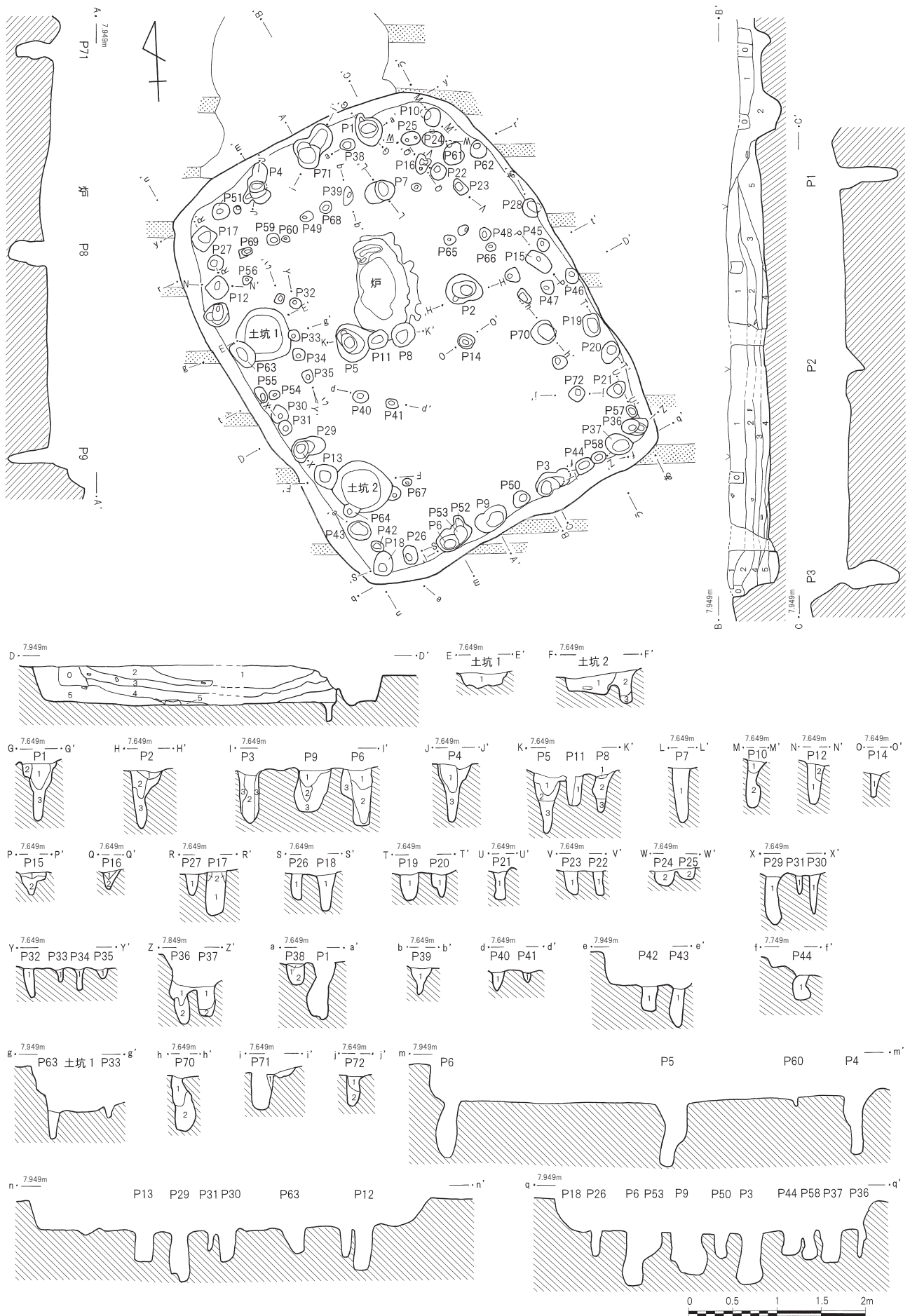
落とし穴はJ16号住居跡の西側に位置し、土層の観察では縄文時代とみられる。平面形態は楕円形で、中段から底部はやや隅丸長形状を呈する。規模は確認面径220×121cm、底径173×50cm、深さは82.1cmである。出土遺物はない。

第17表 長宮遺跡第44地点J16号住居跡内土坑・ピット一覧表 (単位 cm)

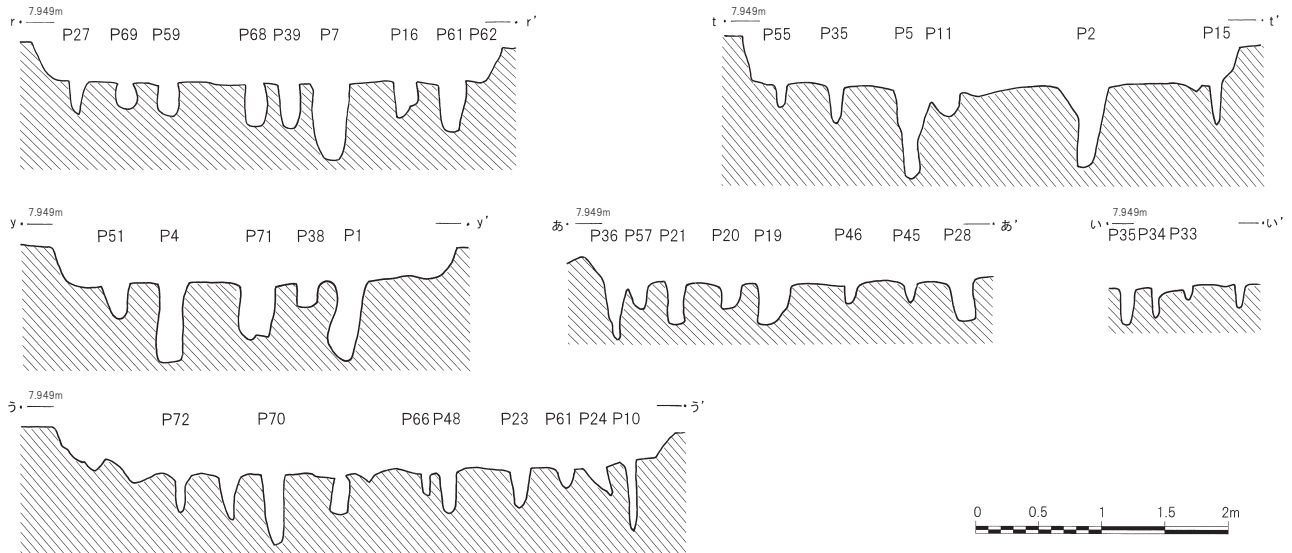
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑1	円形	60×60	45×43	15.6	
土坑2	円形	60×60	43×42	22.9	
P1	不整形	40×30	18×10	65.1	
P2	楕円形	41×36	14×12	69.4	
P3	楕円形	44×24	15×13	65.6	
P4	不整形	45×25	13×7	66	
P5	円形	44×37	12×11	63.5	
P6	円形	25×25	13×11	65.5	
P7	円形	22×22	18×15	54.9	
P8	円形	27×25	13×13	44.8	
P9	楕円形	38×25	21×15	47.4	
P10	円形	20×20	15×13	58.8	
P11	円形	24×18	13×8	19.1	
P12	円形	26×25	10×6	31.8	
P13	円形	30×25	12×12	32.8	
P14	円形	20×17	10×5	39.2	
P15	楕円形	31×18	4×4	23.1	
P16	不整形	22×17	4×4	31.5	
P17	円形	29×29	15×13	27.8	
P18	円形	27×22	10×9	40.5	
P19	円形	25×19	18×10	31.4	
P20	円形	24×18	11×11	31	
P21	円形	23×18	12×10	28.8	
P22	円形	20×20	6×5	42.2	
P23	楕円形	18×15	11×9	32.2	
P24	楕円形	25×19	7×5	23.3	
P25	楕円形	22×15	5×5	24.4	
P26	円形	22×15	8×7	30	
P27	円形	18×18	7×5	47.5	
P28	円形	24×18	15×12	31.9	
P29	楕円形	38×23	12×9	56.5	
P30	円形	19×18	6×6	34.5	
P31	円形	15×15	6×5	28.5	
P32	円形	14×14	4×4	33	
P33	円形	14×13	4×4	17.5	
P34	円形	15×14	4×4	26.4	
P35	円形	14×12	4×4	30.4	

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P36	楕円形	30×20	9×8	42.5	
P37	円形	30×25	18×14	54.3	
P38	円形	16×14	10×8	25.5	
P39	楕円形	21×11	5×5	35.6	
P40	円形	17×14	6×6	23.8	
P41	円形	15×10	6×4	13.7	
P42	円形	13×12	8×7	32.7	
P43	円形	27×21	20×18	56.5	
P44	円形	20×15	15×10	50.8	
P45	円形	15×13	4×4	33.6	
P46	円形	18×15	5×5	20.9	
P47	円形	15×15	4×4	20.4	
P48	円形	14×12	6×4	36	
P49	楕円形	15×10	5×4	30.5	
P50	円形	20×17	10×7	31.1	
P51	円形	20×19	7×7	31.5	
P52	円形	12×12	8×7	15.9	
P53	円形	24×20	16×14	32.8	
P54	円形	12×10	4×3	不明	
P55	円形	20×11	8×5	35.9	
P56	円形	10×10	3×3	17.3	
P57	円形	15×10	7×6	18.6	
P58	円形	18×14	10×8	50.7	
P59	円形	14×13	8×6	26	
P60	楕円形	10×7	2×2	11.9	
P61	不整形	25×25	7×7	43.5	
P62	円形	20×20	7×7	36.2	
P63	円形	33×22	17×8	45.5	
P64	円形	17×17	4×4	23.4	
P65	円形	14×10	4×2	19.1	
P66	円形	10×10	4×2	19.6	
P67	円形	10×8	2×2	15.1	
P68	円形	15×14	6×6	35.2	
P69	楕円形	15×10	7×4	21.2	
P70	円形	27×27	20×16	61.2	
P71	不整形	48×32	20×20	45.6	
P72	円形	17×15	6×6	32.8	

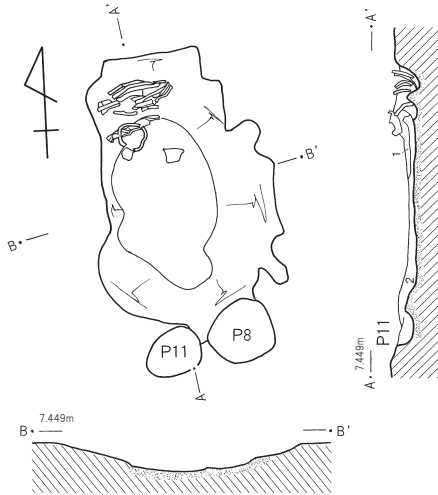




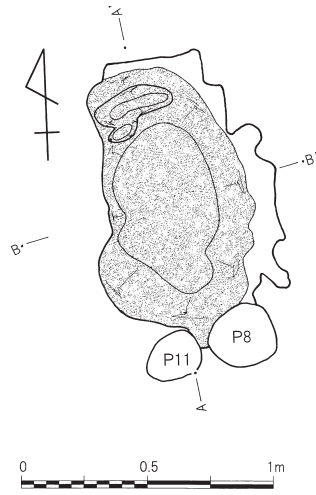
第31図 長宮遺跡第44地点J16号住居跡(1/60)



遺物出土状況



炉



16号住居跡

0. 攪乱

- 1. 黒灰褐色土 締り有、粘性有、粘性の強い土で5mm以下シミ状ローム・焼土粒少し含む、遺物多く含む
- 2. 黒灰褐色土 締り有、粘性有、1層にほぼ同じ、シミ状に3層黒褐色土少し含む
- 3. 黒褐色土 締り有、粘性有、粘性強いが1・2層ほどではない、1mm大ローム・焼土粒少し含む
- 4. 黒色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒・1cm以下焼土・2cm以下炭化物多く含む、部分的に5層上面にまとまった炭化物層が見られる、遺物多く含む、No.1131/1132も5層上面で4層中より出土
- 5. 黒褐色土 締り有、粘性有、縄文住居に普通に見られる土で、2mm以下ローム粒・焼土粒多量、1cm大ロームブロック少し含む、三角堆積、床面まで堆積
- 6. 黒色土 締り有、粘性有、炭化物層

土坑 1・2

- 1. 黒色土 締りやや強、粘性有、3mm以下ローム粒多量に含む、1mm大焼土粒少し含む、住居の覆土5層に同じ
- 2. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、1層よりやや明るいほぼ1層に同じ
- 3. 明褐色土 締りやや強、粘性有、1・2層よりやや明るい以外はほぼ同じ、P3・6・9の2層に類似

ピット 1・4・7・11(柱痕に焼土・炭化物多く含む柱)

- 1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、5mm以下ローム粒少し、2mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物多く含む、住居5層に類似
- 2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、1層に同じで、1mm以下ローム・焼土粒少し含む、大型ローム含まない
- 3. 黒褐色土 締り弱、粘性有、ロームをシミ状に多く含む、全体的に黄褐色を呈し、焼土・炭化物ほとんど含まない

ピット 2・8(柱痕に住居覆土の黒色炭化物層多く含む層)

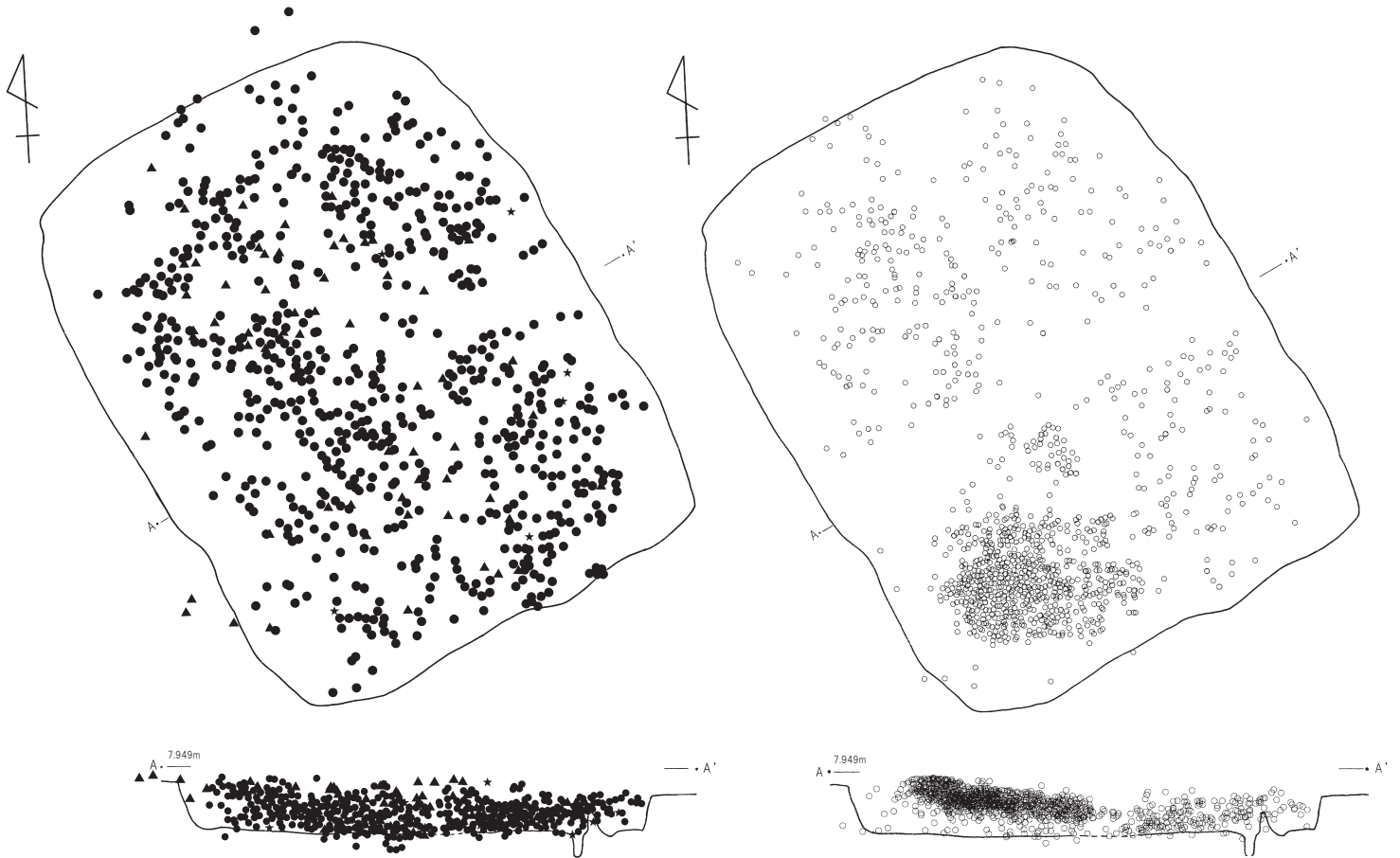
- 1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、住居4層に同じ、5mm以下炭化物多く、2mm以下ローム・焼土多く含む、やや多く黒灰色土をシミ状に含む
- 2. 黒褐色土 締り弱、粘性有、暗褐色土主体に5mm以下ローム多く、2mm以下シミ状焼土・ローム多く含む

- 3. 暗褐色土 締り弱、粘性有、暗褐色土主体に5mm以下ローム多く含む点は2層に同じだが、焼土・炭化物は全く含まない

ピット 3・5・6・9・10・14(黒色土主体だが焼土・炭化物少ないもの)

- 1. 黒褐色土 締り弱、粘性有、黒褐色土主体に5mm以下シミ状・ブロック状ローム少し含む、焼土・炭化物含まない
- 2. 暗褐色土 締り弱、粘性有、暗褐色土主体に5mm以下ロームブロック多く含む、P1・4・7の3層、P2・8の3層に対応
- 3. 暗褐色土 締り弱、粘性有
- ピット 12・13・17~21・24~26・29~31・36・37・39・44・49
- 1. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、黒褐色土に1cm以下シミ状暗褐色ロームを斑状に含む、5mm以下ローム粒やや多く含む、住居5層に同じか
- 2. 暗褐色土 締り弱、粘性有、5cm大ロームブロックにシミ状に黒褐色土を少し含む
- ピット 14・16・22・23・27・42・43・45・46・47・50・51(小ピットで新しいピット)
- 1. 黒色土 締り強、粘性有、P12他のピットより黒色、1cm以下ロームをやや多く含む、住居5層よりローム粒が少なくやや粘性有
- ピット 32(P15・16~に類似するが底まで黒色土)40・41・48・59・60・69・70
- 1. 黒色土 締り強、粘性有、5mm以下ロームブロック多く含む、焼土・炭化物含まない(小ピットで古いピット)
- ピット 15・16・33・34(小ピット)上端確認面は広く大きい黒色土でプラン確認出来るが、下は細くやや浅いもの
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く含む、焼土・炭化物含まない
- 2. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ホロボロのローム主体にシミ状黒褐色土少し含む
- ピット 38・68
- 1. 褐色土 締り強、粘性有、ロームブロックの貼床、シミ状に黒褐色土を少し含む(貼床)
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色土主体に1cm以下ロームブロック多く含むが焼土・炭化物含まない
- ピット 70~72(貼床ピット深い)
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、粘性の強い2cm以下ロームブロック主体にシミ状に同大きさの黒褐色土を斑状に少し含む
- 2. 暗褐色土 締り弱、粘性有、ホロボロのブロック状ローム主体に斑状に黒褐色土少し含む

第 32 図 長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡土層(1/60)、炉(1/30)



第33図 長宮遺跡第44地点J16号住居跡遺物出土状況(1/60)

③土坑・ピット

土坑は試掘調査と本調査合わせて15基検出した。土坑14は井戸5に、土坑16は炉穴6に、土坑17は炉穴5にそれぞれ名称変更し、土坑15は欠番である。土坑3・6・7は井戸の可能性もある。

ピットは試掘調査と本調査合わせて4基検出した。ピット1は欠番である。土坑、ピットの詳細は第20表のとおりである。

④井戸

井戸は西側調査区で5基検出した。土坑としたものには、井戸の可能性もあるものもある。井戸1の底部は未検出で、その他で底部が礫層に届くものはない。井戸1、2、4、5からは遺物が出土している。各井戸の詳細は第20表、出土遺物については第22表のとおりである。

⑤溝

溝は試掘調査と本調査合わせて9本を検出した。溝1～5は西側調査区、溝6～9は東側調査区に位置する。溝1はトレンチ3～6にまたがって東西に

延び、トレンチ5周辺を本調査した。溝2・3は南北方向に並行して延びる。溝4は2本の並行する溝が、北から西に屈曲して延びる。井戸2・3と重複し、土層の観察から、溝は井戸より新しい。溝5は南北方向に延びる。溝6は土地境にあって南北方向に延び、溝7と重なる。溝6は溝7より新しい。溝7～9は東西に並行して延び、溝7が最も新しく、溝8と溝9の新旧は不明である。溝の詳細は第21表、出土遺物は第22表のとおりである。

第19表 長宮遺跡第44地点炉穴一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	焼土範囲	深さ	足場	備考
1	楕円形	115×90	67×60	67×60	27.4	—	
2	楕円形	270×170	22×15	75×58	41.8	—	
3	楕円形	240×173	50×40	50×40	19.3	—	
4	円形	150×130	100×80	113×80	35.1	—	
5	楕円形	75×63	45×45	60×53	13.0	—	旧土坑17
6	円形	90×80	55×50	55×50	16.5	—	旧土坑16

第18表 長宮遺跡第44地点J16号住居跡出土礫観察表 (単位 cm・個数・g(%))

総点数	総重量	平均重量	破損個数	完形個数	焼成個数	未焼成個数	タール・煤付着数	タール・煤未付着数
3,291	73,077.73	22,205	3,161 (96.05%)	130 (3.95%)	1,006 (30.57%)	2,285 (69.43%)	55 (1.67%)	3,236 (98.33%)



(3) J16号住居跡出土土器(第39図~41図)

4・6・8・44は炉の埋設土器で、他は覆土層出土。1は口径20cm(1/8現存)。口唇部直下に幅6mmの半截竹管を横位に引き、直下に連続鋸歯文を付け、上よりLR単節、0段3条RLを交互に施文する縦羽状縄文。原体先端はループ文で区画し、上より幅1.5cm、2段目幅1.1cm、3段目幅2.5cm。4段目幅2.5cmである。胴部中央にコンパス文を施文。2は口径24.5cm(現存1/6)。口縁部がやや内湾し、内刺の口唇部に山形小突起が6個付き、直下に平行沈線を引く。施文工程は、山形小突起を含む器形を整え→多段ループを上より施文(LRとRL原体を交互に8~9段を密集施文)→胴部羽状縄文(LRの単節と0段3条RL)→口唇部平行沈線(幅4.5mmの半截竹管)→胴部に幅4.5mmのコンパス文→山形突起を含め口唇部に鋭い刻み→小円形粘土粒貼付。3は口径31.5cm(現存1/2)。口唇部の山形小突起は欠落を含め13個ほどである。小突起群は4単位になろう。胴部下半と上半では縄文原体が異なり、追加成形による。羽状縄文が下段と対応し菱形縄文となるが、若干ずれて「崩れた」菱形文になる。施文工程は、胴部下半の器形を整え→RLの0段3条RL、LRの0段3条による羽状縄文(上端にループ)→胴部

第20表 長宮遺跡第44地点遺構一覧表(単位cm)

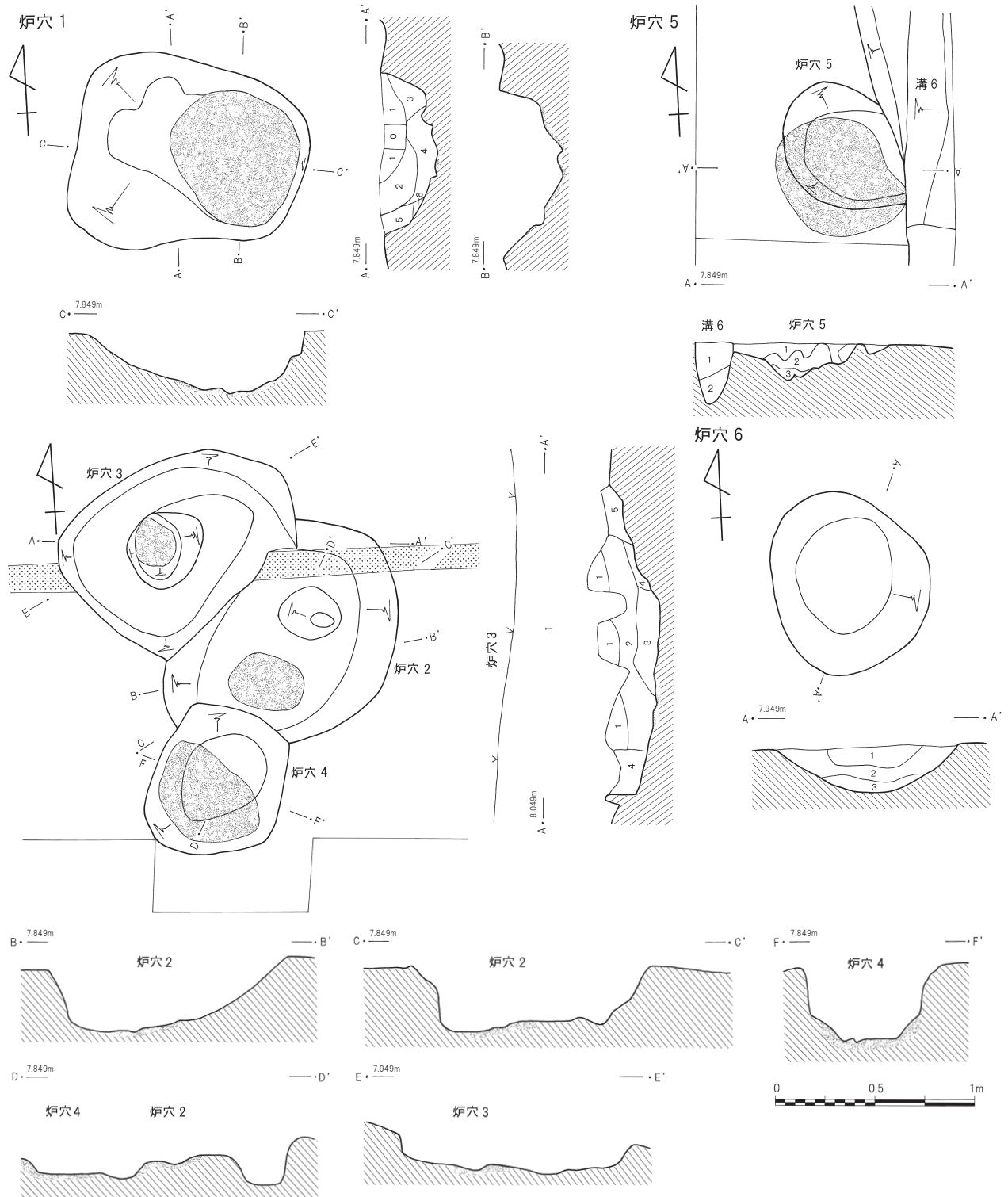
遺構名	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
落とし穴	楕円形	220×121	173×50	82.1	
土坑1	(円形)	123×(117)	93×(83)	20	
土坑2	楕円形	124×91	20×8	55.7	
土坑3	不明	110×(53)	55×(29)	63.7	
土坑4	円形	85×75	65×60	9.3	
土坑5	不明	110×(41)	26×(17)	16	
土坑6	円形	134×130	85×85	77.8	
土坑7	不明	113×(55)	24×(20)	96.9	
土坑8	円形	87×(37)	60×(23)	58.3	
土坑9	(円形)	145×134	130×97	44.9	
土坑10	円形	87×85	67×64	61.1	
土坑11	不明	120×(55)	57×(15)	46.9	
土坑12	不明	200×(123)	123×(115)	10.4	
土坑13	不明	100×(43)	68×20	34.8	
土坑18	不明	170×(85)	80×(52)	31	
土坑19	不明	90×(55)	65×(50)	9.7	
井戸1	(円形)	115×(115)	80×66	229.3	
井戸2	円形	170×149	60×23	126.5	
井戸3	(円形)	120×(82)	48×47	111.4	
井戸4	円形	115×105	69×60	98.6	
井戸5	(円形)	145×(110)	58×(40)	103.6	旧土坑14
ピット2	円形	65×65	55×55	36.3	
ピット3	(円形)	30×(22)	15×(15)	20.0	
ピット4	円形	52×40	17×12	32.4	
ピット5	円形	40×35	12×8	43.6	

第21表 長宮遺跡第44地点溝一覧表(単位cm)

No.	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
溝1	深い「U」字形	217~273	20~40	94.6	
溝2	浅い「U」字形	100~125	30~39	30.1	
溝3	浅い「U」字形	42~65	11~24	19.1	
溝4	深い「U」字形	135~200	25~35	43.1	
溝5	浅い「U」字形	270~280	33~50	61.9	
溝6	深い「U」字形	74~90	39~55	23.1	
溝7	浅い「U」字形	80~128	55~68	28.2	
溝8	浅い「U」字形	45~180	30~55	13.6	
溝9	浅い「U」字形	33~40	~25	24	

第22表 長宮遺跡第44地点出土遺物観察表(単位cm・g)

No.	出土遺構名	種別・器種	長さ	幅	厚さ	材質・重さ・技法・文様・その他	推定産地	推定年代	残存/備考/注記No.
71	16号住居跡	石器/石鏃	1.5	1.4	0.3	石質:チャート/重量0.65g	在地	縄文時代	完形/J16住No.1
72	16号住居跡	石器/石鏃	2	1.5	0.35	石質:頁岩/1.15g	在地	縄文時代	完形/J16住No.953
73	16号住居跡	石器/石鏃	1.7	1.3	0.4	石質:チャート/0.62g	在地	縄文時代	完形/J16住No.1279
74	16号住居跡	石器/石鏃	2.5	(1.3)	0.5	石質:チャート/1.35g	在地	縄文時代	一部欠損/J16住No.981
75	16号住居跡	石器/浮子	(3.5)	3.4	3.4	石質:軽石/12.68/側面に溝状の窪み有り	在地	縄文時代	一部欠損/J16住No.991
76	16号住居跡	石器/凹石	(7.4)	8	3.8	石質:安山岩/249.8g	在地	縄文時代	下部欠損/J16住No.1093
77	16号住居跡	石器/凹石・敲石	9.0	5.8	3.6	石質:安山岩/324.7g	在地	縄文時代	下部欠損/J16住B区1層
78	16号住居跡	石器/凹石・敲石	10.1	5.6	2.3	石質:安山岩/206.81g	在地	縄文時代	完形/J16住集石
79	16号住居跡	石器/磨石	(6.8)	(7.9)	5	石質:安山岩/288.18g	在地	縄文時代	一部残存/J16住No.1278
80	16号住居跡	石器/石皿・敲石	11.7	10.07	2.4	石質:砂岩/368.0g	在地	縄文時代	完形/J16住C区
81	16号住居跡	石製品/小玉	0.7	1.15	0.3~0.45	石質:滑石/1.41g/孔径0.3	-	縄文時代	完形/J16住D区3
82	炉穴5	須恵器/甕?	(17.4)	-	0.6	口縁から口縁内に降灰/外面に平行叩き目	-	-	口縁部一部残存/D17
83	井戸1	土器/カワラケ	-	(6.0)	0.6	轆轤成形/底部糸切痕/胎土:軟質でにぶい黄褐色	在地	16c	底部残存/井戸1一括
84	井戸1	土器/カワラケ	-	(9.4)	0.8	轆轤成形/底部糸切痕/胎土:軟質でにぶい黄褐色	在地	16c	底部片/井戸1一括
85	井戸1	土器(瓦質)/焙烙	(23.0)	-	0.9	轆轤成形/色調:黒褐色	在地	16c	口縁部片/6ト井戸1
86	井戸1	土器(瓦質)/内耳鍋	(22.0)	-	0.8	轆轤成形/色調:暗灰黄色	在地	15~16c	口縁部片/井戸1一括
87	井戸1	陶器/有耳甕	(11.0)	-	0.6	轆轤成形/耳貼付/鉄釉	瀬戸・美濃	1630~1660年代	口縁部片/6ト井戸1
88	井戸1	焼締陶器/壺	(9.6)	-	1.0	轆轤成形/色調:赤褐色	在地	-	口縁部片/6ト井戸1
89	井戸1	陶器/碗/天目碗	-	4.7	0.6	轆轤成形/鉄釉	瀬戸・美濃	-	底部/6ト井戸1
90	井戸1	陶器/搥鉢	-	-	0.8	轆轤成形/鉄(錆)釉/内面に櫛目	瀬戸・美濃	-	体部片/井戸1一括
91	井戸2	石器/磨石・敲き石	9.25	6	5	石質:多孔質安山岩?/382.73g	-	縄文時代	完形/井戸No.3
92	井戸2	石製品/板碑	64.7	27	2.7	石質:緑泥片岩/重量:115kg/掘り方:薬研形/裝飾:二条線、阿弥陀三尊、主尊種子「ナリク(阿弥陀如来)月輪、蓮座」、脇侍種子「サ(観音菩薩)自輪、蓮座」、脇侍種子「サ(勢至菩薩)月輪、蓮座/真言:光明真言/燭「光明遍照十方世界 念仏衆口 撰取口」/紀年銘:応永二十八日口口。裏面のみ残	-	1394~1427	山形の一部と基部欠/井戸/表面摩滅と底部側面に擦り跡が有り、転用の可能性有り
93	井戸4	須恵器/坏	-	(6.0)	0.9	轆轤成形/底部糸切痕・凹形/胎土:灰白色	在地	-	底部/井戸4
94	井戸4	焼締陶器/大甕	-	-	1.3	紐積成形/胎土:灰色/自然釉	常滑	-	胴部片/井戸4
95	井戸4	焼締陶器/大甕	-	-	1.3	紐積成形/自然釉/矢筈形文様(稜線状)の押印/胎土:灰色	常滑	13c	肩部片/井戸4
96	井戸5	土器/カワラケ	(11.6)	(6.6)	2.6	轆轤成形/胎土:軟質で橙褐色	在地	16c	1/4残存/D14-2
97	井戸5	陶器/碗/天目碗	(8.3)	-	0.6	轆轤成形/鉄釉	瀬戸・美濃	16c	口縁部一部/D14-2
98	井戸5	陶器/碗/丸碗	(11.5)	4.4	6.5	轆轤成形/灰釉/底部火跡れで中空	瀬戸・美濃	16c後半	1/2残存/D14-1
99	土坑6	焼締陶器/甕	-	-	1.0	紐積成形/胎土:灰色	常滑	12c後葉	口縁部一部/8トD6
100	土坑6	焼締陶器/片口鉢	(14.4)	-	0.8	紐積成形/胎土:灰色	常滑	12c	口縁部一部/8トD6
101	溝1	土器(瓦質)/内耳鍋	(28.8)	-	0.9	轆轤成形/外面に煤付着	在地	-	口縁部一部/3トLM
102	溝1	土器/カワラケ	11.8	5.0	2.8	轆轤成形/内面に沈線で渦文/胎土:灰白色	在地	16c前半	3/4残存/3トLM
103	溝1	石器/打製石斧	16.9	11.2	3	石質:輝緑凝灰岩?/568.34g	-	縄文時代	完形/3ト溝
104	溝1	石器/石皿・凹石・板碑?	20.7	10.7	2.2	石質:緑泥片岩/760.18g/穿孔有り、2条線有り	-	縄文時代	破片/3ト溝1
105	溝1	石器/磨石・敲き石	(8.6)	10.5	3.5	石質:安山岩/557.5g	-	縄文時代	一部残存/3ト溝
106	溝6	陶器/卸皿	(14.0)	-	0.4	轆轤成形/灰釉/内面に櫛目	瀬戸・美濃	13c後~14c前葉	口縁部一部/M6・7
107	溝6	石器/打製石斧	(7.7)	5.7	3.8	石質:細粒砂岩/188.1g	-	縄文時代	一部残存/溝6
108	遺構外	石器/石鏃	1.7	1.3	0.4	石質:チャート/0.71g	-	縄文時代	完形/H5
109	遺構外	石器/石鏃	1.4	1.5	0.3	石質:黒曜石/0.45g	-	縄文時代	完形/H2
110	遺構外	金属製品(銅)/銭貨	2.43	2.44	0.13	材質:銅/孔径6mm/重量3.85g/「永楽通宝」/No.110~114は鑄着して出土	明	初鑄1408年	完形/10ト
111	遺構外	金属製品/銭貨	2.45	2.46	0.13	材質:銅/孔径6mm/重量3.08g/「永楽通宝」	明	初鑄1408年	完形/10ト
112	遺構外	金属製品/銭貨	2.52	2.51	0.10	材質:銅/孔径6mm/重量2.91g/「永楽通宝」	明	初鑄1408年	完形/10ト
113	遺構外	金属製品/銭貨	2.45	2.46	0.11	材質:銅/孔径6mm/重量3.0g/「永楽通宝」	明	初鑄1408年	完形/10ト
114	遺構外	金属製品/銭貨	2.48	2.48	0.15	材質:銅/孔径6mm/重量3.65g/「永楽通宝」	明	初鑄1408年	完形/10ト



炉穴 1

- 0. 攪乱
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒・3mm以下焼土少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、3mm以下焼土少し含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒多く・5mm以下焼土やや多く含む
- 4. 黄灰色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く・3mm以下焼土やや多く含む
- 5. 黄灰色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く・3mm以下焼土少し含む
- 6. 黄褐色土 締り強、粘性有、黄灰色土主体に1cm以下ロームブロック多く含む

炉穴 3

- I. 表土
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・1mm以下焼土少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下、最大5mmローム粒・3mm以下焼土やや多く含む、上層より黒色味強い
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調黄灰色味が有る、2mm以下ローム粒・焼土やや多く、1～5mm炭化物少し含む
- 4. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黄灰色土とローム土が混ざる
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土を多く含み、黄褐色味が有る、3mm以下焼土やや多く含む

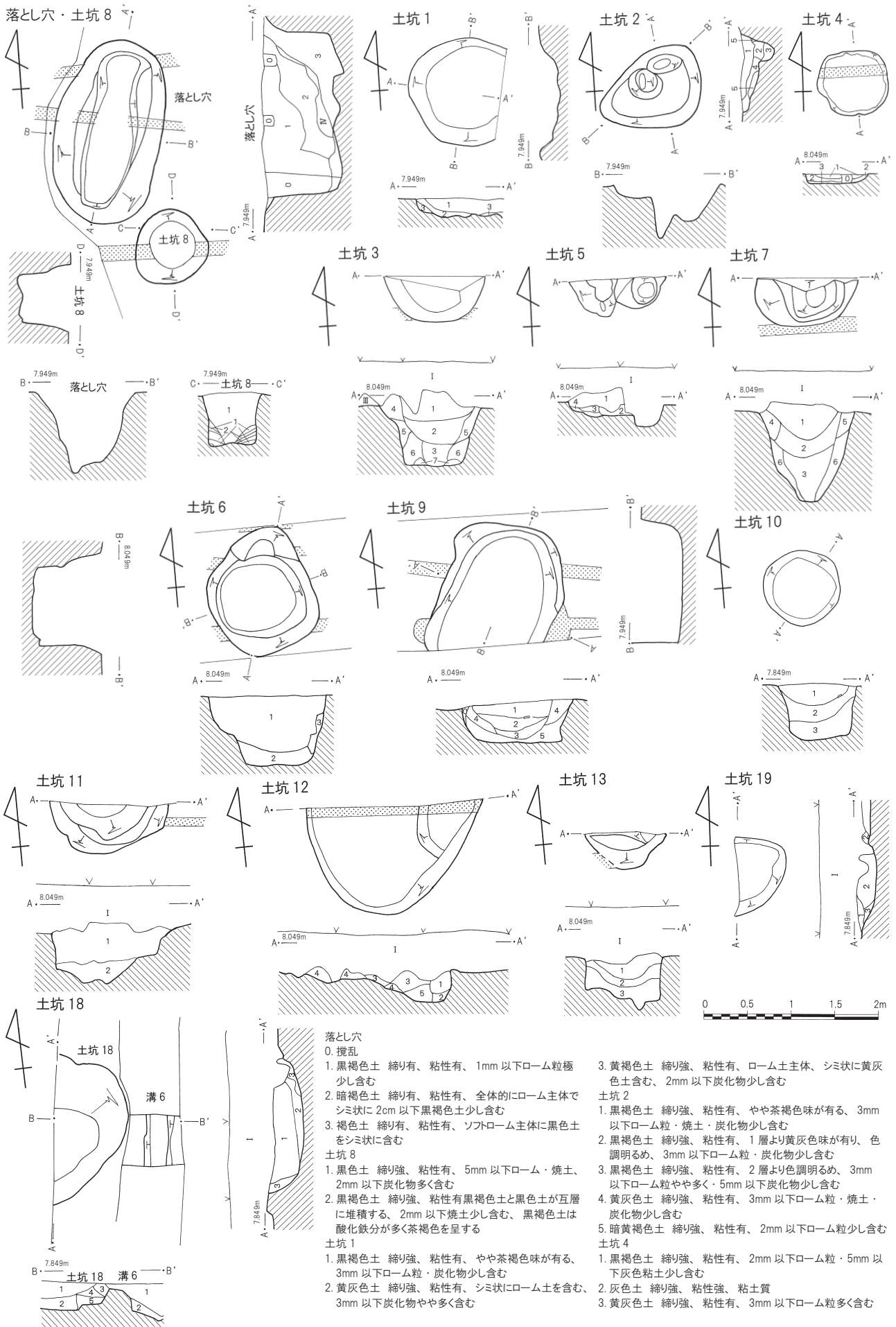
炉穴 5

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒・焼土やや多く含む
- 2. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、5mm以下焼土多く含む
- 3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、3mm以下ローム粒・焼土少し含む

炉穴 6

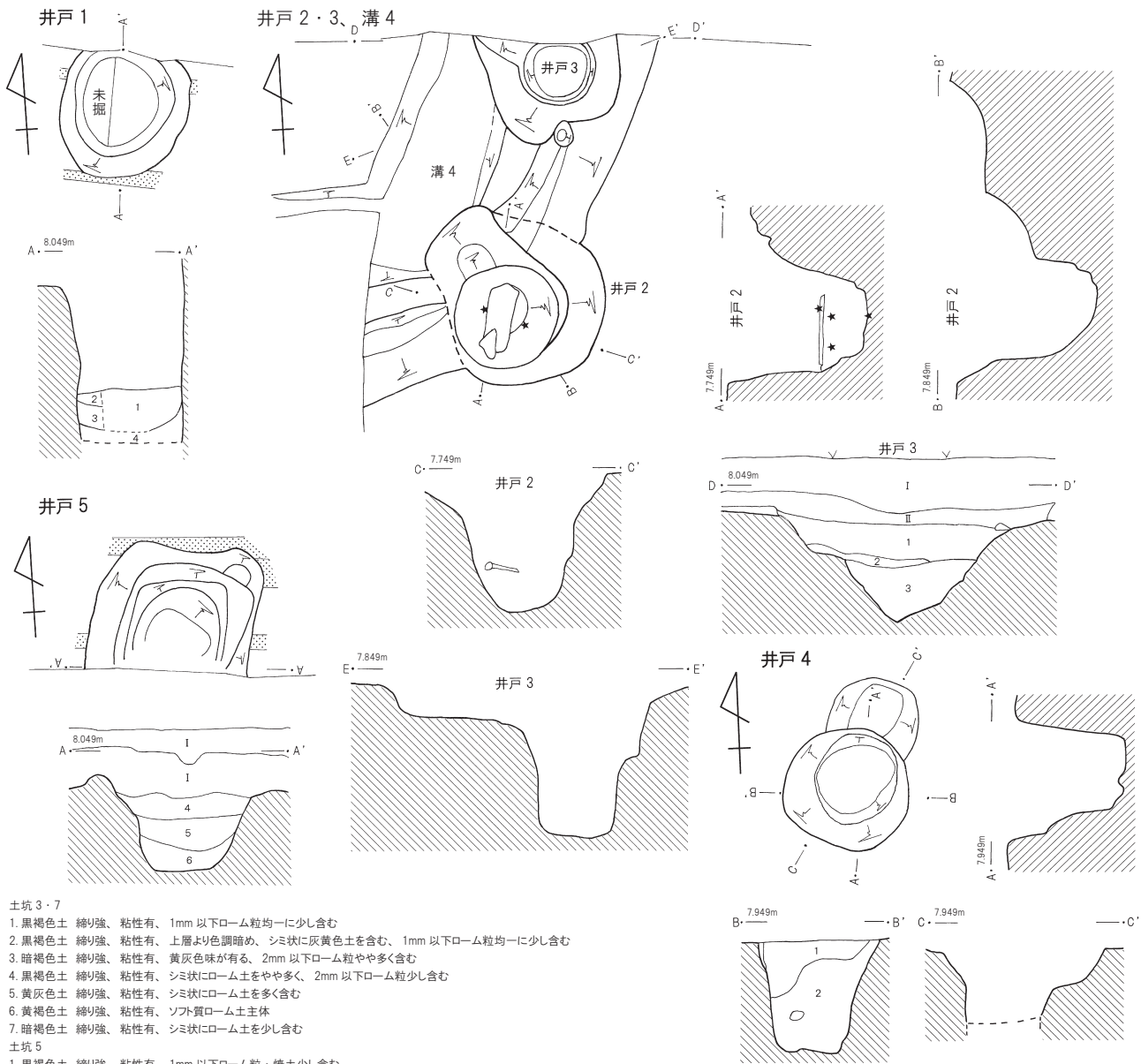
- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1～3mm焼土多く含む、赤褐色味が有る
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1～3mmローム粒・焼土やや多く含む
- 3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、3mm以下ローム粒・焼土少し含む

第34図 長宮遺跡第44地点炉穴1～6(1/30)



第 35 図 長宮遺跡第 44 地点落とし穴・土坑 1～13・18・19(1/60)





土坑 3・7

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒均一に少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より色調暗め、シミ状に灰黄色土を含む、1mm以下ローム粒均一に少し含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味有る、2mm以下ローム粒やや多く含む
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土をやや多く、2mm以下ローム粒少し含む
- 5. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土を多く含む
- 6. 黄褐色土 締り強、粘性有、ソフト質ローム土主体
- 7. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土を少し含む

土坑 5

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒・焼土少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にロームブロックを多く含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状にローム土を含む
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より黒色味強い、シミ状にローム土を少し含む

土坑 6

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロック・粒やや多く含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、青灰色味有る、5mm以下ローム粒・焼土少し含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロックやや多く含む

土坑 9

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒均一にやや多く含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より色調暗め、2mm以下ローム粒少し含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に黄灰色土、2mm以下ローム粒少し含む
- 4. 黄灰色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒多く含む
- 5. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土・3mm以下ローム粒多く含む、上層より色調明るめ

土坑 16

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1~3mm焼土多く含む、赤褐色味有る
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1~3mmローム粒・焼土やや多く含む
- 3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、3mm以下ローム粒・焼土少し含む

土坑 10

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒不均一にやや多く含む、灰色味有る
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より黒色味有る、1.5cm以下ロームブロック・粒やや多く含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より黒灰色味有る、3mm以下ローム粒少し含む

土坑 11

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒少し含む、1cm以下酸化土少量だが目立つ
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰黒味有る、3mm以下ローム粒少し含む

土坑 12

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、茶褐色味有る、5~15mmロームブロックやや多く含む
- 2. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム粒主体、シミ状に黒褐色土含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、茶褐色味有る、3mm以下ローム粒少し含む
- 4. 黄灰色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
- 5. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、地山ロームに似るが、シミ状に黄灰色土を多く含む

土坑 13

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5cm以下ロームブロックやや多く、5mm以下ローム粒多く含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より粘性弱く、2mm以下ローム粒均一にやや多く、3mm以下焼土少し含む

土坑 18

- I. 表土 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む、遺構覆土より締り弱め、色調明るめ
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、2mm焼土僅かに含む、灰褐色味有る
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より黒色味強い、2mm以下ローム粒少し、シミ状にロームブロックを少し含む
- 3. 黄灰色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む
- 5. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黄灰色土主体に3cm以下ロームブロック多く含む

土坑 19

- I. 表土 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む、遺構覆土より締り弱め、色調明るめ
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒少し含む
- 3. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm未満ローム粒やや多く含む

井戸 1

- 1. 黒褐色土 締り弱、粘性弱、5mm以下ローム粒やや多く含む
- 2. 黒褐色土 締り有、粘性有、色調明るめ、5mm以下ローム粒やや多く含む
- 3. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む、上層より黒色味が強い
- 4. 黒褐色土 締り有、粘性有、上層より色調明るめ、シミ状に酸化土・3mm以下ローム粒少し含む

井戸 3

- I. 黒褐色土 締り弱、粘性有、表土、耕作土、5mm以下ローム粒少し含む
- II. 黒褐色土 締り弱、粘性有、表土、耕作土、1cm以下ローム粒多く含む

IV.

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く、1cm大ロームブロック少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒多く、上層にはロームを多く含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に5cm以下灰色粘土多く、5mm以下ロームは少し含む、全体に赤褐色酸化鉄をシミ状に多く含む、1・2層は溝覆土で溝が井戸より新しい

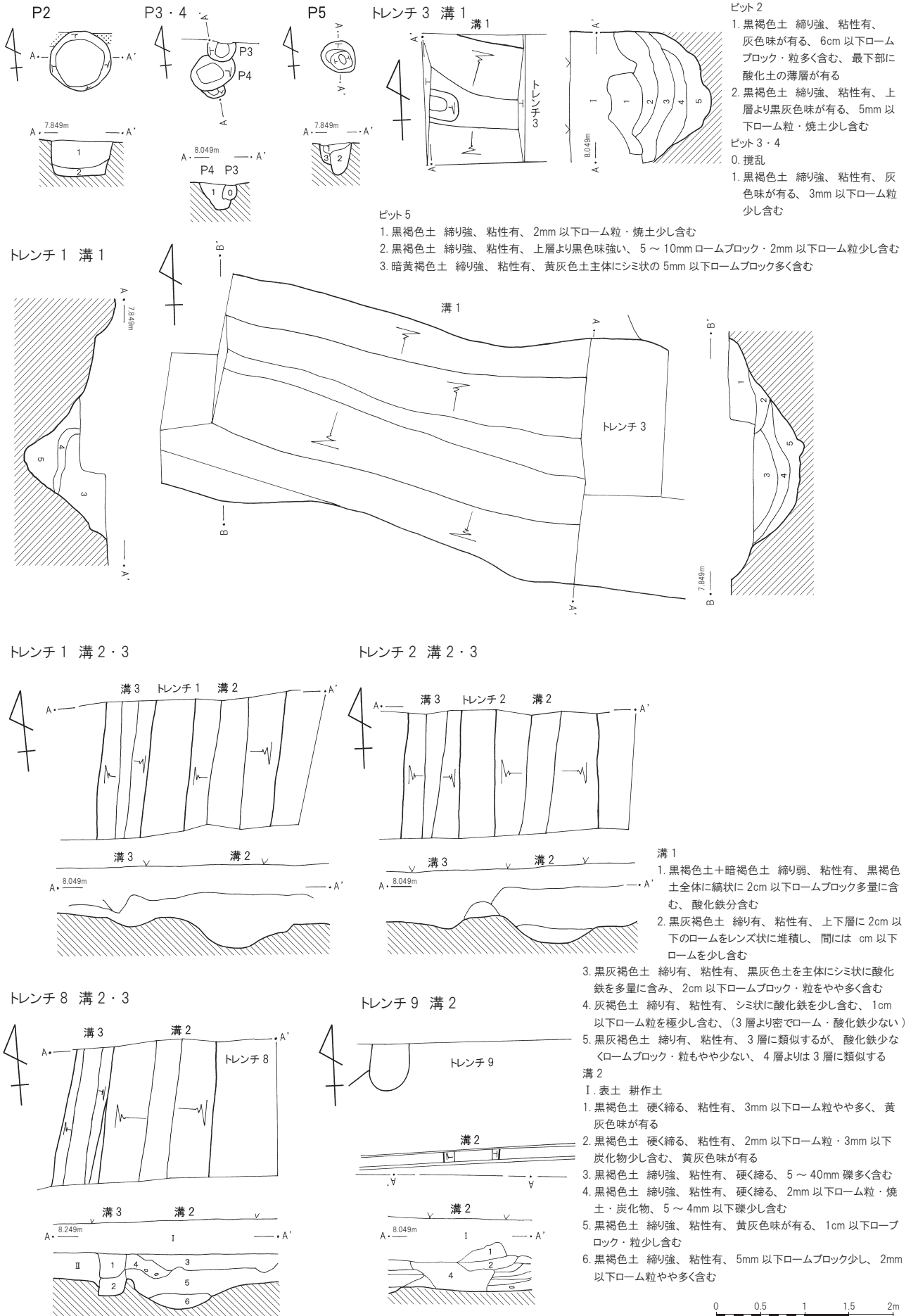
井戸 4

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土粒極少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土粒多量に含む

井戸 5

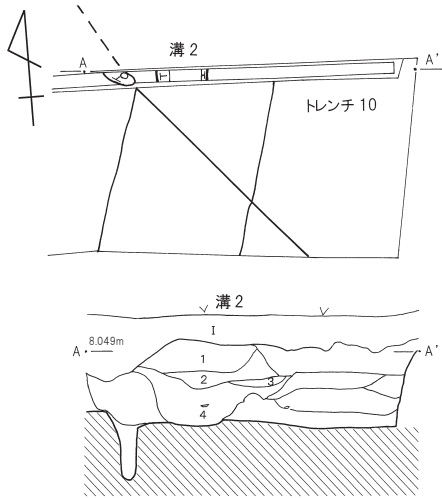
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より締り強め、5mm以下ローム粒・焼土少し含む
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より灰黒味有る、5mm以下ローム粒少し含む
- 6. 黒褐色土 締り有、粘性有、上・下部にローム土やや多く含む、3mm以下ローム粒やや多く含む、黄灰色味がある

第36図 長宮遺跡第44地点井戸1~5(1/60)

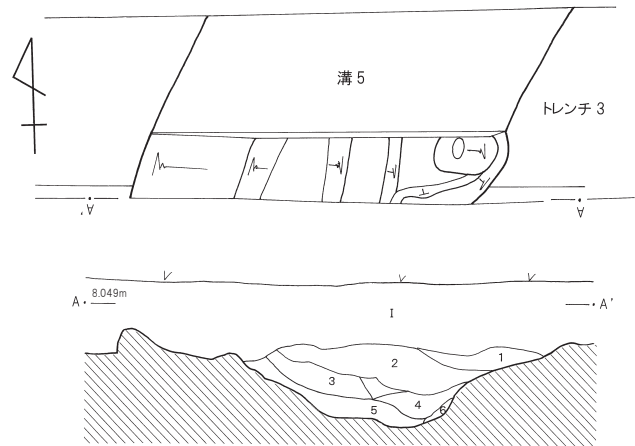


第 37 図 長宮遺跡第 44 地点ピット 2～5・溝 1～3(1/60)

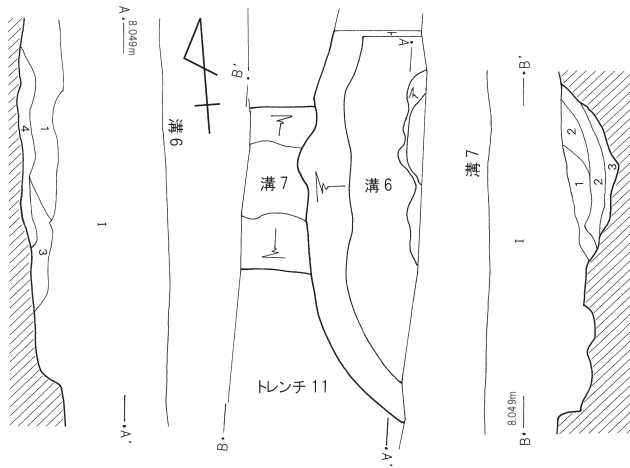
トレンチ10 溝2



トレンチ3 溝5



トレンチ11 溝6・7



溝3

- I. 表土 耕作土
- II. 黒褐色土 粘性やや弱、1.5cm以下ロームブロック・粒多く含む、溝より古い盛土
- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む、ややボソボソしている
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、5mm以下ローム粒やや多く含む

溝5

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5～50mmロームブロック多く含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、5mm以下ローム粒少し含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む、やや灰色味が有る、1cm以下茶褐色の酸化土をシミ状に少し含む
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～15mmロームブロック・3mm以下ローム粒やや多く含む
- 6. 黄灰色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒多く含む

溝6

- I. 表土 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む、遺構覆土より締り弱め、色調明るめ
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロック少し、3mm以下ローム粒多く含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より黒色味強い、5～10mmロームブロック、3mm以下ローム粒やや多く含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、3mm以下ローム粒やや多く、5～20mmロームブロック少し含む
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、ベースの土は上層より黒色味強く、3mm以下ローム粒やや多く、ロームブロックは5～100mmの小～大型のものを多く含む

溝7

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、2mm以下ローム粒少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く含む
- 2'. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調は2層と3層の間色、5～20mmロームブロック・3mm以下ローム粒やや多く含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、上層より黒色味強い、3mm以下ローム粒多く含む
- 4. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに、ロームブロック主体
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロックやや多く含む

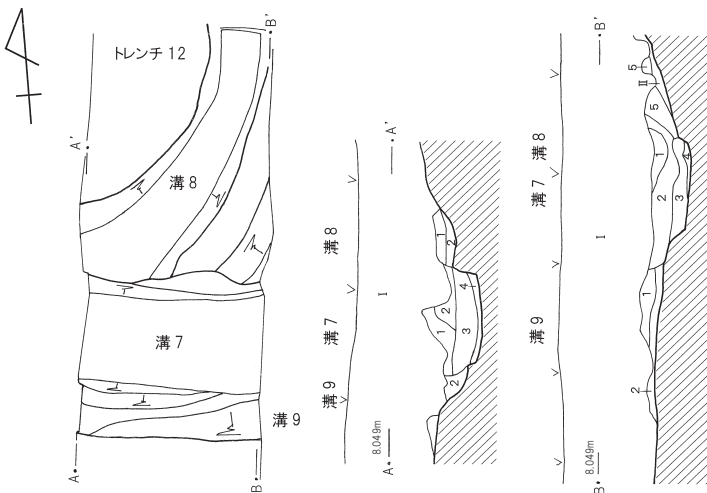
溝8

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調明るめ、3mm以下ローム粒やや多く含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ロームブロック・粒やや多く含む

溝9

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む、溝7の2層より締り強め
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む、溝7の3層より色調明るい

トレンチ12 溝8・9



第38図 長宮遺跡第44地点溝2・5～9(1/60)



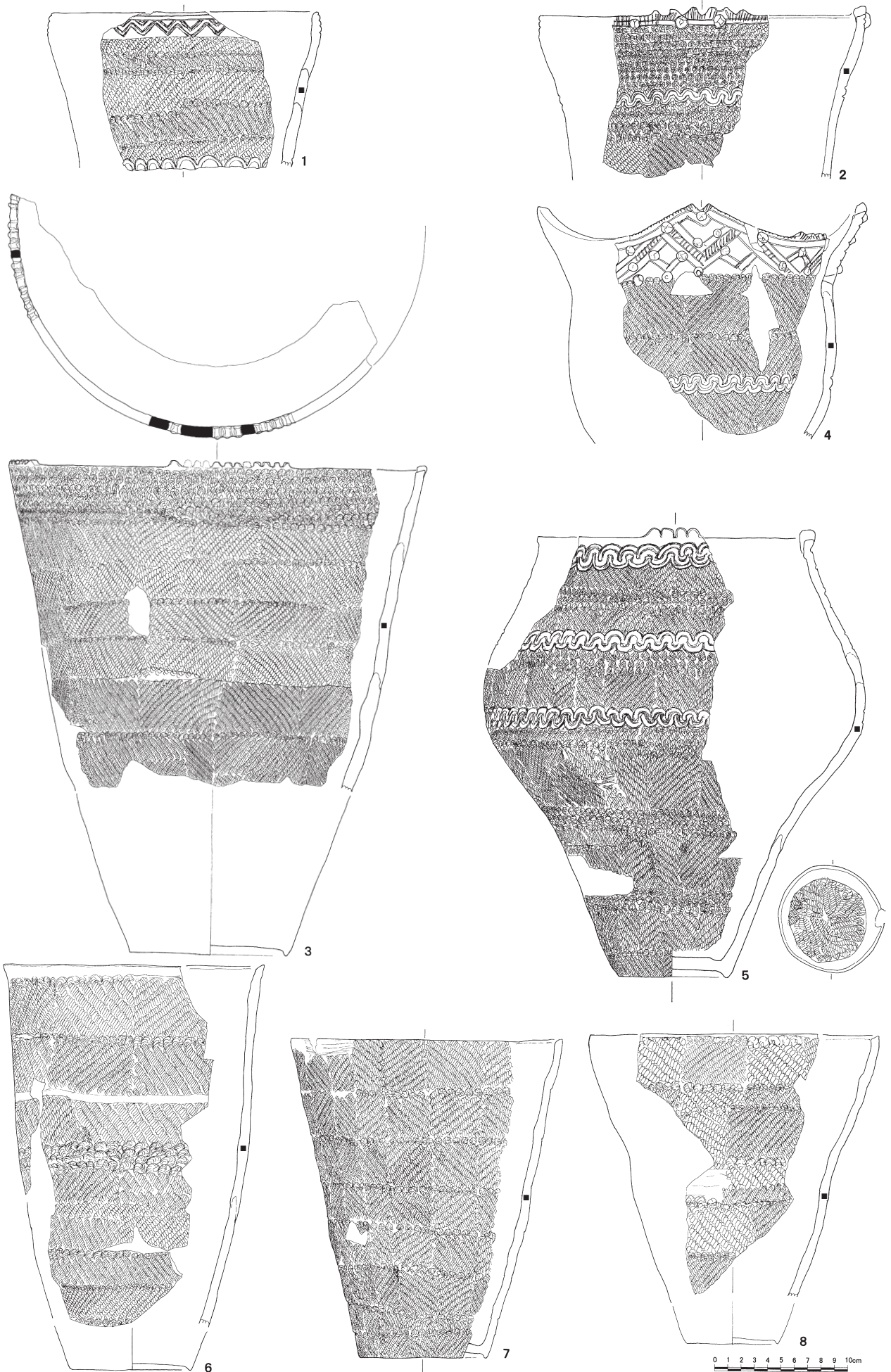
上半の追加、口唇部の小突起、器形の整え→6段の多段ループ→RLとLR(0段2条)羽状縄文の先端はループ。4は二股波状口縁で、口径24cm(現存1/4)。施文工程は、胴部に0段3条RLと同LRによる上端ループの羽状縄文→幅6mmの半截竹管で平行沈線、6本沈線で多重鋸歯文→①胴部中央にコンパス文→②口唇部と口縁部に刻み→鋸歯文の交点を中心に円形粘土粒を貼り付ける。工具の使用の連続性から想定、①と②の順序は不明。羽状縄文は上段と下段で菱形文。5は口径20.7cm(口縁部1/8現存、胴部は1/2～全周現存)。胴部中央下半で追加成形のため羽状縄文が乱れる。口唇部は水平で4個以上の小半円突起が付く。0段3条RLと同LRによる横位の羽状縄文と3段のループ文を交互に施文後、上段に幅7mmのコンパス文3段を加飾。底部に0段3条RLを螺旋状に施文。6は口径19.0cm(現存3/4、底部欠)。口唇部は内剃。胴部下半の羽状縄文は幅が狭く追加成形と思われる。胴部下半は、0段3条RLと0段3条LRで、3段の斜状縄文帯、上部は4段目の一部にLR単節を施文。胴部中央の3段のループ文帯を挟み、胴部上半は0段3条RLと0段の太さが異なる0段3条で菱形縄文と羽状縄文を構成し、縄文帯の幅は下半より広い。7は口径20.5cm(現存1/2)。口唇部は内剃で先端が尖る。0段3条RL、同LRで、縦横の等間隔施文で菱形縄文を施文。横位のループ文で8段の区画とし、最下段の2区分は上段の1区分に等しい。最下段2区分は全体が8区分の意匠と思われる。8は口径19.6cm(現存1/4)。胴部中央が緩く括れる。0段3条LRと0段2条RLにより羽状縄文を施文。上より2段目・4段目の縄文帯幅が、1段目の半分程度で、いびつな菱形縄文。9は口径17cm(現存1/4)。内面下半は黒褐色、上半黄褐色。胎土に灰色・黄色の砂粒と石英を含む。中央上半に追加成形あり。地文は上段より無節RIとLr羽状縄文、2段目・3段目は各々先端ループの無節Lr、無節RI縦羽状縄文。4段目は0段LIの撚戻し。10は口径16cm、底径7cm、器高20cm。中央上半に追加成形があり、一部追加による縄文施文やナデによる無文部分がある。縄文は横羽状縄文が中心で菱形を構成しない。上段・二段目は無節、三段目は幅が狭く単節RIと無節Lr。4～6段目は0段3条によるRLとLR羽状縄文。11は口径18cm(現存1/2)。口唇部に小山形突起が付き、胴部下半に2度の追加成形がある。口縁部に外面から内面に貫通する、径

0.8～1.3cmの補修孔有。縄文帯は上記11の土器と比較すると半分、幅2～2.5cmの幅狭羽状縄文帯である。1～5段はRLとLR単節で横羽状縄文、一部菱形縄文。6段目は0段3条LRと無節RI羽状縄文。下半の7～9段目はRIとLr無節で横羽状縄文、菱形になるかは不明。12は口径18cm(現存1/8)。縦の羽状縄文で、横羽状縄文はない。上段RL、2段目LR単節。3段目0段3条の先端ループのRL。13は口径12.8cm(現存1/4、底部欠)、底径6.5cm、器高11.5cmで最も小形である。胴部中央の無文帯は、追加成形による接合帯。口唇部より2.5cm下方に外面から内面に貫通する、径4～7mmの補修孔有り。上半はRL単節、下半はLRとRL単節原体を結束して菱形縄文に施文。一部にLr無節を施文。14～21は底部が上げ底形態で、色調は茶褐色から黒褐色。14は底径8.5cm現存(5/6)。地文は0段3条RLとLR。上段の羽状縄文は幅広で、下段の5段は幅が狭い。15は底径6cm(現存3/4)、二回の追加成形がある。一つは中央部の3段のループ帯と、もう一つは下の縄文帯の下端である。最下段の成形部は0段3条RLとLRにより施文。その上の追加成形は0段3条に加えて0段2条の羽状縄文を施文。16は底径10cm(現存3/4)、底部より大きく外湾する。0段3条のRLとLRを施文。底部より最下段は横羽状縄文、2・3段目は菱形縄文を構成する。縄文帯の幅は3.5cm。4段目は3段ループ帯を施文、4段目の上下に追加成形の接合痕が著しい。5・6段目は菱形縄文を施文。17は底径9cm(全周)。0段3条RLとLRを施文。縄文帯の幅は3.5cm、最下段の幅は2.5cmで整然とした菱形縄文を施文。縄文の重なりにより器面を逆時計回りに施文。18は底径8.5cm(現存2/3)。0段3条RLとLRを施文。縄文帯の幅は最下段が1.5cm、その上は3.0cmで整然とした菱形縄文を施文。底面の磨きが著しい。19は底径8.5cm(現存1/2)。0段3条RLとLRで、下端より2段目に図示左に特異な縄文を施文、詳細不明。縄文帯は下端より幅1cm、1.5cm、1.5cm、2.5cm、その上は多段ループ帯。20は底径7.3cm(現存1/2)。0段3条RL。下端から上に1.3cmの縄文帯、その上は多段ループ帯。底面の角に沿って施文後、中央に施文。21は底径8.7～9.7cmで楕円形である。0段3条の二本と0段2条の一本を付加し、6区分(下方に図示)の横羽状縄文。22～70は住居覆土層から出土した破片で、型式分類は前後する。22は微隆起に沈線による野島式、裏面に

貝殻条痕を施す。23～26は口縁部直下に太い隆帯が巡る。23は波状口縁で、隆帯上に半截竹管工具を斜めに押し口唇部に刻み、口縁部に半截竹管で波状文を施文。24は風化が著しく、隆帯上に斜めに押捺した工具は半截竹管の可能性が高い。25の隆帯に大きく抉るように押捺する、工具は不明。26の口唇部は水平で角張り、隆帯上の押捺はサルボウなど貝殻の背を横位に押捺したものか。口唇部直下に半截竹管の平行線が巡り、隆帯より上部に半截竹管の平行線による波状文を施文。27は二股波状口縁で、半截竹管による4本の平行線に刻み。貼り付けた正円筒形貼付の上から竹管を押捺する。28は口唇部に半円形突起が付き、半截竹管の平行沈線とコンパス文を、小円形貼付文は3個連なって胴部との区画帯とし、胴部はLR単節斜縄文。29は口唇部の山形小突起が口唇部裏面にまで廻して貼付。半截竹管の平行沈線を廻らし、上部に鋭利な工具で斜線刻みを施す。小円形貼付文を付け、幅8mmのコンパス文を施文。地文はLR単節に細いLRを付加した異節斜縄文。30は口唇部に被せるように蒲鉾状の突起を付け、等分に切り目を入れる。その上には櫛歯状工具で刺突を施す。コンパス文は櫛歯状工具で施文した関山Ⅱ式後半。31～38は小円形貼付文を貼付。31は風化が激しい山形波状の口縁に、半截竹管による平行沈線で半円形の曲線を描く。32は口唇部に山形小突起と箱状小突起を被せ、各突起上に鋭利な工具で蛇腹状の文様を丁寧につける。33・34は半截竹管で4本の集合沈線。35は半截竹管で蒲鉾状の3本の集合沈線を平行に引く。36は半截竹管で、2本の平行沈線で連結半円文を描き、著しく多い円形小貼付文は、貼付に規則性はない。37は半截竹管の平行沈線で菱形構成をとる。38は片口土器の片口下部(受部)、口唇部に小円形貼付文を二重に巡らせ、下に半截竹管の刺突を押し引く。39～41は関山Ⅰ式。39は半截竹管で平行線に刻みを付ける。40は0段3条RLと0段3条LRによる先端ループの羽状縄文。41は幅6mmの半截竹管でコンパス文。42・43・46・48・50は、前期末の土器。胎土に石英等、2～3mmの小砂利を多量に含む共通性がある。42は三角の突起が口唇部に付き、括れが深く口縁部は大きく外湾。口縁部には単節LRと無節RLを結束して羽状縄文を施文。括れ部に結束「S」字状文を二重に施文。43は括れ部上半は無節Lr、下半には無節RLを施文。42・43は胎土に石英の小砂利を多量に含む。46は

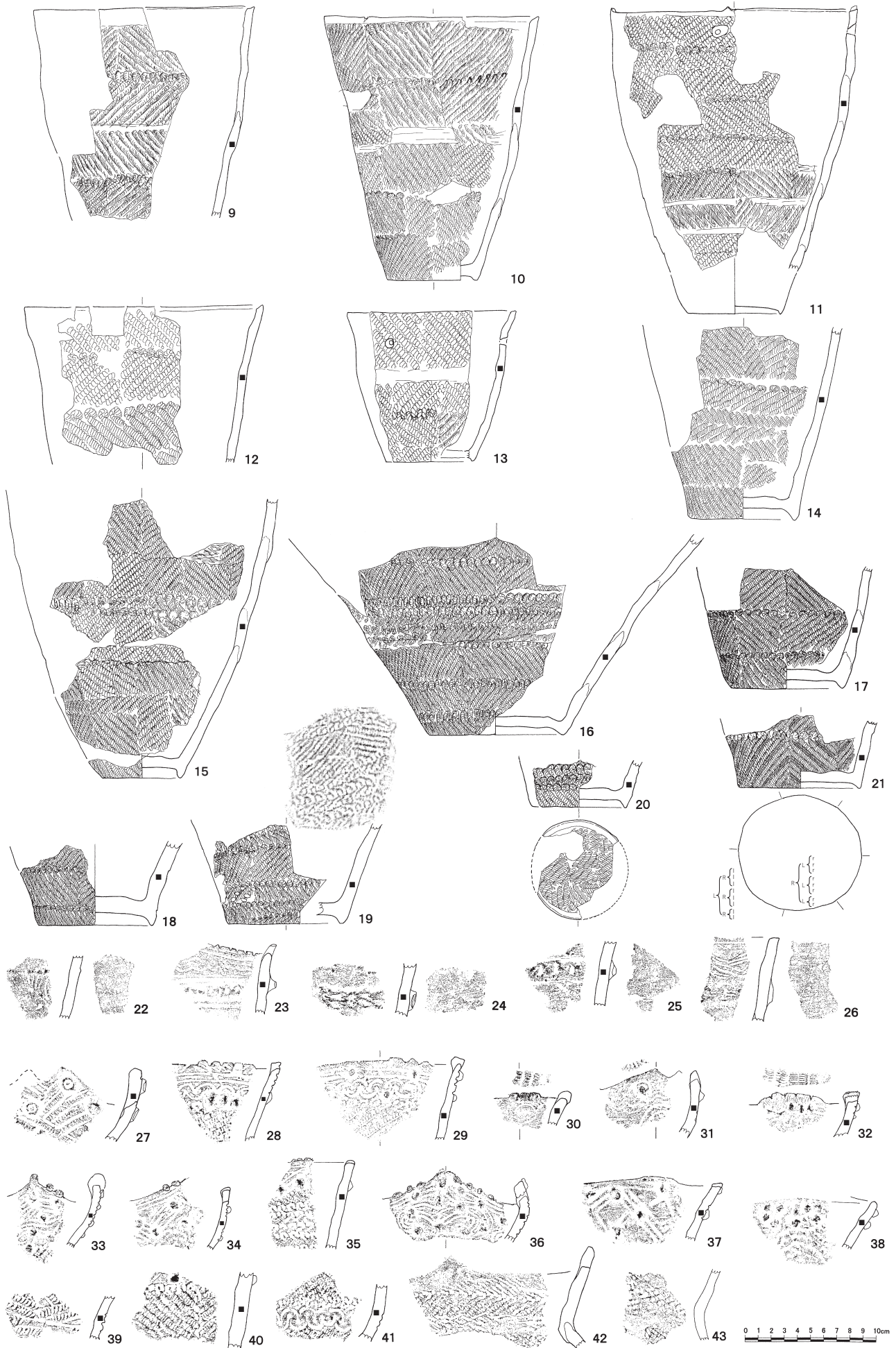
結束羽状縄文。50は器面に浅く単節LRや無節Lrを施文。48は胴部下半から底部で、器面に浅く無節Lrを横回転で施文。44・51・53は関山式。44は胴下半部で、幅狭の羽状縄文。図示上より0段3条RLとLR羽状縄文帯、2段目幅2cmの0段3条LR、3段目幅1.5cmの0段3条RLと単節LR羽状縄文帯、4段目幅3cmの0段3条LR、5段目幅2.3cmの単節LRと0段3条RL羽状縄文、6段目幅2cmの0段3条RL、7段目幅2cmの単節LR縄文帯。51は0段3条LRの多段ループ文帯。53は底部片、下端より幅1cmの単節LR縄文帯、上は幅2.5cmの先端ループLR縄文帯、その上は0段3条RL縄文帯。45・47・49・52・54～58は黒浜式土器。45は図下方に追加成形の接合痕有り。単節のRLとLRを多用。下半の先行縄文に重ねた羽状縄文帯がある。47は正反の合による異節斜縄文。49は単節LRに細いLrを付加。52は貝殻背圧痕文で、早期末か黒浜式。54は頸部に二条の隆帯を貼り付け、上部隆帯の下方から円形刺突文を施す。55も括れ部に付けた隆帯が図示上部に付く。56は単節RLと無節Lrによる菱形縄文。57・58は小形で器厚が薄く、胎土に繊維が混入、57は白い砂粒が多量に混じる。内面は強く研磨され、色調黒褐色で、縄文を施文した痕跡がある。58は刺し切り状沈線。59は色調黄褐色、繊維の混入無し。器厚が3～5mmと薄く、無文で器面は凹凸有り。60・61は諸磯a式。胎土に2～3mmの石英等を多く含む。60は幅3mmの半截竹管で平行沈線を引く。61は櫛歯状工具で集合条線を横位に引く。62～65・68・69は十三菩提式等の前期末。色調茶褐色で結節浮文。63は口縁部で、粘土紐が太いため半截竹管の押圧による粘土のはみ出し、地文に浅い縦に引いた条線痕が有り、やや古い。62・64・68は、粘土紐も細く浮線の半截竹管の刻み押圧による粘土のはみ出しはない。68は外湾する口縁部の口唇部先端を「く」の字状に直立させ、直下に細い結節浮線文を貼り付ける。下には幅7mmの粘土紐を貼り付け円形工具で押圧。69は無節Lrの施文後に粘土紐を貼り付け、丸い工具を1cm間隔で押圧。66・67は幅1cmの折り返し口縁で、胎土の砂粒は精錬され非常に細かい、黒褐色。66は単節RLとLRの結束による羽状縄文。67は非常に細い無節Lrを施文。70は関山式ないし黒浜式土器の破片を利用した土製円盤、風化が激しい。(笹森健一)





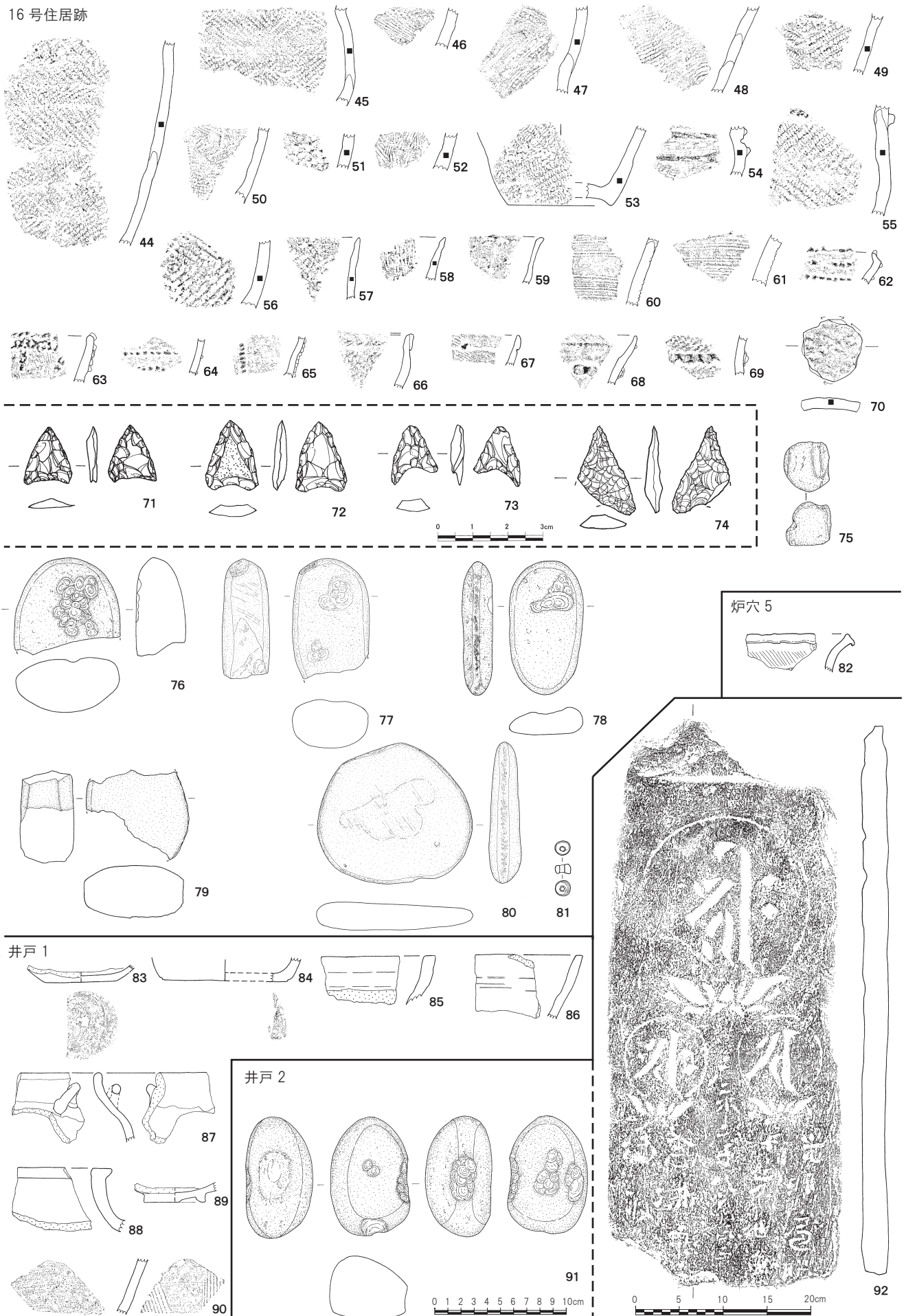
第 39 図 長宮遺跡第 44 地点 J16 号住居跡出土遺物① (1/4)





第40図 長宮遺跡第44地点J16号住居跡出土遺物②(1/4)

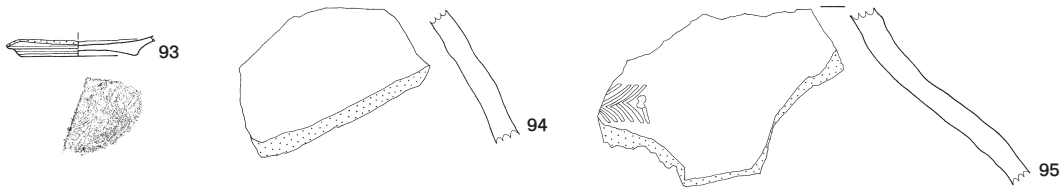
16号住居跡



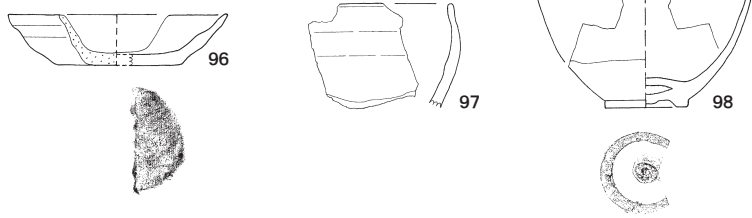
第41図 長宮遺跡第44地点J16号住居跡③・炉穴・井戸出土遺物(1/4・2/3・1/6)



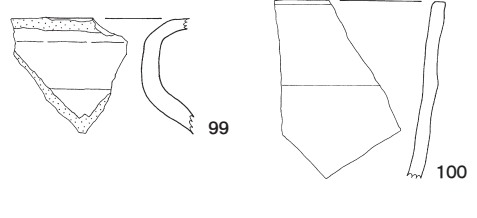
井戸4



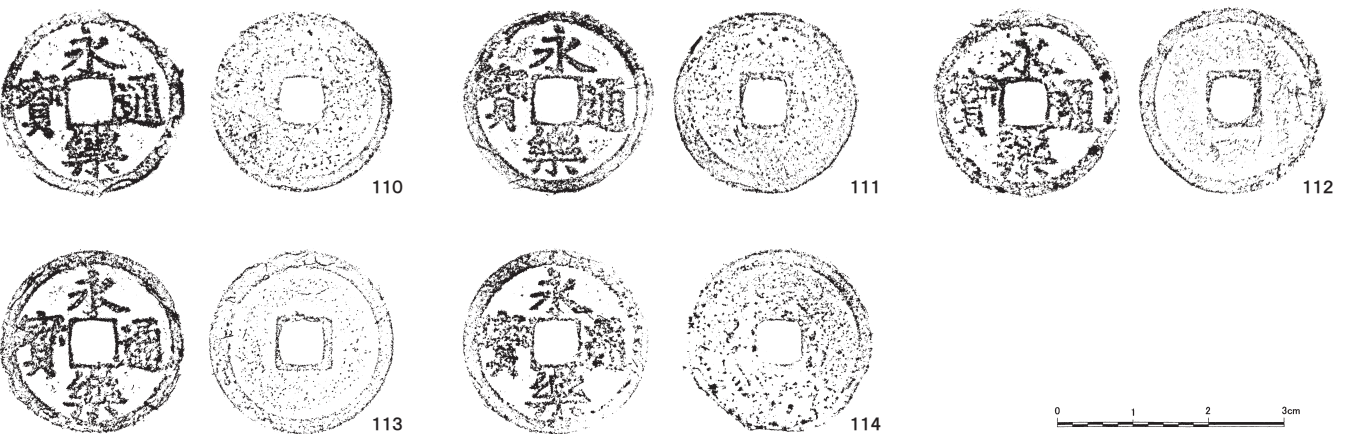
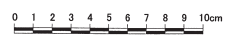
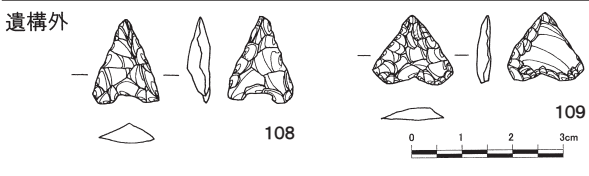
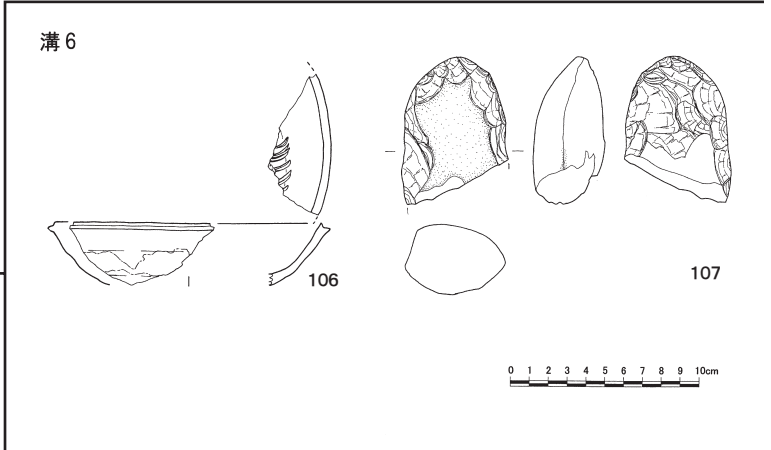
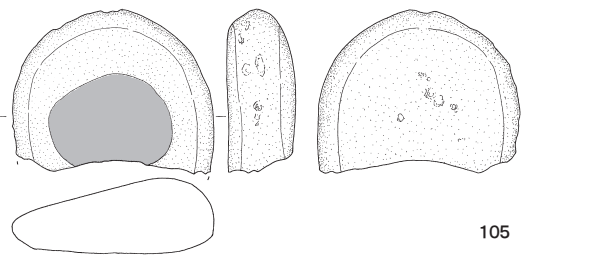
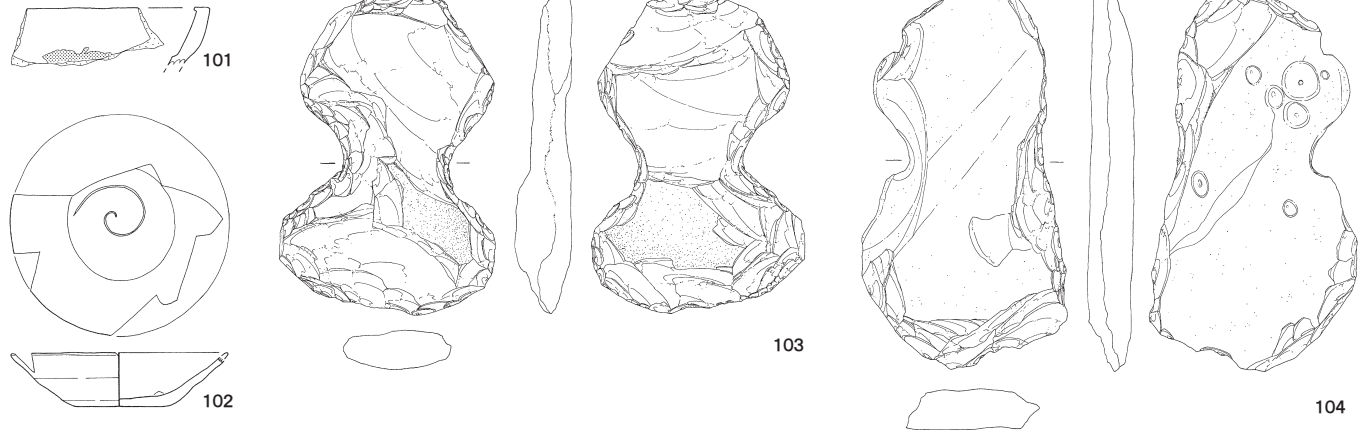
井戸5



土坑6



溝1



第42図 長宮遺跡第44地点井戸・土坑・溝・遺構外出土遺物(1/4・2/3・1/1)



## 附編 自然科学分析

### 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一

Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・黒沼保子

#### 1. はじめに

ふじみ野市に所在する鶴ヶ岡外遺跡から出土した炭化材について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

#### 2. 試料と方法

試料は、木炭窯から出土した炭化材 No. 5 (PLD-25849) 1 点である。最終形製年輪が残存しており、樹種はコナラ属クヌギ節であった。考古学的な所見では、時期は推定できていない。

測定試料の情報、調製データは表 1 のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS : NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた  $^{14}\text{C}$  濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$  年代、暦年代を算出した。

表1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-25849	遺構：木炭窯 試料 No. 5	種類：炭化材（コナラ属クヌギ節） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）

#### 3. 結果

表 2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した  $^{14}\text{C}$  年代を、図 1 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}\text{C}$  年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$  年代 (yrBP) の算出には、 $^{14}\text{C}$  の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した  $^{14}\text{C}$  年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその  $^{14}\text{C}$  年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された  $^{14}\text{C}$  年代に対し、過去

表2 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-25849 試料No. 5	-30.09 $\pm$ 0.13	905 $\pm$ 22	905 $\pm$ 20	1046AD (40.1%) 1091AD 1121AD (13.6%) 1140AD 1148AD (14.5%) 1165AD	1039AD (95.4%) 1189AD

の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、および半減期の違い(<sup>14</sup>Cの半減期 5730 ± 40 年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

<sup>14</sup>C年代の暦年較正にはOxCal14.1 (較正曲線データ: IntCal13)を使用した。なお、1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は<sup>14</sup>C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

## 1. 考察

木炭窯から出土した炭化材 No. 5 (PLD-25849) は、2σ の暦年代範囲で 1039–1189 cal AD (95.4%) であった。これは 11 世紀前半～12 世紀後半であり、平安時代後半～鎌倉時代初頭に相当する。

## 参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337–360.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の<sup>14</sup>C年代編集委員会編「日本先史時代の<sup>14</sup>C年代」: 3–20, 日本第四紀学会.
- Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hafliðason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869–1887.

鶴ヶ岡外遺跡第6地点出土炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

ふじみ野市に所在する鶴ヶ岡外遺跡第6地点の木炭窯から出土した炭化材について、樹種同定を行った。なお、同一試料を用いて、放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、時期不明の木炭窯から出土した炭化材1点である。なお、放射性炭素年代測定では11世紀前半～12世紀後半の暦年代範囲となった。

樹種同定は、目視と実体顕微鏡を用いて、木取りの確認と径および年輪数の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VE-9800）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3. 結果

同定の結果、試料は広葉樹のコナラ属クヌギ節（以下クヌギ節と呼ぶ）であった。木取りは芯持丸木で、直径は1.3～1.5cm、年輪数は10年輪であった（表1）。

表1 樹種同定結果

No.	樹種	木取り	直径	年輪数	年代測定番号
5	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	1.3～1.5cm	10	PLD-25849

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は単列同性と広放射組織がある。

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアベマキがある。材は重硬および強靱で、加工困難である。

4. 考察

木炭窯から出土した炭化材は、広葉樹のクヌギ節であった。クヌギ節は日当たりの良い環境に生育する陽樹で、二次林の代表的な構成樹種である。クヌギ節の薪炭材は、火持ちが良いとされる（伊東ほか、2011）。

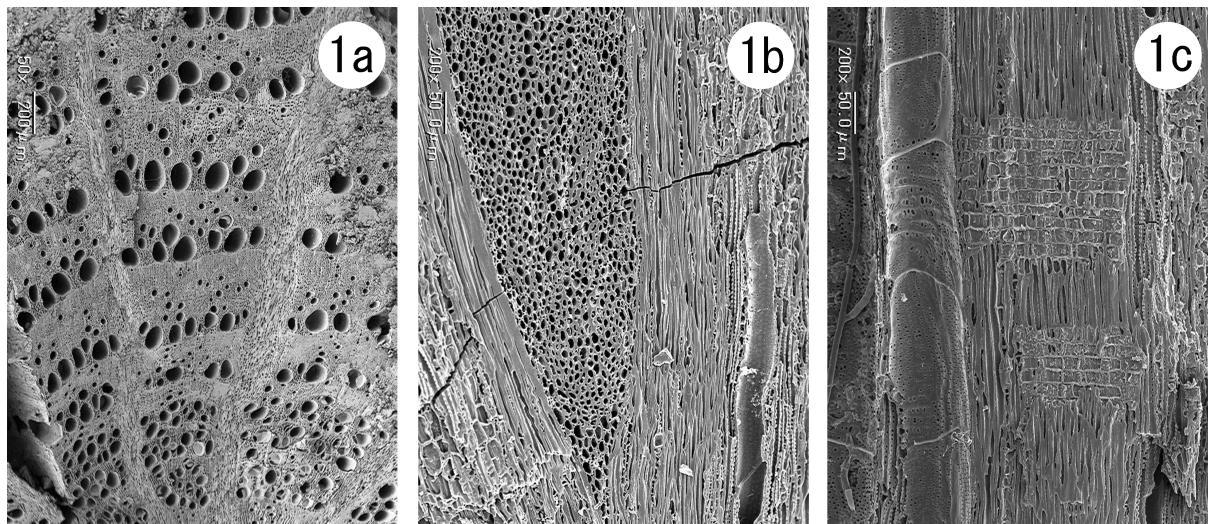
埼玉県内では、(時期)の大山遺跡や猿貝北遺跡の製鉄炉や鑄造炉から出土した、燃料材とされる炭化材で、クヌギ節が多用されていた（伊東・山田編、2012）。今回は分析点数が少ないが、周辺の用材傾向と類似する可能性がある。



## 引用文献

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学—出土木製品用材データベース—. 449p, 海青社.

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌. 238p, 海青社.



図版1 鶴ヶ岡外第6地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. コナラ属クヌギ節 (No. 5)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

## ハケ遺跡第7地点井戸1出土のウマ

中村賢太郎 (パレオ・ラボ)

## 1. はじめに

ハケ遺跡第7地点の発掘調査では、井戸1からウマ (*Equus Caballus*) が出土した。ここではウマの部位同定と特徴観察の結果を報告する。

## 2. 試料

第7地点の井戸1内から、ウマの頭部と胴部～後肢がやや離れて出土した。井戸1の時期は不明である。ウマの骨は周囲の土と共にブロックで取り上げられていた。パレオ・ラボにおいてブロックからの土除去と骨のクリーニングを行った。脆い骨は必要に応じてパラロイドB72を塗布して強化した。

同定と特徴観察は肉眼で行った。観察では、交連状態、切創、病変などに注意した。四肢骨のサイズ計測はノギスと方眼紙で Driesch (1976) に従い行った。臼歯歯冠高の計測は松井 (2008) に従いノギスで行い、歯冠高に基づく年齢推定は同じ松井 (2008) の早見表を用いて行った。骨の計測値に基づく体高の推定は西中川 (1989) の計算式を用いた。

## 3. 結果と考察

同定した結果、確認された部位は、頭蓋骨1点、下顎骨1点、環椎1点、軸椎1点、その他の頸椎3点、肋骨破片10点、腰椎8点、仙椎1点、左右の寛骨各1点、左右の大腿骨各1点、左右の脛骨各1点、左右の踵骨各1点、右距骨1点、右中心足根骨1点、右第3足根骨1点、右第4足根骨1点、左右の中足骨各1点、後肢の左基節骨1点、前後左右不明の種子骨1点である。部位の重複は無く、馬1体に由来すると考えられる。出土状況を確認すると、各部位は解剖学的な正位置をおよそ保っているが、関節が繋がっていると確実に判断できる部位は右足根骨～中足骨のみであった。一方、胸椎が無く、肋骨の数量も少なく、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、中手骨なども認められなかった。頭部～頸部と腰部～後肢があるが、胸部の大部分と前肢を欠いている。切創は確認できなかったが、部位の偏りから、ウマの遺体は解体を経てから土坑1内に置かれた可能性が考えられる。

性別は、犬歯が見られなかったため、メスと推定される。

年齢は、臼歯の咬耗の程度 (歯冠高) から推定した。左上顎第2前臼歯、左上顎第3前臼歯、右下顎第2後臼歯、右下顎第3後臼歯の歯冠高から、13～18歳と推定される。やや高齢と言える。

体高は、中足骨の最大長 (GL) 24.05 cmから、119 cmと推定される。なお、日本の在来馬のうち、北海道和種、木曾馬、御崎馬は体高124～142 cmで中型馬、トカラ馬は体高108～121 cmで小型馬に分類されている (林田, 1974; 久保・松井, 1999)。

腰椎に異常な骨の増殖が見られ、それにより腰椎2点の癒着が見られた。運動にある程度の支障があったと思われる。

## 4. おわりに

井戸1では、体高119 cm程度で13～18歳のメスと推定されるウマが出土した。頭部～頸部と腰部～

後肢があるが、胸部の大部分と前肢を欠いていたため、解体されている可能性が考えられた。また、腰椎には癒着が見られた。

表1 ウマの部位一覧

部位	左右	部分・状態	数量	備考
頭蓋骨	—	ほぼ完存	1	左上顎P2歯冠高:16.8mm、左上顎P3歯冠高:17.4mm、犬歯確認できず
下顎骨	—	ほぼ完存	1	右下顎M2歯冠高:25.3mm、右下顎M3歯冠高:22.8mm、犬歯無し
環椎	—	半欠	1	
軸椎	—	破片	1	
頸椎	—	ほぼ完存	3	
腰椎	—	椎体	8	異常な骨増殖で2点癒着
仙椎	—	1/3欠	1	
椎骨	—	破片	+	
肋骨	不明	破片	10	
寛骨	左	半欠	1	GL:>230mm
	右	半欠	1	GL:>202.5mm
大腿骨	左	遠位端～骨幹	1	Bd:81.6mm
	右	近位端、遠位端～骨幹	1	近位端破断
脛骨	左	ほぼ完存	1	GL:>295mm、遠位端破断
	右	近位端～骨幹	1	
踵骨	左	半欠	1	
	右	1/3欠	1	
距骨	右	完存	1	GL:50.6mm
足根骨	右	完存	1	中心足根骨
	右	完存	1	第3足根骨
	右	完存	1	第4足根骨
中足骨	左	近位端～骨幹、遠位端	1	遠位端破断
	右	ほぼ完存	1	GL:240.5mm
基節骨(後肢)	左	近位端	1	
種子骨	不明	ほぼ完存	1	

## 引用・参考文献

Driesch, A. von den (1976) A guide to measurement of animal bones from archaeological sites. 137p, Peabody museum.

林田重幸・山内忠平(1957)馬における骨長より体高の推定法. 鹿児島大学農学部学術報告書, 6, 146-156.

林田重幸(1974)日本在来馬の源流. 日本古代文化の探求・馬, 215-262, 社会思想社.

久保和士・松井 章(1999)西本豊弘・松井章編「考古学と動物学」: 169-208, 同成社.

松井 章(2008)動物考古学. 312p, 京都大学学術出版会.

西中川駿(1989)古代遺跡出土骨から見たわが国の牛、馬の起源、系統に関する研究—とくに日本在来種との比較—: 昭和63年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書. 鹿児島大学農学部獣医学科.

西中川駿編(1991)古代遺跡出土骨から見たわが国の牛・馬の渡来時期とその経路に関する研究: 平成2年度文部科学省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告. 鹿児島大学農学部獣医学科.





図版1 井戸1出土のウマ

1. 頭蓋骨 2. 下顎骨 3. 環椎 4. 軸椎 5. 頸椎 6. 腰椎 (癒着) 7. 仙椎 8. 左寛骨  
 9. 右寛骨 10. 左大腿骨 11. 右大腿骨 12. 左脛骨 13. 右脛骨 14. 左踵骨 15. 右踵骨  
 16. 右距骨 17. 左中足骨 18. 右中足骨 19. 左基節骨 (後肢)

## ま と め

2013（平成25）年度の埋蔵文化財発掘調査は51件の試掘調査のうち、11件の本発掘調査を実施した。内訳は個人住宅3件、公共事業2件、民間開発6件である。民間開発に伴う本発掘調査のうち、3件を本書に掲載した。開発種別の内訳は老人介護福祉施設建設、宅地造成、分譲住宅建設に伴うものである。本書に掲載した報告のうち、遺跡別に主な遺構と遺物について、問題点や今後の課題についてみてみたい。

### （1）鶴ヶ岡外第6地点

本遺跡では、試掘・本調査合わせて6地点の調査を実施している。これまでの調査で、旧石器時代～縄文時代早期が主体の遺跡と考えられていた。

しかし、今回の調査で11世紀前半～12世紀後半の木炭窯1基を検出し、ふじみ野市内で確認された木炭窯は18基となった。東台遺跡第15地点1基（9世紀前半）、東台遺跡第18地点9基（8世紀～9世紀）、西台遺跡第3地点1基（古代か？）、神明後遺跡第41地点2基（14世紀前半～15世紀前半）、浄禅寺跡遺跡第30地点1基（15世紀前半）、本村遺跡第86地点1基（10世紀）、本村遺跡第111地点1基（15世紀前半）、大井氏館跡遺跡第9地点1基（近代以降）、鶴ヶ岡外遺跡第6地点1基である。

これまでは市域の南部にある砂川、浄禅寺川、富士見さかい川沿いの遺跡で主に検出されていた。これは、東台遺跡第18地点の製鉄遺跡（8世紀～9世紀）、本村遺跡や神明後遺跡の古代～中世の集落跡、浄禅寺跡遺跡の旧寺院跡との関連が深いと考えられる。

市内の他の河川周辺でも、木炭窯の存在が指摘されていたが、北部の鶴ヶ岡外遺跡で発見されたことにより、市内全域にこうした木炭窯が存在する可能性が高くなった。鶴ヶ岡外遺跡の木炭窯は、古代から近世まで、周辺地域の生業や地域史を研究する上で、貴重な資料である。

### （2）ハケ遺跡第7地点

今回の調査で、縄文時代中期3軒と、8～9世紀住居跡4軒の他、縄文時代や古代～近世にかけての遺構や遺物が多数確認された。しかし、依然として縄文時代～古代の集落跡についての全容を知るには、新河岸川の崖線付近の調査が不足している。

縄文時代中期の集落跡は、埼玉県道56号線さいたまふじみ野所沢線の、東側に平行するように位置し、

北側では台地の等高線に沿うように東側に広がる。中期末～後期の加曽利B式や堀ノ内式期では、舌状に張り出す中央部から東側、標高14～15m付近に集中する。縄文時代の集落については、市内の中～大規模集落よりも、苗間東久保遺跡や神明後遺跡などの小～中規模な遺跡との比較研究も必要であろう。また、現在の調査状況では、8～10世紀の住居跡も、縄文時代の集落と重なる点は興味深い。

さらに、本地点整理作業中の2014年7～8月、第16地点の試掘及び本調査で、6世紀中～後半の古墳1基（周溝）から、多数の人物埴輪と円筒埴輪が出土した。詳細は本報告を待たねばならないが、周辺部では6世紀代の住居跡1軒を検出しており、今後の検討課題であるとともに、周辺部の調査にも期待したい。

### （3）長宮遺跡第44地点

長宮遺跡では近年、縄文時代前期関山期の住居跡の検出が相次いでいる。2011年以降は7軒を確認し、うち6軒を検出した。住居跡の時期は関山Ⅱ式期が多く、J16号住居跡も当該期に属する。J16号住居跡の炉について、若干の補足をしてまとめに代えたい。

関山期の住居内の炉には、礫や石器、土器等を再利用して埋設、又は配置する例が多くみられる。隣市の富士見市打越遺跡は関山期の住居跡56軒が確認され、武蔵野台地北部の拠点集落である。打越遺跡14号住居址と224号住居址でも、炉内に礫と土器片を埋設しており、J16号住居跡も同類と言える。

J16号住居跡炉内埋設土器は第39図4・6・8と第41図44で、大型土器片を横位に6重に埋設する。埋設土器は、関山式の古相のものと新相のものがみられる。第39図4は関山式Ⅰ式、同図6・8と第41図44は関山式Ⅱ式とみられ、時間差が生じる。本住居跡の時期は、柱穴の配置から住居拡張の可能性があり、炉内埋設土器の時期と考え併せ、関山式Ⅱ式の古相段階としたい。

最後に、各地権者・開発関係者の皆様には発掘調査から報告書刊行まで、埋蔵文化財に対するご理解と費用負担にご協力いただきました。深く感謝申し上げます。